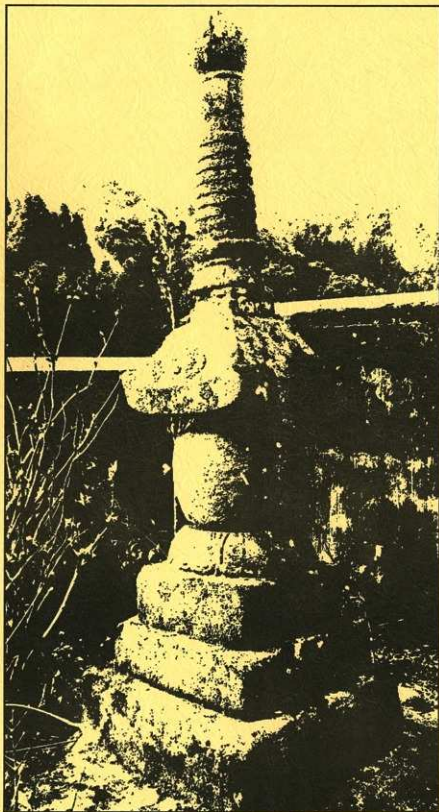


豊後國香々地莊の調査

資料編



大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

1998

はじめに

国東半島莊園村落遺跡詳細分布調査は、昭和五十六年の開館以来、当館が継続して行ってきた調査です。昭和五十六年からは、宇佐宮の莊園であった田染莊の調査、続いて昭和六十二年からは宇佐宮の神宮寺であった弥勒寺の莊園の一つ都甲莊の調査、そして平成五年より都甲莊と同じく弥勒寺の莊園である番々地莊の調査を進めてまいりました。

わたくしたちの眼前に広がるムラそのものを対象としたこれらの調査では、景観もまた古文書や石造文化財などの文化財と同じように歴史の証言者であり、そこに刻まれたさまざまな情報を収集し記録することの重要性を知ることとなりました。しかしながら、諸開発あるいは過疎によって、国東半島のムラの景観あるいは暮らし自体も大きく変貌を遂げ、これまでムラに伝えられてきたさまざまな情報が失われつつあります。そのなかで、ムラの姿を記録していくことは、過去の人々の営みの成果を明らかにすることであり、こうした調査が必要かつ急務であることを改めて痛感した次第であります。

この資料編は、これまで五年にわたって、歴史・考古・地理・民俗・美術史などの各分野から調査してまいりました諸調査の基礎データを整理したものです。ここに収められた諸資料は二十世紀末のムラに伝えられたさまざまな情報の一つの記録として、後世の人々が充分に活用できることを願って編集いたしました。また、これらの資料をもとに、来年度の報告書では、中世の莊園村落の復原を模索してまいりたいと存じます。

終わりになりましたが、これまで五年間、この調査に御協力いただいた地域の方々、番々地町教育委員会をはじめとする諸機関の関係者、種々有益な御提言を賜った調査委員あるいは調査員の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

平成十年三月三十一日

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

館長 首藤安男

目次

I	中世史料補遺	1
II	近世史料	10
III	近代史料	33
IV	寺院関係資料	44
V	小社小堂資料	84
VI	神社関係資料	103
VII	石造文化財実測図	115
VIII	小字・シコナ一覧	132

付図

A-1	明治二一年香々地域土地利用図	一三〇〇〇分の一
A-2	香々地域灌漑概況図	一三〇〇〇分の一
A-3	東夷地区詳細灌漑・地名図	二〇〇〇分の一
A-4	西夷地区詳細灌漑・地名図(1)	二〇〇〇分の一
A-5	西夷地区詳細灌漑・地名図(2)	二〇〇〇分の一

挿図目次

25	竹田津家墓地宝篋印塔実測図	122
24	道園宝篋印塔実測図	122
23	梅松寺宝篋印塔実測図	122
22	影平宝篋印塔実測図	122
21	中村宝篋印塔実測図	122
20	徳丸国東塔実測図	121
19	東智鹿岡東塔実測図	121
18	志太波家国東塔実測図	120
17	天王社国東塔実測図	120
16	吉田家国東塔二号実測図	120
15	吉田家国東塔一号実測図	120
14	五郎丸国東塔二号実測図	120
13	五郎丸国東塔一号実測図	120
12	中山家墓地二号国東塔実測図	119
11	中山家墓地一号国東塔実測図	119
10	靈仙寺国東塔実測図	119
9	樋ノ口観音堂国東塔実測図	119
8	垣副家墓地国東塔二号実測図	119
7	垣副家墓地国東塔一号実測図	119
6	叶瀬観音堂国東塔実測図	118
5	中山観音堂国東塔実測図	118
4	長谷寺跡国東塔実測図	118
3	早田国東塔実測図	116
2	実相院国東塔実測図	117
1	塔ノ本国東塔実測図	116

18	実相院国東塔	124
17	塔ノ本国東塔	124
16	木造阿弥陀如来坐像(長谷寺観音堂)	102
15	木造地藏菩薩立像(中村地藏堂)	102
14	石造阿弥陀如来像(夕下屋敷阿弥陀堂)	102
13	木造聖観音菩薩坐像(大力坊観音堂)	83
12	木造観音菩薩坐像(横吉観音堂)	83
11	如來形立像(龜尾阿弥陀堂)	83
10	如來形立像(六所神社權堂)	83
9	梵鐘(靈仙寺)	82
8	木造阿弥陀如来坐像(靈仙寺)	82
7	木造阿弥陀如来立像(加賀堂)	82
6	方便法身像(三光寺)	82
5	六字名号(長泉寺)	81
4	方便法身像(長泉寺)	81
3	石造無應元帥像(龜尾堂)	81
2	木造釈迦如来立像(龜釈迦堂)	81
1	写真目次	81
26	坊中岩屋宝塔1号実測図	121
27	実相院板碑実測図	123
28	施恩寺板碑実測図	123
29	川原寺板碑実測図	123
30	山神社板碑実測図	123
31	長小野地区小字境界図	152
32	長小野地区小地名図	153

45	山神社板碑	131
44	川原寺板碑	130
43	施恩寺板碑	130
42	実相院板碑	130
41	坊中岩屋宝塔一号	129
40	竹田津家墓地宝篋印塔	129
39	道園宝篋印塔	129
38	梅松寺宝篋印塔	129
37	影平宝篋印塔	128
36	中村宝篋印塔	128
35	徳丸国東塔	128
34	東智鹿岡東塔	128
33	志太波家国東塔	128
32	天王社国東塔	127
31	吉田家国東塔二号	127
30	吉田家国東塔一号	127
29	五郎丸国東塔二号	127
28	五郎丸国東塔一号	126
27	中山家墓地一号・二号国東塔	126
26	靈仙寺国東塔	126
25	樋ノ口観音堂国東塔	126
24	垣副家墓地国東塔二号	125
23	垣副家墓地国東塔一号	125
22	叶瀬観音堂国東塔	125
21	中山観音堂国東塔	125
20	長谷寺跡国東塔	124
19	早田国東塔	124

凡例

1 この報告書は平成五年から開始された国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査(調査地区大分県西国東郡香々地町)の報告書資料編である。香々地町の調査は、田染地区(宇佐宮領田染荘の故地)の調査(昭和五十六年度)昭和六十一年度、都甲地区(弥勒寺領都甲荘の故地)の調査(昭和六十二年度)平成四年度)に続いて行われたものであり、その第三次調査と位置付けられる。

2 調査地区の大分県西国東郡香々地町は、宇佐八幡宮の神宮寺弥勒寺の荘園香々地荘などの故地として、歴史資料にめぐまれ、荘園遺跡がのこされている。香々地町は大字香々地・見目・上香々地・夷・羽根・堅来・小畑から成っているが、このうち、大字上香々地(長小野村分)と夷は、本来六郷山寺院の一つ夷岩屋領であり、中世後半に香々地荘の領域に含まれるようになった地である。また、大字羽根・堅来・小畑は香々地荘とは別個に開発され、本来の香々地荘分ではない。しかし、香々地荘に隣接し、香々地荘と関係の深い地であることから、今回の調査対象地区とした。

3 本書では、学術調査の立場に立ち、可能な限りすべての事実を明らかにしている。しかし、人権問題などの配慮を行った箇所もある。閲覧利用にあたっては、差別的解消、人権問題の真の解決につながる視点を要望したい。

4 本書の執筆は以下のように分担した。

- I 櫻井成昭
- II 豊田寛三・櫻井成昭
- III 櫻井成昭

VI V IV

- 渡辺文雄
- 三角寛市
- 菅野剛宏
- 甲斐忠彦・真野和夫・渡辺文雄
- 山田拓伸・原田昭一・菅野剛宏
- 櫻井成昭
- 櫻井成昭
- 櫻井成昭

5 この報告書の編集は、櫻井成昭が担当した。

6 I の中世史料補遺は、渡辺澄夫編「豊後国荘園公領史料集成 2」に収められた「香々地荘」の史料に対する補遺である。

7 図版・資料の作成にあたっては、安倍佳子・井川泰成・稲熊聖志・牛山一貴・佐藤倫洋・芝崎正則・西村秀一・高橋香織・堀 優子・松田昌夫・山中宏美などの協力を得た。

8 資料調査にあたっては、板井テロウ・櫻本典紀・堀 一郎・芳本清一郎・余瀬信和などの諸氏のほかに、多くの地元の方々に御協力いただいた。また、資料の採訪にあたっては大分県公文書館・大分県立図書館・香々地町役場・香々地町教育委員会・豊後高田法務局に便宜を図っていただいた。

9 史料の翻刻にあたっては、できる限り異体字は真字に直したが、執筆や印刷上の問題で統一していない所もある。なお、虫食いなど、判読できなかつたところは□で表現するとともに、適宜句点や並列点を付した。

I 中世史料補遺

△ 略 解 題 ▽

ここでは中世史料の補遺として、「二十五昧結縁念仏次第」と「舍利講式」、および「雅楽譜」の三点を収載した。いずれも、余瀨文書に所収されている史料である。余瀨文書については、中世の大郷山寺院の一つ夷岩屋に関わる文書群として知られており、『大分県史料 二八』や『豊後国荘園公領史料集成 二』に翻刻・紹介されている。しかし、「二十五昧結縁念仏次第」と「舍利講式」については、奥書が翻刻されているのみであり、「雅楽譜」については未紹介となっている。

これらの史料については、関連する史料もほとんどなく、その歴史的位階付けなどについては不詳な点も多い。しかし、これらの中世大郷山寺院の信仰の在り方一端を示す史料といえ、またこういった講式類などは資料化があまりなされていないこともあって、今回ここに収載することとした。

なお、今回の翻刻にあたっては、「二十五昧結縁念仏次第」と「舍利講式」については、本文のほかに訓点あるいは博士が付されているが、印刷上などの都合から、不十分ではあろうが訓点のみを載せることとなった。まずは、この点について御容赦いただきたいと思う。また、訓点についても、史料上では脱落している所があり、ここでは史料の記載通りによることとした。

以下では、これら三つの史料の概要を簡単に記しておきたい。

二 二十五昧結縁念仏次第

楮紙一五紙を縫いだもので、現況では縦二六・三㎝、長さ四七二・九㎝をはかり、巻子装となっている。ここでは、①地獄、②餓鬼道、③畜生道、④修羅、⑤人道、⑥天道の、いわゆる六道での衆生の苦しみが記され、一段ごとに阿弥陀の名号を称して、六道の衆生に廻向し、ともに極楽に生ずることを述べたものである。

本史料は、恵心僧都源信の撰とも伝えられる「二十五昧式」（恵心僧都全集 第一巻「所収」）とその構成をほぼ同じくしている。「二十五昧式」は、寛和二年（九八六）に比叡山横川首楞嚴院で、毎月一日に修せられた二十五昧会の式次第書であり、この二十五昧会は中世においては諸所で盛行したことから、「二十五昧式」についても異本が多く作られたという。本史料は、奥書に康正二年（一四五六）に記されたという「沙門隆秀書」を書写したと記されており、本史料のもととなった「二十五昧式」の異本ともいえるべき史料が一五世紀半ばには成立していたことがわかる。しかし、この「沙門隆秀」がいかなる人物であるのかなどについては詳らかではないため、これ以上、本史料の系譜をたどることはできなかった。

2 舍利講式

楮紙一〇紙を縫いだもので、現況は1と同じく巻子装で縦二六・四㎝、長さは三七二・八㎝をはかる。①讚如来恩徳、②明舍利分布、③嘆末世神変、④述事理供養、⑤致廻向発願、の五段から成り、ここでは、舍利を末世にのこしたの積運の慈悲であり、その舍利を供養すれば末世の衆生は、計り知れない福を得て、仏道を成就することができる」とされて

いる。

この「舍利講式」については、字句の若干の異同はあるものの、内容構成を同じくするものとして、嘉元三年（一一三〇）書写の唐招提寺本あるいは康永四年（一一四五）書写の大和西大寺本などがある。こうした一連の「舍利講式」は、建仁三年（一一〇三）の唐招提寺における釈迦大念仏会の折に、解脱房貞慶が草した願文と近似するものであり、こうした「舍利講式」もほぼ同時期に作成されたと考えられている。名文の誉が高かったという解脱房貞慶の撰述になる「舍利講式」は、中世には広く流布していたというが、それは九州にも広がっていたことが、この余瀨文書所収の「舍利講式」は示しているといえよう。

ところで、本史料には奥書があり、「徳万坊住学秀依所望、雖為悪筆、不顧人口之嘲任本書写之、若有一字誤有者、以他本可被改善也」とある。ここに見える徳万坊（奥岩屋の末坊）に住する学秀なる人物は、前掲の「二十五三昧結縁念仏次第」の奥書「文龜三年癸亥知月晦日書写畢学秀」に見える学秀と同一人物であることが、筆跡などより知ることができ、この学秀に関しては生没年などが不詳であることから、本史料の正確な書写年代も詳らかではないが、「二十五三昧結縁念仏次第」と同じく一六世紀前半頃の書写になるものと想定できる。ただし、書写の過程などについては、現在の所明らではない。

3 雅楽譜

柘紙五紙を縫いだもので、現況は縦一七・八cm、長さ一五二・九cmをはかり、卷子装となっている。五常楽、千秋楽、白柱、採桑老、越殿楽の五つの雅楽についての譜が記載されている。本史料は竜笛の楽譜と見られ、雅楽に関わる史料として注目されるものである。

三

以上、収載した三点の史料について、簡単にその概要を記してきたが、なお不詳な問題も多い。例えば、「二十五三昧結縁念仏次第」や「舍利講式」をそのまま、それぞれ安貞二年（一一二二）の年紀を持つ「六郷山諸勤行并諸堂役祭目録写」（長安寺蔵、以下「安貞の目録」と略する）に見える、往生講（毎月一日に行われたという）あるいは舍利講の折に誦まれたものと見てよいのかどうか。また、「安貞の目録」では、奥岩屋では往生講も舍利講も行われておらず、いかなる理由をもって奥岩屋の末坊の住僧がこれらの史料を書写したのかなどが挙げられよう。これらの問題を追及していくことは困難を伴うであろうが、いずれにしても中世六郷山寺院の歴史について、能う限りの情眼面から追及は必要であり、今後の課題としたい。

〔付記〕史料の翻刻などにあたっては、西山厚氏（奈良国立博物館）・

佐伯俊源氏（大和西大寺）の御教示・御協力を賜った。記して謝意を表したい。

1 二十五三昧結縁念仏次第

○余瀨文書

二十五三昧結縁念仏次第

先導師登礼盤取香呂 二行

當願衆生 得無尊眼 見一切佛 唯願如來
哀 慙我 常念得見 大悲身 三業元倦 奉仕尊
速出生死 請真際

次三礼

一切恭敬 自皈依佛 當願衆生 鉢那大道 發元上意 自皈依法
當願衆生 深入緣藏 智惠如海 自皈依僧 當願衆生 統理大衆
一切無導

次如來唄

如來妙色身 世間無与等 元比不思議是故今敬礼 如來色無盡
智惠亦復然 一切法常住 是故我皈依

次表白

敬白、三身即一釈迦牟尼如來·極樂化主無量壽佛·十方三世諸佛·普近
弥陀觀無量壽等、諸大樂經八万十二權實聖教、普賢·文殊·觀音·勢至
等諸大菩薩、身子目連、迦葉·阿難等諸賢聖衆、都佛眼所到微塵刹土現
不現前三寶殊極樂淨土一切聖衆而言、夫往生極樂教門濟度苦海舟楫也、
念佛三昧行業濁世到岸之津梁也、但念佛三昧其レ有二途、一者身常行為
儀、口誦小阿弥陀經、有引聲有短聲、或七日或一日、是則法道和尚模極
樂世界法音、和曲調於漢土之誦經、慈覺大師傳苾芻山之引聲、殘音讀於
叡岳之行法、始從四明流傳一天、二者心念弥陀色相口唱彼佛名号、完散
同頌淨業集念其名念佛、方今尋釋教此式修一夜三昧、種六時六奏之極王、
一夜唱敬通念佛、行業兼兩門善根通二種、先賢之所令實可有深意、願因
此一夜之堂修、必得彼九品之妙果、引導世人息所拔濟、生人師支同生一
佛之淨刹、共證万德之妙果、以之為此行旨趣

次惣礼頌云

願以比物德 普及於一切我等與衆生 皆共成仏道 敬礼十方三世佛

釈迦阿弥陀向三尊 八方十二諸聖類 恒沙願敬諸塵衆 還念本誓衆影向
百界衆生誓願度 五重煩惱誓願斷 四門道品誓願知 三菩提果誓願證
堅持莫犯□一切

次從礼盤下散華束送引 奉請次經學合歌三返

次廻向

我等所修念佛前 廻向極樂弥陀佛
哀愍接受願海中 消除業障證三昧
天衆神祇增威光 願所三聖增法樂
七世見所生極樂 聖朝安穩增安壽
天下安穩興正法 十方施主除災患
念佛我等成悉地 命終決定生極樂
面奉弥陀極覺尊 菩提行願不退轉
引導三有及法界 同一生故證菩提

次礼拜

南無西方極樂世界大慈大悲阿弥陀如來_{三反} 南無命終決定往生極樂_{三反}

次讚頌礼拜

同頌第十二礼等_{三礼}

稽首天人所恭敬 阿弥仙阿足尊

在彼微妙安樂園 無量佈子衆團遶

金色身淨如山王 眷摩他行如為步

兩目淨若青蓮華 故我頂礼弥陀尊

次調聲座礼拜諸衆復本座可六道尺_尺佛卷一_道須以爲他人訂助此後敬

夫五更眠路方文床閉、情憶輪迴苦五內誠無聊、彼流來生死以降輪転六道
之間、善惡夾雜受報不定、其中難忍者地獄之苦也、難堪者鬼畜報也、凡
三界獄縛無一可樂矣

先嘗地獄者、鐵城固閉熱鐵為地、猛火洞燃四面充竄、雖樂清涼之風火焰

來而燻骨，雖求冷泉之水，鑊湯而親身，泣而淚不落，猛火滿眼，故叫而聲不出，鐵丸入喉，故極熱叫喚之悲，黑繩衆合之患，斫判磨極之苦，刀山劍樹之惡，是則曠惡煩惱殺生之由來也，唯有智覺聞之不生悲心哉。經云若人修善根，有大光明照地獄，光中說妙法，引道受告諸衆生云々，如來誠言可仰可信，如并州道如法師者，為救三途衆生，一千日間行誓咒陀，遊感夢告，炎王送候現咒陀夢像，入地獄中放光說法教化罪人，令離苦得樂，何道如令千日之折誓，早放濟三途衆生，何我等勸一夜之精勤，不敢八獄罪人，願無熱大焦熱之中紅蓮大紅蓮之底放透照之光明，速獲受苦之衆生，大眾同心可唱咒陀室号。

次一心合掌于聲念佛，但反數多少可隨早晚。
次禮拜三反，南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛。

讚頌禮拜

面帶円淨如滿月

威光猶如千日月

譬如天鼓俱迴響

故我頂禮亦陀尊

觀音頂戴冠中住

種々妙相至莊嚴

能伏外道魔驕慢

故我頂禮亦陀尊

次觀鬼道者，枯渴憔悴喉子息，飢飢憤憤，醉助助命，百菓結林將取悉刀輪也，万水入海欲飲，皆猛火也，山野雖寬憂休無處，人天雖多樂食不與，是極饑寒同放逸果報也，此鬼類或在山野海邊，祠祀修善之期，依施願之力預徵少之食，以自存活，定知每迎每月今夜，來臨比爾希求飲食，聽聞法音，然則外与甘露之上味，內管解脫之法業，忽離苦得脫還，為護法善神，仍大眾同心唱咒陀室号，彼鬼類共備往生之直且。

次念佛禮拜如常南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛。

第三卷 次將如前 讚頌禮拜

無比無垢廣清淨 衆德深廣如虛空

所作利益得自在

故我頂禮亦陀尊

十方名聞菩薩衆

無量諸賢讚嘆

為諸衆生願力住

故我頂禮亦陀尊

次言善生者，其兒千品大小夾雜，互相噉食，更無所知，諸根不具唯有肉身之類，鬻鬪無足短軀服行之族有身有苦，有心有憂，飛蛾着火色身，故地獄鐵網捨命，癡闇誠深本覺无道，飛空鳥不知天高，遊河之魚不覺水深，山鹿野鹿猶迷東西，猿猴猿類不辨昏曉畏哉，悠悠生死輪迴無終盡，茫茫苦海出離何時，梵網經云見一切畜類，唱汝是畜生發菩提心，人師尺此文云，設無領作法音入毛孔，遠作菩提之緣云々，并州鵲鳥聞妙法受人身，雪山野干近道人以開悟，仍以今日轉根拔濟彼群顯。

第四卷 次將如前 讚頌禮拜

金底宝間池生華

菩提所成妙寶

於彼座上如花生

故我頂禮亦陀尊

顯現神通至安樂

聽仰尊顏常恭敬

故我順禮亦陀尊

十方所來諸佛子

次言修羅者，常含嗔毒，鎮懷怨毒，与天帝釋，屢侵喜見城，或時擄彌山或時把日月輪，然為天帝軍被摧破時怖畏万端，夫諸佛如來慈悲為心，若提薩地柔和為本，凡衆重皆是本覺如來當成世尊也，相向可恭敬，云何可生嗔心，是以不輕大士敬礼四衆，惠門導師不越蟻蟻，况一念瞋惡燒俱屈劫之善根，剎那怨害招無量生之善根，損自損他滅身口命，只是瞋惡所感也，各々住慈悲平等之心，可唱咒陀室号。

次念佛 禮拜如常 第五卷 次將如前

讚頌禮拜

諸有無元我等

亦如水月電影露

為衆說法無名字

故我頂礼弥陀尊

彼尊無量方便苑

無有諸趣悉知識

住出不退至菩提

故我頂礼弥陀尊

次言人道者，此身常不淨穢穢滿其中，內有生熟臟，外相覆皮膚，唾汗常流出膿血恒充滿，如是屍穢身猶如朽城廓，日夜煩惱逼邊，無暫停息，愚夫常愛樂智者無染著，大經云一切世間生者皆痛死，盛者有必衰，會含有別離，無有法常者，東岱前後之煙便是常沒之也，朝語夕語之輩比芒，新舊之露寧非遠聞近見人耶，理世常樂時有心者，尚厭之末法濁亂之今依何堅執之，何況人身難受佛法難遇，今宿因多幸已具諸緣，出離生死之計，只可在今時而深食者名利不厭生死，鎖拘牽愛欲無修淨業，頭戴銷營心染俗塵，一生豈盡希望不竭，我等適則頭不刺心，染衣不染心常念世俗事，假名何諫若，破戒之過遺越白衣，可恥々々可悲々々，雖然万德備一心欣求可得三字，納諸法十念成就諸衆，發猛利之心，可唱弥陀宝号

次念佛

礼拜如常

第六卷次第如常 但爾間次可用讚頌

讚頌礼拜

彼尊佛刹無惡名

亦無女人惡道怖

衆人至心敬彼尊

故我頂礼弥陀尊

我說彼尊功德事

衆善無邊如海水

所獲善根清淨者

以共衆生彼因

次言天道者，非相八万尚遠必滅之憂，欲界六天未免五衰之悲，喜見城之勝妙樂，中間禪之高臺閣，只是夢中果報幻間快樂也，苦哉，三界火宅恒住處，四生哀變非希事，流転無窮如車迴旋，昇沈不定，似鳥林遊奕，龍樹菩薩云世間如車輪，時變如車輪，人亦如車輪，或上り而或下り，今影向天衆者，親觀聞法音，他方冥衆遙隨喜善根，依此廻向依此功力，早遊

法性之虛空，同願本覺之月，速照生死之長夜，併覺妄想之夢，大衆同心唱弥陀宝号 廻向彼天衆

抑此一緣衆中，若早世之輩故攝一念之妄心，未出三途故羈，依每月祈誓功，可達淨土菩提，夫於身作三罪，殺生偷盜邪淫者於口造四罪，妄語綺語惡口兩舌也，於意造三罪，貪欲瞋惡惡病也，於此十惡上品犯者墮地獄道，中品犯者入餓鬼道，下品犯者墮畜生道，不止三品之罪者，誰免三途之報哉，而我等十惡盛行三途無疑業障，尤當往生何處，文云極重惡人無他方便唯稱，弥陀得生極樂云云，幸遇弥陀之善巧，誰不拂頭感化功帶已故，自他共得益，彼此同生淨土，大衆住無違平等之心，可唱弥陀宝号

次念佛

礼拜如常

次可奉礼大恩教主釋迦大師

敬礼天人大覺尊恒沙福智円滿 回因果備成正覺任壽疑然無去來

南無恩德廣大衆運牟尼如來

次可奉礼三世諸佛

聞法歡喜讚嘆乃至發一言則為以供養一切三世仏

南無十方三世一切諸佛

次重可奉礼拜弥陀如來

願我臨欲命終時 盡除一切諸障障

而見彼佛阿弥陀 即得往生安樂國

次可奉讚嘆淨土莊嚴

觀彼世界相勝過三界道究竟如虛空廣大無辺際

南無四十八願莊嚴淨土池宝閣決定往生 三反

彼佛土菩薩具足諸相好皆自在嚴身我今痛命礼

前次可奉恭敬一切衆衆

南無九品蓮台一切聖衆臨終正念決定來迎三反

六道講式

夷山德万坊學秀私本也

千時康正二天丙子七月十二日

沙門隆秀書

文龜三年癸卯月晦日書寫畢

學秀

右雖無極惡事關任本寫畢

六郷兩子山僧坊似書

2 舍利講式

○余瀆文書

舍利講式

先德礼

次登高座坐三 次法用

敬礼天人大覺尊

恒沙福智皆圓滿

因因果滿成正覺

住壽雖然無去礼

敬白、同體別緣一切三寶而言、夫釋尊恩德廣大無邊、無量億劫、誰能報謝我等近三寶、善一善、皆答世尊難思之善巧、欣安養望知足、又教主慈愍之遺誠也、諸佛之中獨尊本師、發心究竟莫不彼恩、嗚呼聖容早臨雖隔給仕於四十五季之月、遺骨永傳、猶貽利益於萬二千歲慶、既云尊鉢何異生身、得之掌中悲喜共深、方今朝敬奉敬之志、苟効阿難之舊儀、一色一香之供拉抽能陀之普誠、因述礼讚彌期引導、稱揚旨趣、仍為五門、一讚如來恩德、二明舍利分布、三嘆末世神變、四述事理供養、五致廻向慶願也、伏願世尊哀愍納受矣

第一讚如來恩德者、夫釋尊出世濟度眾生、為三界於吾有、撫四生於一子、覆以無緣之慈雲、降以平等法雨、三草普種依此滋潤五乘勝果、為之生長

五百大願廣救苦海、其願未滿微塵粟、三千世界皆捨身命、其地無空芥子隙、積功累德已成正覺、凡諸佛菩薩慈悲本誓常樂樂、互雖無勝劣、釋迦大師難行苦行是猶餘聖之所不及也、我等久遭劫間、若不蒙世尊之調伏、生死夢中爭得生一念覺悟、不見空容不開梵音、雖滿在世正機、遂于靈敏逢舍利、已烈滅後之遺弟、何況聊信因果理、刺得比丘名、出離之遺道只在我心、根熟之運速、敢非佛名、平等慈悲於誰為難、經云一切眾生受苦、即是如來一人苦、譬如父母之念病子云々、悲歎、依我等罪障、無端生如來之苦惱、不孝之責悔而有餘、然則世尊更無他念、只欲救眾生、我等又迴何謀須隨順佛情、是真實孝子最上報恩也、仍大眾同時隨喜佛恩、先唱伽陀可行礼押矣

若佛不出於世間 一切有情受大苦

即無天人唯惡趣 但聞種々苦音聲

正覺法王育我等 飲我法乳長法身

唯願法寶舍利光 令我解脫三有苦

南無大恩教主釋迦如來生々世々值遇頂戴三反

第二明舍利分布者、一花春養、雙林雲燄、世界暗冥、福田雖乾、大悲深重之餘、猶感滅度之生、無相涅槃之中留血肉之形、分是三趣、水利米代、是以釋提桓因之得牙齒、建塔於於三十三天之雲、毘陀能王○○○恭佛誕、望水精於八萬餘里之月、八國諸王各預分布、供養恭敬殆盡在世、正法之初及阿育王、閻浮提內廣令流布、遂使摩騰法蘭來漢土之日、舍利昇空光奪日輪、上宮太子生味國之時、手捧舍利唱南無佛、其降諸宗高僧異域神人知時特來、測機傳授、日本一國獨依尤盛大較若經云、佛以大悲觀有情類於說利羅所、應得度者碎金剛身、令如芥子、若得一粒有供養者、在人天中受諸妙樂、乃至最後得證若際云々、我等既遇舍利可知依之可得解脫、如來知見若無所誤、我等出離方有何疑、彼香姓婆羅門之自為分布

之仁，纔得寶瓶立塔婆，溫達梵土親詣茶昆之庭，只取灰土成供養，感得甚難以可知矣。又如來在舍衛國，二十五年一城之內三億之家不開佛門不見佛所，夫毫光照十方大地動六種，人天大會猶如盛市，鼓樂百響，誰不見聞，佛化奇特無緣者不覺在世既久，況當時乎方令中天恩遠，隔煙浪而十方餘里滅度年遠，送星霜而二千餘題，我等耳聞三寶名者，猶是過分之巨益也，手亦得教粒佛骨，寧非曠劫之宿緣哉，誰謂此所於你離事之境，可知大乘菩提之因土也，誰謂我等於一闍提之類，恐是宿願成熟之菩薩也，假使順次往生淨土，其因猶為足，假使即身值遇弥陀，其緣何為盛，須生隨喜，勿撥怯弱，仍可行禮拜。

佛非血肉身 云何有舍利

方便留身骨 為益諸來生

南無釋迦如來遺身舍利生々世々值遇頂戴三反

第三嘆末世神變者，時及淹季，萬事歸空末代獨新者舍利之神變驗也，觀夫方圓改形黑白變色出沒隨機，多少依時，或放瑞光明於珠玉之輝，或蒸異香馥於沈麝之匂，或摧而自合，或去而再來，或宛轉懸虛空中，或自然飛于並外，凡機宜有時精靈無方千變萬化不可勝計，耳目所及當世如此，況於上古哉，況於大國哉，昔往師子園，現身說法相好光明宛如生身，自餘少瑞何足為奇，嗚呼血肉而非血肉故，金剛之杵難摧，色相而異藍色相，故劫燒之火無燒，此是成所作智之所變此是最上無漏是現行，三身非一異，法性既顯白玉之色，功德混體用，真智何隔黃金膚，諸佛境界誠越其儀之，詎見聞覺知須生信敬之想，仍唱伽陀可行禮拜。

如來定智慧 依正而示現

佛身及舍利 變化難思議

南無釋迦牟尼如來遺身舍利生々世世值遇頂戴三反

第四述事理供養者，傳聞大聖世尊在世之間，十方恒沙無量衆生悉見佛

聞法望，各々預往行向地益，隨宜引振甘露充足，我等其時不能覺悟，六趣四生間不知隱何方所，刀山鐵樹之下不奔，沈何苦患，惠惠早言未向三界惡父之芳顏，法身獨杵空歸以請醫王之撫育，常在靈山之秋處幽望月，考魂內沮雙樹，菩提只聞遠跡所歸，孤露之悲肝葉增色，但涅盤益云，若人深心供養如來，若人深心供養舍利，二人功德正等無異所得福聚無量無邊云々，今聞此說聊休憂悔，又法華經云，諸佛滅度已供養舍利者，如是諸人等々皆以成佛道云々，正直捨方便之說先嚴實可憑，仍隨分之捧供，具泣設一日之齋齋，花非與山千葉之粧，只期極力覺道之開發，香異海岸六餘之燭，備思戒定惠解兼修，九枝挑燈早除無明闇，一音唱偈，宣誓生死之夢，一々供具隨心無碍，念念所作流入法界，伏願為香雲遍蓋虛空界之佛會，無間煥無窮盡，常增敬廉刺土莊嚴，仍唱伽陀可行禮拜矣。

若人供養佛 及供養舍利

如是二人福 正等無有異

南無釋迦牟尼如來遺身舍利生々世世值遇頂戴三反

第五致願向發願者，以今日所修及三際善根，迴向衆生俱成佛道焉，夫三界穢土患累無絕，八苦憂海難離有餘，塵上重增惡，苦中添苦若未來水々，出離何日，就中人不生自稱權權，必有父母有親族，身不住于虛空中，豈無思愛無眷屬而々芳情山岳難重，一々報謝有志無力，然聞風樹悲易驚前後之別馳押，夜雨聞寒之腸遠德猶留肝底，秋風滿袂淚餘香未消衣上，非只一世，又及多生，展轉無窮兩遍法界，欲解其一緣，則愛結之纏易斷，欲度其一人，亦牢獄之鍵難破，自行未立化他何及不如早生淨土，永絕未來之妄緣，自進菩提漸報往昔之重恩所以一代之諸教或動安養或勸知足，蓋是機感之所宜也，末世之行，或佛亦陀或佛亦勸，可知宿習合然也，但佛界平等，何佛無構取不捨之弊，行業無盡何行非往生佛知之行，佛念若有誠引接各無疑，然則寂々黃昏之暮邊懸心於淨利之花蓋，澄々白毫之

光盡分影於閻浮草庵、仰願臨終微苦安住正念、善友來會開發宿願、非佛像者無見他色、非法音者不聞他音、念佛三昧自然成就、菩薩聖衆安詳來迎、孤山松間徐纒白雲之秋月、滄海浪上引紫臺曉雲、遺身舍利忽復生身、同放光明覺悟行者、身心安樂得未曾有、隨安佛後往生蓮居、一念翻迷消滅無量劫罪垢、四魔隔境心成就、一大事之因緣我具五神通、常行四攝法、虔心供養十方諸佛、任願引接三有結緣、見佛聞法之力、早昇無生法忍之位、因緣果滿之行普度虛空界之生、南無大恩教主釋迦如來哀愍誠心、滿足我願、南無大慈大悲弥勒本誓無誤來迎我等、仍大衆一心可伽陀唱行札拜矣

願以比功德 普及於一切
我等與衆生 皆供成佛道

豊后州北浦郡六郷山吉婆蘇山靈山寺
徳方坊住学秀依所望雖為惡筆不顧

人口之嘲任本書寫之若有一字誤
者以他本可被改善惡也

3 雅楽譜

五常楽 八伯子 傳授大力坊 帥公

タイニコカン 返

○余韻文書

トロホロ○タイリ○タレイタハ○リヤロウホントウ○トウホヒロロウ
ロウ○チャハロウ○タイラリ○タルイタハ○タイラリ○タレイタハ○リ
ヤロウ○ホントウ○トウホウヒロロロウ○

トラロウ○トラハレイタアリロウ○トロホロウ○トハロウタロホ○テイ
ラタハ○タ クハ返ルヘテ

千秋楽 八伯子

タイコ

タルラリヤウリヤルラ○テイ○テイラルラ○タハラロウ○テイ○テイ
ルラレイ○テイラルラ○トウ○トウハルラ○タルラ○タルラルト
トララレイラ○タルラレイ○テイラ○トウヒ○トレラルラレイ○テイ
ラルラ○トラロウホウロウホ○トラロウヒラルラレイタラロウ○トリヒ
リラ○テルヒ○ヒヤルヒヨウ○チリリラ○ヒヤルヒヨウチリ、ロウ○ト
リヒリラ○テロホレイ○トリヒリラ○トラロウトリヒリラルラ○ラ
自是口ニ返、大コ上ル

白柱 伯子同

大コ

トウヒ○トレラルラリヲリ○タハ○トハロウ○リヤロウホウ○トリヒ
リラ○テルレイ○リヤロウホウ○トラロウヒ○トレラルラリヲ、リ○タ
ハ○トハロウリヤロウホウ○トリヒリラ○テルレイホイラ○タルラレイ
○テイラルラ○トリヤ○テロホレイ○テイホレイ○トヒロロ○リヤロ
ウホ○タハ○タラリヤロウ○トラフイヤルラロウ○トハ、リホイラ○タ
ルラレイ○テイラルラ○トリヤ○テロホレイ○テイホレイ○トヒロロ
○リヤロウホ○タルラレイホレイ○トラロウトリヒリラ○ラ、トノ

ハテ 返ス

桑操老 長伯子

トウハム○テルレイラハレイ○リヤリレラ○トウハム○テイホイラ中タ
○タハ○デルレイトラルトラハレイ○リヤリレラ○トラロウヒ○トウ
ホウ○トウハム○テイホイラ○タ○テルレイラハレイ○トリヒリラ○ラ
○ラ○ニノヘテトウロウヒラフリマ○タルラハレイタラロウホウ○タハ○
トラロウヒ○トウホラ○トウハム○テイホイラ○タ○タハ○テルレイト
ラル○ラルラルラハレイ○リヤリレラ○トラロウヒ○トウホラ○トウハム
○テルレイラハレイ○トリヒリラ○ラ○ラ○

越殿楽 四伯子 ハヤシ

返

テイ○テイラルラトウハム○テイラワトリヒリラ○ハム○タハラロウ○
タルラリヤウ○トラムリロウホウ返 トウホウヒロムル○リマリレラ○
タリマラホイラ○タハ返

元龜元年庚午十月書寫

円福律師

II 近世史料

1 国東郡物産書上

○松成家文書

(前欠)

きび

すだ□

かぶと

なんはんきび

とうきびと唱、一品之外無御座候

小麦

あかぞや

でうとく

からぼそ

ざらり

しろぞや

□むら

からよ□

ふなむ□

大麦

はず麦

みつけ麦

ゑど麦

ゆきのこ

なが麦

おに麦

てうせん麦

もち麦

三月□

はね麦

こひと麦

びん□麦

そば

一品之外無御座候

大豆

おむ水

あかざや

しら川

ざろん

一ノたに

白ざろん

大しろ

小しろ

小ざろん

なか川

やさか

とぼい

あかざろん

黒大豆

大くろ

小くろ

青大豆

一品之外無御座候

赤小豆

ぐミの□

なべよごし

小あづき

又さがし

大あづき

さゝげ

しろさゝげ

あかさゝげ

くろさゝげ

ふろ□

しまさゝげ

けんとろ

赤黄二品之外、無御座候

ゑんどう

一品之外、無御座候

そらまめ

右同断、夏まめ共唱申候
けし

右同断

ごま

白ごま斗作申候

一 菜類

ねぎねふか

一品之外、無御座候

にんにく

右同断

とうちしや

右同断

ちしや

右同断

ふき

右同断

みつ葉

右同断

せり

右同断

よめな

よめがはぎ共唱、一品之外無御座候

わらび

一品之外無御座候

ぜんまい

右同断
うしと

しか共唱、一品之外無御座候

たんぼ

一品之外無御座候

なづな

右同断

くこ

右同断

しそ

右同断

たて

右同断

くわい

右同断

のり

あをのり

こぶのり

ひれのり

をこ

一品之外無御座候

ひちぎ

右同断

にんじん

右同断

ごぼう

右同断

里いも

一品之外無御座候

つくねいも

右同断

しねんじよ

やまのいも共唱、一品之外無御座候

ところ

一品之外無御座候

めうが

右同断

なすび

右同断

とうからし

右同断、こしやう共唱申候

せうが

一品之外無御座候

からし

右同断

からいも

右同断、とういも・りうきういも共唱申候

かぶらな

右同断、きやうな共申候

たかな

右同断

いんげんまめ

右同断

なたまめ

右同断

つくづくし

右同断

ほうれん草

右同断

れんこん

右同断

ははきゞ

右同断、ほうき草共唱申候

よもぎ

右同断、ふつ共唱申候

ひゆ

ぬめりひゆ

こんぶ

一品之外無御座候

大こん

一品之外無御座候

一 蕪類

はつたけ

きくらげ

糸のきたけ

せうろ

ひらたけ

一 瓜類

真桑瓜

嶋まくわ

糸のきはだ

きふり

一品之外無御座候

夕がほ

右同断

ぼうぶら

右同断

はちふくべ

右同断

からすふり

からすゝべと斗申候

れいし

にがふり共唱申候

一 菓類

なし

青なし

とがなし

石なし

みつかん

一品之外無御座候

くり

さゝくり

かき

ごしよかき

とねり

とうげんじ

しぶかき

ゆ

一品之外無御座候

くねんぼ

右同断

だいぐ

一品之外無御座候

しいのみ

右同断

きんかん

右同断

もゝ

さもゝ

にがもゝ

かたしもゝ

山もゝ

一品之外無御座候

あんず

右同断

ざくろ

右同断

きいちご

右同断

むめ

にがむめ

ぶんごむめ

にむめ

しなのむめ

やぶむめ

じやがたらみかん

一品之外無御座候

びわ

右同断

なつめ

右同断

さんせう

右同断

ぶどう

右同断

ぎんなん

右同断

かぶす

右同断

一 木類

松

男松

女松

桧

このてかしわ

杉

一品之外無御座候

桑のき

右同断

むく

右同断

いちい

右同断

くぬき

右同断

なら

右同断

かしわ

右同断

にがき

右同断

せんだん

右同断

かし

白かし

くろかし

まゆみ

一品之外無御座候

ちしやのき

右同断

たぶのき

右同断

榎

山ざくら

塩かま

とらの尾

雪の山

ひよどり

姥ざくら

ちやうちん

若木

いとさくら

つばき

山つばき

しかむら

ひとまる

かわち

つし

さつき

白つゝじ

よど川

きりしま

ひかんつゝじ

さざんくわ

一品之外無御座候

しやくなんげ

右同断

かいで

右同断

きり

川ぎり

やなぎ

しだれやなぎ

川やなぎ

もつこく

一品之外無御座候

なんてん

右同断

かいどう

右同断

しもつけ

右同断

さかき

右同断

すわふ桜

右同断

さんせう

山さんせう

犬さんせう

あさくら

つげ

犬つげ

はじのき

一品之外無御座候

はぎ

いわはぎ

しきみ

一品之外無御座候

にわさくら

右同断

ぼけ

右同断

もくれんげ

右同断

たちはな

右同断

ぬるで

右同断

むくげ

右同断

ほうの木

一品之外無御座候

にれ

右同断

つるの木

右同断、ゆつり葉共申候

いてう

右同断

いわなし

右同断

百日から

右同断

みつぎ

さわみつぎ

ひむろ

一品之外無御座候

あをき

右同断

うつぎ

右同断

たづのき

右同断

むぎのき

右同断

かや
右同断
のぶのき
右同断
ねむり
かうか共申候
もちのき
一品之外無御座候
げす
右同断
あせぶ
右同断
くさぎ
右同断
しゆろ
右同断
かしおしミ
右同断
そてつ
右同断
しまうつぎ
一品之外無御座候
なし
みつかん
くり

菓類江も書出申候
右同断
右同断
右同断

かき
右同断
ゆ
右同断
くねんぼ
右同断
だいだい
右同断
きんかん
右同断
しい
右同断
もく
右同断
山も
右同断
かぶす
右同断
あんず
右同断
ざくろ
右同断
きいちご
右同断
むめ
右同断
じやがたらみかん
右同断
びわ
右同断
なつめ
右同断
うこぎ
右同断
一品之外無御座候
またゝび
右同断
いばら
たら
けやき
小屋す
山吹

くわ
いぶき
はいむろ
このてかしわ
さるぬめり
てまりくわ
ぐみ
口なし
くす
りんちやう
はなすおふ
いちじく
とべら
とくよう
けんぼなし
くむくら
こが
ひやんちん
ふやう
さるかき
犬まき
ひさのき
こめしば
おきのこ
なつめ

山掃来共申候

一 草類

いね

穀類江も書出申候

わせ

たうきび

右同断

なかくて

なんばんきび

右同断

おくて

けし

右同断

餅いね

ごま

右同断

大麥

穀類江も書出申候

わせ麦

そば

右同断

おそ麦

けんてう

右同断

小麥

ねぶか

粟類江も書出申候

大角豆

ねぎ

右同断

右同断

にんにく

右同断

右同断

にら

右同断

赤小豆

とうちしや

右同断

右同断

ちしや

右同断

右同断

ふき

右同断

大豆

みつ菜

右同断

右同断

せり

粟類江も書出申候

右同断

よめな

右同断

わせ大豆

わらび

右同断

おそ大豆

ぜんまい

右同断

右同断

うど

右同断

粟

たんぼご

右同断

早粟

なつな

右同断

遅粟

くこ

右同断

右同断

しそ

右同断

右同断

たで

右同断

くわひ

右同断

にんじん

右同断

こぼう

右同断

里いも

右同断

つくねいも

右同断

ちねんじよ

右同断

ところ

右同断

めうが

右同断

まつな

右同断

なすび

とうな共申候

右同断

とうからし

右同断

せうが

右同断

からいも

右同断

かぶらな

右同断

たかな

右同断

いんげんまめ

右同断

なたまめ

右同断

ほうれん草

右同断

はす

右同断

はハきご

粟類江も書出申候

よもぎ

右同断

ほうづき

右同断

ひゆ

右同断

大こん

右同断

こかね草

すくさかたはミ共申候

かやつり草

こうぶし

ひし

あふひ

せにあふひ

ういきやう

あけび

ふぢ

白ふじ

さかりふじ

あやめ

花あやめ

いちはつ

がんび

あさがほ

しろ

□□

ひるがほ

しゆんきく

きく

秋きく

夏きく

寒きく

野きく

あつまきく

せきちく

なでしこ

ひじん草

ふうらん

せつこく

くわん草

からすおふぎ

やかん共申候

もちずり

はくてうげ

きんせんくわ

ほうせんくわ

つまくれない・とびしやご共申候

しやが

れんげ草

ぎぼうし

せきれん

いわひだ

まさきかづら

つたかづら

にんどう

□□いろ

せんぶり

まきやう

われもかう

おみなへし

ふぢばかま

かるかや

野ぶき

らん

かきつばた

しやうび

けいとう

かんらいかう

しをん

をぐま

ゆきのした

かうほね

ひるむしろ

うきくさ

ゑのこ草

あい

はながら

すもふ草

ゑのは草

せんおふ

とういびら

はんげ

へのくり共申候

やくも草
りうがひげ
はくり
ふしだか
たいわう
せきしやう
をばこ
はこへ
あかざ
をもと
女なもミ
男なもミ
のみせん
もくざ
とらのお草
けい口く草
ほうぞうはな
もちほつ
へびいちこ
まかや
みちしば
すゝだま
よし
すゝき
しますき

をにかたら共申候
ぎしく共申候
ひつり共申候

ときわすき
はままつ
ぼたん
しやくやく
すいせん
おとぎる草
いらう
わらび
むぐら
びんかづら
くつかづら
ささら草
かうしゆ草
なき草
丸すげ
とうだい草
犬多こ
あちさい
あさを
いちび
からむし
いぐさ
すみら
とうどま
くらゝ

かうか草共申候
うばのち共申候
いびら共申候

しのぶ
山午房
福寿草
田圃り
しやうぶ
まら口
こんにやく玉
あかて草
三七草
すに口
ばしやう
こまなき
むまば口
おしろい草
そうみぎ
小車
のびる
あかがくら
白ひへ
すば口
水かうぶし
れんげ草
ちしば口
すゝめ草
かた白

一 魚類

すずき

小ハせいごと申候
大ハすずきと申候

大ハあち
きす

きす子共申候

いな

あしのめ

ぐち
ぶち共申候

いな

うてもじき

かひだ

如此段々太う成る
ニ呼び名□□申候

もうを

ふをり

めばる

あぶらめ

もふし

あくせ

なかほご

いなだ

はまちとも申候

はも

はむ共申候

たちうを

とびうを

このしろ

だなし

くろだひ

ちんだひ

たこ

あかえび

此類惣名もうを
と申、色形少し
違ニ申候

一 竹類

しやくろ草

おとかいなし

たかたで

しやうかいどう

あらいい□

磯人じん

いそけい□

からみ

犬がらミ

犬ほうづき

九りん草

こばせり

ひきのつらみ

ひとつば

わしの尾すゝき

きりん草

くれ竹共唱申候

から竹

は竹

し竹

かん竹

なよ竹

女竹にがし共申候
ま竹とも唱申候

すずき

小ハせいごと申候
大ハすずきと申候

大ハあち
きす

きす子共申候

いな

あしのめ

ぐち
ぶち共申候

いな

うてもじき

かひだ

如此段々太う成る
ニ呼び名□□申候

もうを

ふをり

めばる

あぶらめ

もふし

あくせ

なかほご

いなだ

はまちとも申候

はも

はむ共申候

たちうを

とびうを

このしろ

だなし

くろだひ

ちんだひ

たこ

あかえび

此類惣名もうを
と申、色形少し
違ニ申候

たいゑび

くるまゑび

あかゑい

とびゑい

はなたか

ちやうゑい

うしゑい

かながしら

ははぶう

いか

きつきう

くろいか

こういか

ふか

わにふか

かせふか

つちふか

はいたミ

とき口

ひれ口口

ころま口

ふぐ

なごや

ふぐとう

口まぶく

此類惣名ゑいと

申、色形少し違

申候

此類少し形違申

候

此類形違申候、

尤取候義、無御

座候

此類少し形違申

候

こち

めこち

くろこち

よしのこち

はなじろ

小ハしをこ

大ハはなじろ

まなかつほ

なまつ

なまこ

たわくと共申候

あミ

へら

ざこ

ぬかり

びない

大くち

えび

かに

飯だこ

此類少し形違申

候

此類惣名ざこ

申、多く取申候

しゞミ

あさり

にし

たにし

まて

かき

あかかひ

丸かい

とりかい

一 龍類

かに

すほん

海かめ

平家かに

一 鳥類

がん

かも

あをさぎ

さぎ

しぎ

ごいさぎ

かもめ

かいつぶり

取候義、無御座候

取候儀、無御座候

右間断

右間断

取候義、無御座候

右間断

う 右同断

きじ

山どり 取候儀、無御座候

は口も

ほとときす

うくひす

すすめ

うつら

ひばり

早がら

ほうじろ

めじろ

むくとり

かうらい雀と唱申候

よしきり

ぎやうぎやうと唱申候

ちどり

ひよどり

しちち

つぐみ

たか

とび

からす

もず

ひわ

こうもり

とうむり共申候

にわとり

せきれい

いしたゝき共申候

てらつつき

木つゝき共申候

みそさざい

みそちう共申候

ふくらう

つばめ

つはくろ共申候

かわせみ

すいうすどり・せうび共申候

みさこ

びしやこ共申候

おながとり

さんぐ□□

もづく

一 歌類

いのしし

しか

うさぎ

かわうそ

取候儀、無御座候

右同断

一 虫類

いたち

きつね

たぬき

さる

いぬ

ねこ

うし

むま

うぐろもち

うぐりもち共申候

ねつみ

むじな

てん

せみ せび共申候

きりぎりす

こうろき

まつむし

すすむし

くつわむし

はたをり

かまさり

とうらう・あ□め共申候

むかで

げぢげぢ

はち

あぶ

はひ

か

のミ

しらミ

あまめ

こか□ぶ□・あぶら□とも申候

かいる

とんくう

わくとうとも申候

みみず

とかげ

いもり

かんき□

ほたる

あり

いあか共申候

いなこ

たまむし

かぶとぼう

一 蛇類

へび

やわたり

まむし

からすへび

一 辺土之百姓給候物

大豆葉

さくげは

そばのは

けしのは

ごまのは

けいとうのは

はこへ

田びらこ

ぎしぎし

ひいば

おばこ

こうそ□

つちな

まむし

いなこ

ひき

ねづミ

しし

にわとり

すぼん

たぬき

うさぎ

いたち

きつね

うみかめ

あかにし

すみら

うこぎの菜

くさぎの菜

ゑのきの菜

すいかつらの菜

くわんぞう

くすのね

かすね共申候

わらびね

— 金

— 銅

— 鉛

— しろめ

— 琥珀

— 銀

— 鉄

— 錫

— 辰砂

— 土朱

吟味仕、名相知候分書上申候、以上
知六月

重次郎
組頭
彦兵衛

金屋村庄屋

同
李右衛門

喜八郎

德六村庄屋

同
佐兵衛

源太郎

同
曾右衛門

清九郎

同
常盤・惠良村庄屋

同

同
常盤村組頭

大村庄屋

同
伊助

仁七郎

同
次左衛門

組頭

同
平六

源左衛門

同
惠良村組頭

源左衛門

同
安右衛門

同

同
善兵衛

濱村庄屋

同
善兵衛

組頭

同
白野・泊り・西畑村庄屋

庄屋村庄屋

孫左衛門

同
清右衛門

硫黄	一	障簾
碌青	一	明礬
磁石	一	水精
雲母	一	紫石英
朴消	一	焰消
石膏	一	滑石
無石英	一	鍾乳石
赤石脂	一	礞石
硯石	一	砥石
緋しめ石	一	つけ石

右三拾品、当郡より出申品無御座候、其外菓石と唱来候亦數石砂之類、当郡中二有之と申儀申伝も無御座候、勿論見知候者も無御座候

御案内之内、穀類・菜類・瓜類者前々より作来候品ニ而御座候二付、無相違吟味仕書上候、

木類・竹類・獸類・草類等、是又有燬口吟味仕、書上候

魚類・貝類・鳥類・蛇類無量之品々者、委存候者無御座候得共、年來其所之もの見当り候者書上申候

草類・虫類之儀、別而無量之品々ニ而、悉く名覚候もの無御座候、是又所之もの随分

同
次左衛門
同
又右衛門
同
清三郎
同
又助
同
次郎兵衛
同
佐兵衛
同
吉之丞
同
平兵衛
同
清兵衛
同
佐右衛門
西畑村組頭
久次郎
山畑・横内村庄屋
彦三郎
組頭

仁左衛門
同
惣兵衛
同
彦兵衛
同
新助
湯原村庄屋
新八
組頭
伊右衛門
同
太兵衛
城前村庄屋
伝次郎
組頭
喜兵衛
同
市兵衛
同
吉右衛門
五郎助
大岩屋村庄屋
彦左衛門

組頭
喜兵衛
同
金右衛門
有寺村庄屋
次郎兵衛
組頭
伝六
黒土村庄屋
元助
組頭
彦左衛門
同
团四郎
小河内村庄屋
元右衛門
組頭
甚左衛門
同
喜左衛門
三畑村組頭
伝四郎
同
喜三郎
同

惣二郎
狩場村庄屋

弥三郎
組頭

久左衛門
夷村庄屋

重助
組頭

平右衛門
同

孫左衛門
同

源四郎
同

清兵衛
長小野村庄屋

又次郎
組頭

甚左衛門
佐古村庄屋

金助
組頭

久右衛門
同

助左衛門

同

彦兵衛
唐櫃村庄屋

清四郎
組頭

清六
同

安右衛門
樋ノ口村庄屋

伝内
組頭

孫三郎
香々地村庄屋

庄右衛門
組頭

李左衛門
見目村庄屋

新兵衛
組頭

茂十郎
同

新左衛門
同

六左衛門
堅来・小池村庄屋

吉右衛門
組頭

太助
同

所助
同

吉兵衛
羽根村庄屋

六左衛門
組頭

彦三郎
同

七右衛門
小畑村庄屋

久兵衛
組頭

惣兵衛
松成武左衛門

眞玉与三左衛門

千歳

御役所

2 豊後国国東郡見目村屋敷御検地帖 ○松成家文書

宮ノ尾
 一 上屋鋪 七間 老畝拾貳步 分米老斗老升貳合 理兵衛
 上二濱
 一 下屋鋪 拾老間 三畝貳拾步 分米老斗四升七合 口藏床
 同所
 一 下屋鋪 八間 老畝拾八步 分米六升四合 庄右衛門
 同所
 一 中屋鋪 拾間 貳畝步 分米老斗貳升 孫右衛門
 同所
 一 下屋鋪 六間 老畝步 分米四升 口右衛門
 同所
 一 中屋鋪 三間 拾貳步 分米貳升四合 善九郎
 友延
 一 上屋鋪 八間 老畝貳步 分米八升五合 十兵衛
 同所
 一 上屋鋪 拾間 老畝廿步 分米老斗三升三合 善左衛門
 同所
 一 上屋鋪 拾老間 貳畝六步 分米老斗七升六合 理左衛門
 同所
 一 上屋鋪 七間 老畝五步 分米九升三合 勘左衛門
 自在
 一 上屋鋪 七間 老畝五步 分米九升三合 勘左衛門

同所
 一 上屋鋪 五間 貳拾五步 分米六升七合 彦左衛門
 道辻
 一 中屋鋪 七間 老畝五步 分米七升 孫市
 同所
 一 中屋鋪 七間 老畝拾九步 分米九升八合 新之助
 三安
 一 上屋鋪 七間 老畝拾五步 分米老斗貳升
 同所
 一 上屋鋪 半六間 拾八步 分米三升六合 久左衛門
 伏原
 一 中屋鋪 三六間 拾八步 分米三升六合 久左衛門
 同所
 一 上屋鋪 六間半 貳拾七步 分米七升貳合 權九郎
 同所
 一 上屋鋪 拾六間 老反廿步 分米八斗五升三合 弥次右衛門
 同所
 一 上屋鋪 八間 貳畝廿步 分米貳斗老升三合 甚右衛門
 一 上屋鋪 拾間 老畝廿步 分米八升 惣四郎
 重友
 一 上屋鋪 五六間 老畝步 分米八升 茂兵衛
 山ノ下
 一 上屋鋪 半四間 老畝步 分米八升 助五郎
 同所
 一 上屋鋪 五六間 老畝步 分米八升 助五郎
 同所
 一 上屋敷 半七間 老畝五步 分米九升三合 十右衛門

一 上屋敷 五間	武拾五歩	分米六升七合	助三郎	同所	一 上屋敷 五間	武拾五歩	分米六升七合	彦作
同所				同所	一 上屋敷 五間	武拾五歩	分米六升七合	
一 上屋敷 六間	卷畝歩	分米八升	新十郎	同所	一 上屋敷 五間	武拾五歩	分米六升七合	吉之丞
口瀬				同所	一 上屋敷 七間	武畝拾歩	分米卷斗八升七合	作右衛門
一 上屋敷 七間	武畝拾歩	分米卷斗八升七合	作右衛門	同所	一 上屋敷 七間	武拾八歩	分米七升五合	孫四郎
同所				同所	一 上屋敷 七間	武拾八歩	分米七升五合	与兵衛
一 上屋敷 五間	武拾歩	分米五升	同人	同所	一 上屋敷 六間	武拾四歩	分米六升四合	五郎七
同所				同所	一 上屋敷 七間	武拾四歩	分米六升四合	
一 下屋敷 三間半	七歩半	分米九合	与介	同所	一 上屋敷 八間	卷畝廿六歩	分米卷斗四升九合	理兵衛
同所				同所	一 上屋敷 七間	卷畝廿六歩	分米卷斗四升九合	久藏
一 上屋敷 五間	卷畝五歩	分米九升三合	三十郎	同所	一 上屋敷 四間	拾六歩	分米四升三合	
同所				同所	一 上屋敷 四間	拾六歩	分米四升三合	
一 上屋敷 五間	卷畝五歩	分米九升三合	金右衛門	同所	一 上屋敷 六間	卷畝拾武歩	分米卷斗三升武合	半左衛門
長相				同所	一 上屋敷 七間	卷畝拾武歩	分米卷斗三升武合	
一 上屋敷 六間	卷畝廿四歩	分米卷斗四升四合	權右衛門	同所	一 上屋敷 七間	卷畝拾武歩	分米卷斗三升武合	
同所				同所	一 上屋敷 六間	拾武歩	分米三升武合	彦八
一 上屋敷 三間	拾武歩	分米三升武合	彦八	近廣	一 上屋敷 七間	卷畝五歩	分米九升三合	弥市
同所				一 上屋敷 五間	卷畝五歩	分米九升三合	分米九升三合	
一 上屋敷 六間	卷畝廿四歩	分米卷斗四升四合	金兵衛	同所	一 上屋敷 六間	武畝歩	分米卷斗六升	助九郎
同所				同所	一 上屋敷 三間	六歩	分米卷升六合	茂右衛門
一 上屋敷 五間	武畝拾五歩	分米武斗	五郎右衛門	同所	一 上屋敷 四間	武拾四歩	分米六升四合	源太郎
同所				同所	一 上屋敷 六間	武拾四歩	分米六升四合	
一 上屋敷 六間	卷畝歩	分米八升	市右衛門	同所	一 上屋敷 四間	武拾四歩	分米六升四合	
同所				同所	一 上屋敷 三間	武拾四歩	分米六升四合	
一 上屋敷 五間	武拾歩	分米五升三合	惣二郎	同所	一 上屋敷 四間	武拾四歩	分米六升四合	
口口				同所	一 上屋敷 六間	武拾四歩	分米六升四合	
一 上屋敷 五間	武拾歩	分米五升三合	惣二郎	同所	一 上屋敷 四間	武拾四歩	分米六升四合	

一	上屋敷	七間	式拾八歩	分米七升五合	源十郎	同所	一	上屋敷	拾貳間	四畝式拾四歩	分米三斗八升四合	助四郎	
同所	一	上屋敷	七間	老畝拾九歩	分米老斗三升老合	仁左衛門	同所	一	上屋敷	六間	老畝歩	分米八升	加左衛門
同所	一	上屋敷	拾四間	式畝拾歩	分米老斗八升七合	金三郎	同所	一	上屋敷	五間	老畝歩	分米八升	又兵衛
同所	一	上屋敷	五間	式拾五歩	分米六升七合	七兵衛	同所	一	中屋敷	六間半	老畝三歩	分米六升六合	弥十郎
徳丸	一	上屋敷	拾間	式畝歩	分米老斗六升	文三郎	同所	一	上屋敷	五間	式拾五歩	分米六升七合	助七
井手ノ上	一	上屋敷	六間	老畝歩	分米八升	惣太郎	同所	一	上屋敷	六間	式畝六歩	分米老斗七升六合	権左衛門
同所	一	上屋敷	拾老間	老畝廿五歩	分米老斗四升七合	久助	同所	一	上屋敷	九間	老畝廿四歩	分米老斗四升四合	壽兵衛
同所	一	上屋敷	六間	老畝拾武歩	分米老斗老升武合	七右衛門	同所	一	上屋敷	七間	老畝五歩	分米九升三合	又七
同所	一	上屋敷	七間	式畝三歩	分米老斗六升八合	久兵衛	同所	一	上屋敷	五間	老畝歩	分米八升	甚左衛門
伏原	一	上屋敷	七間	老畝廿六歩	分米老斗四升九合	八郎左衛門	同所	一	上屋敷	三間	老畝歩	分米八升	次郎助
同所	一	上屋敷	七間	老畝廿六歩	分米老斗四升九合	惣兵衛	同所	一	上屋敷	五間	老畝拾五歩	分米老斗武升	長三郎
同所	一	上屋敷	七間	老畝拾九歩	分米老斗三升老合	弥次右衛門	同所	一	上屋敷	五間	老畝歩	分米八升	彦七
同所	一	上屋敷	五八間	老畝拾歩	分米老斗七合	久三郎	同所	一	上屋敷	五八間	老畝歩	分米八升	

一 上屋敷 七間	老敷五歩	分米九升三合	太郎左衛門
同所	老敷拾歩	分米八升	次郎八
一 中屋敷 五間	老敷拾歩	分米八升	長右衛門
片山	老敷歩	分米八升	源兵衛
一 上屋敷 五間	老敷歩	分米老斗六升	源兵衛
同所	武敷歩	分米老斗七合	津右衛門
一 上屋敷 八間	老敷拾歩	分米老斗七合	次右衛門
同所	老敷拾武歩	分米老斗老升武合	彦三郎
一 上屋敷 六間	武拾四歩	分米六升四合	仁助
同所	武拾歩	分米五升三合	金左衛門
一 上屋敷 五間	老敷歩	分米八升	五右衛門
同所	老敷拾武歩	分米老斗老升武合	八左衛門
一 上屋敷 七間	老敷拾武歩	分米老斗老升武合	兵左衛門
同所	老敷歩	分米八升	三右衛門
一 上屋敷 六間	老敷歩	分米老斗六升七合	
兼領	三畝拾歩	分米八升	
一 上屋敷 五間	老敷歩		
一 上屋敷 六間	老敷歩		

同所	老敷拾歩	分米老斗七合	仁右衛門
一 上屋敷 八間	老敷拾歩	分米老斗七合	
同所	老敷武拾歩	分米老斗三升三合	与八
一 上屋敷 五間	老敷武拾歩	分米老斗七合	三郎左衛門
同所	老敷拾歩		
一 上屋敷 五間	老敷拾歩		
右之寄			
上屋鋪合老町武反四歩			
分米九石六斗老升老合			
中屋鋪合八畝七歩			
分米四斗九升四合			
下屋鋪合六畝廿五歩半			
分米武斗六升			
但四斗代			
反別合老町三反四畝廿六歩半			
分米拾石三斗六升五合			
右、豊後国國東郡見目村百姓居屋鋪、先年横地之節竿外二而有之分、今度令吟味、御勘定所二相續、手代竿取并案内之百姓、為致神口以六尺半令檢地、反別分米相極所如件			
元禄五壬申年九月			
今井九右衛門			
手代			
小谷嘉七郎			

手代

勝部源五郎

竿取

三浦作平

案内庄屋

助四郎

同年寄

同年寄

同百姓

六間

堂その

武間

武間

片山

五間

四間

同所

四歩

武拾歩

六歩

阿弥陀堂境内

妙見堂境内

歳神境内

外除地

伏原

拾間

九間

牛頭

式拾間

拾八間

きふね

拾五間

五間半

市ノ瀬

九間

五間

川内

拾間

三畝歩

老反式畝歩

式畝廿式歩半

老畝拾五歩

式畝歩

東智庵境内

牛頭宮境内

貴布祢宮境内

阿弥陀堂境内

伽藍堂境内

以上

表1 香々地地域の村高変遷

正保4 (1647) 年 正保郷帳		元禄14 (1701) 年 元禄郷帳		天保5 (1834) 年 天保郷帳		明治元 (1788) 年 旧高旧領取調帳	
狩場村	49.960	狩場村	70.052	狩場村	70.985	狩場村	70.985
堅来村	351.559	堅来村	384.550	堅来村	388.385	堅来村	388.385
小池村	58.419	小池村	63.623	小池村	63.846	小池村	63.846
小畑村	184.094	小畑村	189.444	小畑村	189.444	小畑村	189.444
羽根村	270.161	羽根村	303.120	羽根村	305.877	羽根村	305.877
香々地村	252.060	香々地村	306.871	香々地村	310.780	香々地村	310.780
樋ノ口村	80.055	樋ノ口村	93.104	樋ノ口村	94.025	樋ノ口村	94.025
見目村	542.307	見目村	641.5453	見目村	642.818	見目村	642.818
夷村	487.415	夷村	545.798	夷村	546.559	夷村	546.559
長小野村	155.324	長小野村	177.465	長小野村	177.982	長小野村	178.052
佐古村	493.059	佐古村	566.046	佐古村	566.316	佐古村	566.316
唐櫃村	249.147	唐櫃村	282.917	唐櫃村	282.917	唐櫃村	282.917

表2 延享4 (1747) 年段階の香々地地域村々の定免(納入高/毛付高)

村名	田方	畑方	
狩場	0.321	0.3156	
堅来	0.4973	0.4109	
小池	0.2875	0.3807	
小畑	0.2604	0.3683	
羽根	0.3247	0.4172	
香々地	0.4729	0.4563	
樋ノ口	0.4603	0.4535	
見目	0.4135	0.4405	
夷	0.5085	0.4321	田畑成 0.4321
長小野	0.6125	0.4995	
佐古	0.6548	0.4847	畑田成 0.5648
唐櫃	0.4271	0.4407	

表3 香々地地域の村々の人口推移

年 村名	1620	1730	1785	1828	1847	1859	1860	1861	1863	1864	1865	1866	1869
狩場				106	100	98	99	96	89	95	95	92	95
聖来				587	552	516	516	510	497	515	513	518	540
小池				132	145	145	136	137	132	136	140	142	140
小畑				298	305	296	294	305	297	282	277	275	281
羽板				721	762	777	763	797	765	761	758	763	794
香々地				662	682	696	815	799	787	781	781	794	788
樋ノ口				135	124	119	122	119	120	121	128	130	133
見目			1,064	1,030	1,041	1,049	1,014	1,016	983	973	973	1,001	1,039
夷				750	755	738	714	706	694	685	717	718	718
長小野				266	237	224	224	226	226	228	241	245	241
佐古				696	721	703	689	690	655	659	656	649	660
唐櫃				426	446	466	441	426	426	425	430	438	451

※ 表1～表3については、姫野佐登子氏作成の表をもとにした。

III 近代史料

1 豊後国東郡村誌(明治一二年・抄出) ○大分県立図書館蔵

○小畑村

本村古ヨリ白野荘ニ属シ古来分合ナシ

疆域

東ハ箕ヶ平嶺ヲ以テ夷村ニ隣シ、西ハ鶴山及鬼崎山ヲ境トシ東
真玉村ニ接ス、南ハ高平村ヲ境トシ東真玉村ニ界ス、北ハ鬼崎
山ヲ以テ羽根壑來阿村ニ界ス

幅員

東西拾七町余、南北九町余、面積
東真玉村ニ出ス

沿革

大分県庁発脚大分郡大分町領日嶺中央ニアリヨリ北方拾六町貳拾六町
貳拾老間五尺深柱本村字大畑六百貳拾壹番地小野長平居毛嶺南方五拾貳間
老尺ノ地ニアリ、東方夷村ヘ貳拾七町三拾四間四尺五寸、西方東
真玉村ヘ貳拾町拾五間、壑來村ヘ貳拾八町五拾三間、北方羽根
村ヘ老里六町拾九間老尺

地勢

四面山ヲ負ヒ峯壑環匝シ、運輸便ナラス、柴薪多シ炭乏シ

地味

其色赤黒、其質悪穢梁ニ適セス、粗木桑茶ニ宜シ、時々旱ニ苦

税地

田四反五畝貳拾貳歩、畑三拾八町五反五歩、宅地家町八反七畝貳拾八歩、山
林拾町九反九畝壹歩、藪老反三畝拾三歩、總計五拾町九反六畝九歩

無税地

埋葬地反四畝四歩

官有地

社地六反七畝拾七歩、山林九町四反三畝八歩、寺院地八畝拾七歩、芝地反
拾壹歩、總計拾町貳反三歩

賃租

○地租金百四拾八円四拾四錢九厘、○牛馬売買税金貳円、○縣税金貳拾五
錢、總計金百五拾四圓六拾九錢九厘

戸數

本籍六拾八戸平民、社老戸小社、寺老戸福曹洞宗、總計七拾戸
男百四拾六口平民、女百五拾五口平民、總計三百零口

牛馬

牡牛三拾六頭、牡馬拾三頭

山

大牟礼山高八拾五丈四間老里三拾町村南ニアリ嶺上三分之四ハ東真玉村ニ属
シ南ハ大嶺屋村ニ属シ東北夷村ニ属ス山頂ヨリ西北ノ二部ヲ三分シ北ハ夷村西ハ
東真玉村及本村ニ属ス山脈西ハ銀峯山ニ連リ東ハ虎嶽山ニ接ス山腹以上唯ク草
莽叢茂ス以下雜樹鬱鬱路一桑村東西出ヨリ上ル高六町強ノ峻嶺

川

梅水川三等河ニ属ス深四尺淺老尺広四間長老間流レ急ニ水清ク味淡シ源ヲ村
東大半丸山ノ麓字内出ニ發シ村ノ中央ヲ西流シ字弘川ニ至リ壑來川トナル其間貳
拾町、角園橋壑來道ニ属ス村西貳町二間シ梅水川ノ中流字角園ニアリ水深貳
尺巾二間橋長 貳間巾三尺製ナリ、末代橋大分往還ニ属ス村南九町五拾三間
ニ架シ梅水川ノ下流字弘川ニアリ水深老尺広貳間橋長貳間巾壹間石製ナリ

道路

大分往還ニ等道路ニ属ス村北羽根村界字堀崎ヨリ村西東真玉村界字鶴ニ至
ル長途三町広間馬路老間三尺道數間三三尺字弘川ニ至リ西ニ折レ壑來道アリ、
壑來道三等道路ニ属ス村西壑來村界字弘川ヨリ村東夷村界字大石ニ至ル長
路拾五町馬路三尺道數間字道ノ上ヨリ西ニ折レ東真玉村ニ通スル小徑アリ、
壑來道浦道壑來道字道ヨリ西北ニ轉シテ壑來浦ニ至ル長三拾五町五拾三間巾
壹間

社

秋葉神社村社地東面西拾九間南北貳拾三間三尺五寸面積六畝貳拾四歩村南字
阿弥比宮ニアリ加具都知能命ヲ祭ル明治五年村社ニ列ス祭日九月廿一日

寺

梅松寺神曹滿宗東貳拾四間南北拾六間四尺面積八畝拾七歩積字村長福寺末村
北字大平ニアリ永平十五年僧侶藤原高橋建ス

物産

植桑官感老万斤

民業 男婦ヲ合トスル者六拾七戸

○堅来村

本村古ヨリ曰野在ニ属ス

古時堅来小池ノ二村タリ、明治八年三月小池村ヲ本村ニ合ス

区域

東ハ鬼崎山ヲ以テ小畑羽根ノ二村ニ接シ、西ハ東真玉村ト大山

林ヲ以テ界ス、南ハ松ケ平山ヲ境トシ東真玉村ト隣シ、北ハ羽

根村ト石場山ヲ以テ境トス、西北ハ海ニ抵ル

幅員

東西貳拾壹町余、南北九町余、面積

沿革

東真玉村ニ出ス

里程

大分県庁元領大分郡大分町鎮田中央ニアリヨリ、北方拾六里三拾壹

町貳拾七間三尺、津佐本村字今津七百四拾九番地安藤岳古居宅前田四方貳拾九

間ノ始ニアリ、東方小畑村ヘ貳拾八町五拾三間、南方東真玉村ヘ

貳拾五町貳拾四間四尺、北方羽根村ヘ拾五町拾七間

地勢

南鶴山ニ対シ、北ニ石場山ヲ負ヒ、堅来川南ヨリ西ニ注キ、遠

輪線ニ便ニシテ、柴薪多シ炭乏シ、西北海ニ面ス

地味

其色赤黒其實美ナラス、稲稈ニ適セズ、桑茶ニ宜シ時々旱ニ苦

ム

税地

田區拾三町九反八畝貳拾八歩、畑八拾六町七反八畝貳拾貳歩、宅地七町貳反

八畝拾七歩内寺院地反五畝貳拾六歩、山林六拾六町四反八畝拾八歩、藪反

四畝六歩、寄洲反反歩、總計百八拾四町八反九畝九歩

戸數

○總計金千五拾七圓四拾八錢九厘

人数

○總計金六圓四角四分

牛馬

○總計金七圓七角四分

舟

○總計金七圓七角四分

川

○總計金七圓七角四分

道路

○總計金七圓七角四分

港

○總計金七圓七角四分

買税金五円、○酒類税金五拾五円、○銃猟税金五円、○県税金拾四円、

○總計金千五拾七圓四拾八錢九厘

本籍貳百七戸平民、社拾戸小社、寺貳戸佛曹洞宗寺年長宗寺、總計

貳百拾九戸

男四百六拾壹口平民、女四百六拾四口平民、總計九百貳拾五口

牡牛百拾七頭、牡馬貳拾五頭

日本形松三拾三艘、石未耑耑者五拾石未耑耑者八艘、漁具貳拾四艘、總計三

拾三艘

堅来川三等河ニ属ス深六尺淺者尺七間、流勢急ニ水清ク味淡シ源ヲ小畑村

大牟礼山麓字内田ニ源シ西流シ柳木川ト名ケ村奥字私川ニ来リ堅来川ト称シ村ノ中

央ヲ西流シ今津ニ至リ今津川ヲ容レ西流字四ノ磯ニテ海ニ入ル長三拾町、今

津川三等橋三尺淺五寸、三間、築堤者別流シ急ニ水清ク味淡シ源ヲ村北字今津ヨリ発

シ村北ヲ西流シ今津ニ至リ堅来川ニ入ル長拾町、尾田橋高田往還ニ属ス村ノ中

央ニ築シ堅来川ノ下流字内田ニアリ水淺者尺六間橋長六間市六間木製ナリ、岸

本橋小橋連ニ属ス村東拾貳町ニ築シ堅来川ノ中流字内田ニアリ水淺者尺七間橋

長七間市四尺木製ナリ、宋代橋大分往還ニ属ス村東拾九町築シ今津川ノ上流

字私川ニアリ水淺者尺六間橋長六間市四間石製ナリ、小池澤村北字内ヨリ起

リ字池ノ尻ニ至リ橋ニ入ル長五町市間小村北部ノ源水ヲ導下ス

大分往還ニ等道路ニ屬ス村南東真玉村界界字船ヨリ村北羽根村界界字船ニ至ル長

拾三町馬路之間三尺、浦辺往還ニ等道路ニ屬ス村南東真玉村界

字船ケ平ヨリ村北羽根村界字船ケ平ニ至ル長拾馬路之間三尺、小

畑道ニ等道路ニ屬ス村ノ中央字小田ヨリ村東小畑村界字私川ニ至ル長拾九町馬

路字浦邊之間三尺、本村濱邊浦邊往還字尾田ヨリ西北ニ岐シ本村ノ浦ニ南

ル長七町市間

堅来港東西三町南北町町測深六尺二寸石以下ノ帆船ヲ入ル平瀬ニハ砂礫ノ露出

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

シ松油乾石スヘカラス東北ニ運スアリ西南ニ運スアリ其中間ニ小島アリ是處ト舟ス
出鼻海濱等ニ船石アリ西風ニ宜シク一年出入船數八拾艘輸出品米五百石薪炭万九
千七百四拾石輸入品米萬五千斤

社

八橋社村々東野老町九間四尺南北武拾八間老尺百積六反五畝拾四步村百字
濱田ニアリ是村多命息是船命吾田別命ヲ祭ル祭日九月九日、山神社村社々
地東西武拾尺間尺南北武拾尺間尺式寸面積八畝拾三歩村北字旗以ニアリ大山延
命ヲ祭ル祭日六月一日以上二社明治五年村社ニ列ス

寺

宝泉寺神宮前南長西拾七間五尺南北拾拾三間三反面積七畝拾九步東真玉村万年寺
東村南字ヤミ田ニアリ応永二十一年僧大圓實創建ス、道場舊宗東西拾八間老
尺南北武拾老間四尺五寸面積九畝五步山城國島野本廟寺東村北字旗光ニアリ天文
二年僧淨百開奉創建ス

物産

砂糖黍良美老万石千貫、榎実實萬石、海老實萬石、生魚六百貫、
生鰯百石六千斤、黒砂糖實千石百斤

民業

男農ヲ兼トスル者數百四戸内漁ヲ兼トスル者數拾五戸医ヲ兼トスル者老戸

○羽根村

本村古ヨリ白野莊ニ屬シ古來分合ナシ

墾域

東ハ椎田ケ迫ノ頂ヲ以テ上番々地番々地兩村ヘ隣シ西ハ石場山
ヲ以テ堅來村ニ接シ南ハ堅來村ト天神山ヲ境トシ北ハ番々地村
ト宇松津ヨリ市殿嘉ヲ界トス東南ハ鬼崎山ヲ以テ小畑村ニ接ス
西北海ニ瀕ス

幅員

東西貳拾六町余南北六町余面積

沿革

東真玉村ニ出ス
大分県庁元縣大分郡大分町藤田國中ニアリヨリ北方拾七里拾四町拾四
間三尺程在村字竹ノ下九百七番地井上市五郎居宅後面西方四間ノ地ニアリ、

川

羽根川ニ等河ニ屬ス深四尺淺帯尺底五間狹成間漚レ急ニ水清ク味淡シ源ヲ村東
字植地ヨリ始シ村ノ中央ヲ西流シ字宮本ニ至リ小河内川ニ合シ字東良直ニテ海ニ入
ル長三拾町、小河内川ニ等深三尺淺五寸底三間狹成間漚レ急ニ水清ク味淡シ源

南方堅來村拾五町拾七間小畑村ハ老里六町九間老尺東真玉村ヘ
老里四町三拾七間四尺北方番々地村ヘ三拾老町五拾七間老尺東
方上番々地村ヘ三拾三町三拾三間武尺

西北海ニ面シ、自余留山運輸便ニシテ、柴薪多シ炭乏シ

其色赤黒其實美ナラス稲梁ニ適セス、時々旱ニ苦ム

田拾町三反田畝拾三歩、畑百八町三反七畝畝拾歩、宅地八町七反七畝畝歩内寺
院地老反畝拾七歩、山林武拾八町四反畝畝拾八歩、藪武反畝畝拾四歩、總
計百五拾六町老反六畝畝拾七歩

荒地三反拾五歩、溜池老畝畝拾歩、埋葬地六反六畝拾七歩、總計九反八畝
拾六歩

無稅地
地武反九畝畝拾歩、山林四町八反歩、寺院地四畝拾七歩、總計五町老反
四畝七歩

官有地
地租金七百五拾八円四角老銀九圓、○松稅金拾拾圓、○牛馬壳賣稅金四
圓、○酒類稅金百九円五拾錢、○累稅金七円五拾錢、○總計金八百九拾円
四拾老錢九厘

賈租
本籍貳百貳拾貳戸平民、社六戸小社、寺老戸神會洞來、總計貳百拾
九戸

戸數
男五百四拾七口平民、女四百九拾四口平民、總計千四拾老口世田曹
留田人男三人女老人

人數
男五百四拾七口平民、女四百九拾四口平民、總計千四拾老口世田曹
留田人男三人女老人

牛馬
杜牛百四頭總計百四頭牡馬四拾六頭牝馬三頭總計四拾九頭

舟
日本形船三拾老艘實石以上老艘實石百石以上老艘實石五拾石老艘拾貳
艘總計拾六艘、總計三拾老艘

羽根川ニ等河ニ屬ス深四尺淺帯尺底五間狹成間漚レ急ニ水清ク味淡シ源ヲ村東
字植地ヨリ始シ村ノ中央ヲ西流シ字宮本ニ至リ小河内川ニ合シ字東良直ニテ海ニ入
ル長三拾町、小河内川ニ等深三尺淺五寸底三間狹成間漚レ急ニ水清ク味淡シ源

ヲ村北字常ヨリ絶シ村北ニ沿ヒ西流字宮本ニ至リ羽根川ニ入ル長松町、竹田橋
浦辺往還ニ属ス村ノ中央ニ架シ羽根川ノ中流字竹ノ下ニアリ水深壹尺成間四尺備
長尺間四尺巾三尺石堰ナリ、松津河村北寄々地村界字市野原ヨリ起リ字松津ニ
新リ海ニ入ル長松町市野原本村北郊ノ要水ヲ下ス

道路

大分往還ニ等道路ニ属ス村東上寄々地村界字浦地ヨリ村南築妻界字鬼崎ニ至
ル長六町馬路間三尺遠敷間三尺、浦辺往還ニ等道路ニ属ス村南築妻界字鬼崎ニ至
ル水トヨリ北八寄々地村界字市野原ニ至ル長松町馬路間三尺、上
寄々地道路ニ等道路ニ属ス村ノ中央字竹下ヨリ上寄々地村界字浦地ニ至ル長尺間
三町寄間四尺馬路間道敷間三尺、小畑道ニ等道路ニ属ス村東字石原ヨリ村
南小畑村界字茶屋尾ニ至ル大分往還ニ等長尺間四町三尺、本村濱道
浦辺往還字竹下ヨリ東北ニ候シ本村ノ港ニ至ル町七町市野原

港

羽根港東西三町南北町浦深六尺深石以下ノ船船ヲ出入ス干潮ニハ砂浜ヲ
露出シ船投錨スルヲ得ス西北ニ松ケ島ヲ東西ニ洞ケ島アリ以テ湾状ヲナス南風ニ
宜シ一ヶ年出入船數百艘輸入品米百三拾石織美四千斤輸出品生蠶千五百斤砂糖千斤
切石貳百石日甘露五斗斤

社

綿津見神社社址地東國宮院間南北約五間三尺圍垣石反地敷松葉歩村北字
宮ニアリ大少靈夢ヲ祭ル明治五年村社ニ列ス祭日九月二十五日

寺

福田寺南寄浦宗東至給五間南北貳拾四間前庭石反五間八步東西五材方年寺木村
北字坐落下ニアリ応仁元年僧良諲開基創建ス

物産

紗撈黍實八千貫目、榎実實貳萬斤、干海老實貳百斤、生魚四百貫目、
瓦貫原老方枚、生蠶實八千斤、黒紗撈實五百斤
男爵實トスル者貳百拾五戸内農間陸ヲ染トスル者拾六戸

民衆

〇香々地村

本村古ヨリ香地莊ニ属ス

古時唐櫃村ノ一村タリ、元和ノ頃分テ香々地樋口唐櫃ノ三村タ
リシニ、明治八年三月復合シテ本村ノ称ニ改ム

疆域

東八丸山及ヒ耕地ヲ以テ境トシ見目村并ニ上香々地村ニ隣シ、
西ハ市野原ヨリ松津河ノ境トシ羽根村ニ接シ、南ハ椎ケ田迫ノ山
嶺ヲ限リ同村ニ界ス、北ハ海ニ抵ル

幅員

東西老里五拾五間南北拾九町八間面積

沿革

東真玉村ニ出ス

里程

大分県庁元都大分町頓田中央ニアリヨリ北方拾七里三拾三町貳
拾五間老尺六寸備本村字見數二ノ六百九拾番地新平尾老尺五間八町三尺
ノ地ニアリ、東方見目村へ九町貳拾老間尺四寸、南方羽根村へ
三拾老町五拾七間老尺、上香々地村へ貳拾四町拾四間老尺六寸
東南ハ上香々地ト耕地ヲ接シ、西北海ニ瀕シ運輸便ナレトモ耕
炭ニ乏シ

地勢

其色黒其實厚多クハ砂土ヲ交ヘ粗ホ、稲梁ニ適シ甘露ニ宜シ、
水利ニ善ム

地味

田四拾六町老尺七步、畑百四拾七町八反五畝拾拾步、宅地拾六町九反貳畝七步
内申院地貳反畝拾拾步、山林三拾三反八畝拾九步、藪貳町八反三畝拾八步、
芝地五反九畝貳拾六步、池沼老反五畝拾步、郷藏敷三畝拾三歩、物干場老
反八畝步、寄洲四反六畝貳拾步、總計貳百四拾五町五反三畝拾三歩

税地

荒地七反畝拾拾步、埋葬地九反五畝拾步、總計壹町六反五畝拾五步
社地宅町老尺九畝五步、山林拾五町九反九畝拾四步、藪壹町五反步、芝地四
反四畝拾七步、溜池壹町貳畝貳拾拾步、總計貳百四拾五町五反五畝貳拾六步

官有地

無税地
官有地
買租
〇地租 金千六百六拾五円七番五錢三厘、〇松税金壹千九百四拾六圓、〇牛馬光
買税金拾五円、〇酒類税金百三拾三円五拾錢、〇煙草小売税金五円、〇
県税金貳拾円、〇總計金千八百五拾四円七拾壹錢三厘

字石原ノ下千三百番地口柳平居宅前面南方面四尺三寸ノ地ニアリ、西方羽根村
へ三拾三町三拾三間尺、南方夷村へ貳拾七町四拾五間者尺貳
寸、北方香々地村へ貳拾四町拾四間者尺六寸

地勢 四方山林原野ニ属シ、運輸郵便ニシテ、柴薪之トセス

地味 其色黒其實美稲麥黍茶ニ適シ、尤甘薯ニ宜シ水利便ナラス

稅地 田四拾畝九反四畝拾四步、畑九拾町六反五畝拾五步、宅地拾町五反八畝
拾九步内寺院地貳反畝拾五步、山林三拾五町貳反九畝貳拾五步、藪五町六反
四畝拾五步、芝地貳反五畝拾五步、總計百八拾八町九反畝拾五步

無稅地 荒地老反五畝拾五步、埋葬地老町九畝拾五步、總計壹町貳反四畝拾五步

官有地 社地三反六畝拾四步、山林老町六反五畝拾五步、溜池老反九畝拾五步、寺院
地九畝拾四步、芝地老反五畝拾五步、揭示場貳步、總計貳町四反三畝拾四步

實租 ○地租金千五百三拾四圓五拾六錢五分、○牛馬充實稅金貳錢、○酒類稅
金百圓拾四圓、○原稅金壹百五拾錢、○總計金千六百八拾四圓六錢五分

戸數 本籍貳百三拾七戸半、社三戸小社、寺三戸、學塾濟濟茶亭手賣茶亭、總
計貳百四拾三戸

人數 男五百四拾貳口平民、女五百四拾貳口他出留習者老人

牛馬 牡牛六拾九頭、牝牛三頭、總計七拾貳頭、牡馬九拾七、頭牝馬
貳頭、總計九拾九頭

川 竹田川三等河二原五深六尺淺者八尺広拾五間狹狹間深レ緩ク水清ク味淡シ水運ヲ
黒土貯字寛谷ヨリ馳シ西流村ノ中央ヲ北流シ字カシノ松ニ至リ香々地村ニ入ル其宅
里拾五町同村ヲ發テ南ニ入ル、論地渡香々地道ニ属ス村南拾町竹田川ノ上流字
論地ニアリ深六尺広拾五間石渚ナリ、竹平橋ノ公往還ニ属ス村南三町竹田川
ノ上流字竹平ニアリ水深六尺広拾間橋長八間巾帯間三反被土橋、

池沼 秋本池東西貳畝南南北三畝東西三尺深田老町立拾間野村北ニアリ村ノ用水トナ
ス

道路 大分往一連ニ等道路ニ属ス村北見目村界字地定ヨリ南ハ朝根村界字鶴地ニ至ル長拾
九町三拾六間五尺五寸馬道老間三尺深敷數間三尺、香々地道ニ等道路ニ属ス
村南夷村界字備前ヨリ村北香々地村界字カシノ松ニ至ル馬道長八間五尺五寸馬道老
間敷數間、

揭示場 本村西ヨリ拾町貳拾四間字金丸ニアリ

社 日枝社村社々地裏西面拾五間余南北老町三間距離貳反八畝拾九步村南字園改ニア
リ大山昨命ヲ祭ル靈龜ニ年勤請明治五年村社ニ列ス祭日九月九日

寺 施恩寺釋迦宗東面拾三間余南北拾六間距離老反五畝拾四步山頂圓堂岩部
大佛寺東村西字三角ニアリ弘安中佛前運開基創始ス又天正年中僧曹經禪師シ永保四年
僧石四重ヲ再興ス、教証寺真宗東面拾八間余距離老反五畝拾五步東真
王村光徳寺東村北字平水ニアリ永禄六年佛安寺開基創始ス、川原寺真宗東面拾
三間余南北拾五間余距離七畝拾貳步東真王村光徳寺東村西字屋敷ニアリ文徳元年僧
宗開基創始ス

学校 公立小学校壹ヶ所村北字園東ニアリ生徒男百拾六人女四人

村会所 用務所村北字園東ニアリ

郵便所 郵便局村西字友成ニアリ

物産 瓦置五萬枚、生糸百兩三千七百五十斤、黒砂糖買懸千五百斤
民業 男爲ヲ業トスル者貳百拾六戸區ヲ業トスル者貳百拾六戸

○見目村

本村古ヨリ香々地莊ニ属シ古來分合ナシ

東ハ仏ヶ迫ノ山徑ヲ以テ西法寺村二界シ、西ハ高辻ノ山嶺ヨリ
香々地村竹田川ニ連シ小徑ヲ以テ境トシ、南ハ宇高辻ニ限リ上
香々地村及ヒ字見目河内ノ山路ヲ以テ夷村ニ接シ、東北ハ山嶺
ヲ以テ竹田津村ニ界シ、北ハ海ニ抵ル

偏員

拾葦

里程

地勢

地味

税地

官有地

無税地

資租

戸数

人数

牛馬

東西老里南北貳拾町拾五間面積

東西老里南北貳拾町拾五間面積

大分県庁元樫大分郡大分町坂田橋中央ニアリヨリ北方拾八里三町拾五間

貳尺懸柱本村字元兼七百七拾七番地連藤曾平野老里南西方貳拾町三尺ノ地ニア

リ、東方竹田津村へ老里老町四拾貳間五尺貳寸、西方香々地村へ

九町貳拾老間貳尺四寸、南方夷村へ老里拾八町七拾七間五尺七

寸

三面皆山林原野ニ属シ北ハ海ニ面ス、運輸便ニシテ薪炭用ニ適

ル

其色赤其實悪粗木、稲梁ニ適シ桑茶ニ宜カラス旱ニ苦ム

田三拾七町五反六歩、畑百三拾四町七反五畝貳拾貳歩、宅地拾壹町貳反拾五歩

内寺陸地三反畝拾九歩、山林八拾七町九反拾歩、藪九反歩、芝地七畝拾六歩、

寄洲壹反拾歩、荷揚場三畝貳拾歩、總計貳百七拾貳町四反八畝九歩

官有地 社地壹反九畝拾貳歩、山林七町八反三畝拾三歩、藏老長老畝歩、溜池六反五

畝歩、寺院地九畝拾歩、芝地四畝拾五歩、總計八町九反畝貳拾壹歩

無税地 荒地壹反七畝四歩、嶽下地貳町八反八畝九歩、沙留五反六畝歩、埋葬地七

反八畝貳拾歩、總計四町四反三歩

資租 ○地租金千四百拾八円九拾四錢四厘、○船税金八円七拾四錢、○牛馬売

買税金六円、○酒類税金九拾四円、○煙草小売税金五円、○果税金四

円、○總計金千五百四拾六円六拾八錢四厘

戸数 本籍貳百八拾三戸平民、社五戸小姓、寺四戸無籍者等其未詳、總

計貳百九拾貳戸

人数 男五百九拾貳口平民、女六百五十口平民、總計千九百九拾七口

牛馬 牡牛百五頭、牝牛四頭、總計百九頭、牡馬七拾五頭、牝馬貳頭、

總計七拾七頭

舟

川

池沼

道路

製塩場

暗礁

出崎

港

堤塘

製塩場

暗礁

出崎

港

堤塘

製塩場

暗礁

出崎

港

堤塘

製塩場

暗礁

出崎

港

堤塘

製塩場

日本形船貳拾三艘五百石未満貳百石以上貳艘貳百石未満五百石以上四艘五拾

石未満船拾六艘船老艘

見目川三等河ニ属ス深ニ三尺淺老尺広四間深老尺淺ク水清ク決決シ銀ヲ集村

山ノ神ニ號シ本村東南字實ノ畑ヨリ来リ村西ワ磯流白老シテ海ニ入ル其間老里貳

拾町、高嶋川三等河ニ屬シ深ニ五尺廣ニ五尺深ク水清ク味淡シ銀ヲ村

東字取ノ水ニ集リ村東ワ北流シ字江ノ下ニ至リ海ニ入ル其間五町、羽戸川三等

深老尺淺五寸広間廣三尺深ク味淡シ銀ヲ村東字取ノ水ニ集リ村北ワ西

流シ字羽戸ニ至リ海ニ入ル長三町、山神渡大分往還ニ属ス村東取拾五町見目川

ノ上流字山神ニアリ深老尺広三間歩廣、流波浦辺往還ニ屬ス村西五町ニ架シ見

目川ノ下流字砂原ニアリ水深貳尺廣三間歩長三間中老河船士備

河内池東西三拾五間南北四拾五間田圃村南ニアリ村ノ用水トナス

大分往還ニ等道路ニ屬ス村東ハ竹田津村界字豆ノ水原ヨリ南ハ香々地村界字

地地ニ至ル長拾壹町三拾間五尺深老尺廣三三尺村ノ東南字豆ノ水原ニ至

リニノ支道アリハ村南夷村ニ通シハ本村ニ入ル、浦辺往還ニ等道路ニ屬ス

村西香々地村界字牛頭ヨリ東ハ竹田津村界字界越ニ至ル長貳拾町馬路四尺道數老間

貳尺、夷道村ノ東南字豆ノ水原ヨリ南夷村界字實ノ畑ニ至ル長廿五町三三尺、

本村濱道浦辺往還字實老尺ヨリ西北ニ岐シ本村ノ浦ニ至ル長五町中老間

貴船堤邊迄ニ沿ヒ村北ニアリ長貳町馬路貳尺地數拾間水門一ヶ所修繕老民工屬ス

見目港長崎ノ時北ニ秀テ宮崎ノ西ニ崎ヲ東面五町南北六町海岸小浦状ヲナシ浦

深ニ八深老丈五石石以下入船船岸下ニ近クヘシ千餘ニハ深ニ三ヨリ四尺ニ主ル總モ

舟老ノ碇泊セザルハ香々地地ノ便ナラフ以テナリ

長崎等島嶼立村北ニアリ海面ニ斗出スル凡ソ六町余名ツケテ長崎ノ鼻トイフ

長崎縣東南西面南東北東面南南ニハ五尺千浦ニハ露出スルコト三村北東取拾町ニ

アリ長崎縣老町拾間ヲ隔テ島嶼ナシ香々地地ヲ距ル貳拾町

貳百石人民其利ヲ享ク

社

貴船社 村社 地東西拾五間余南北八間余面積四畝四歩村西宇倉船ニアリ歸寧神
ヲ祭ル祭日六月十五日、秋葉社 村社 地東西拾八間余南北拾間余面積壹畝反
畝家拾歩村西宇倉船ニアリ歸寧鳴基結日經合村西宇倉船ニ祭ス祭日三月十五日以
上ニ社明治五年村社ニ列ス

寺

三光寺 真宗東面拾畝間余南北拾八間余面積貳畝拾貳歩東真玉村本郷寺東村西
宇梅ノ木ニアリ寛文三年僧教念開基創進ス、光國寺 真宗東面拾五間余南北拾六
間余面積九畝貳拾貳歩東真玉村光徳寺東村東宇次郎九二アリ天正十八年僧教念開基
創進ス、長泉村^三 真宗東面拾六間南北貳拾六間余面積壹畝三畝貳拾五歩東真玉村
光徳寺東村南宇長相ニアリ天正四年僧了願開基創進ス、東智庵 淨土宗東西拾
畝間南北貳拾畝間西八畝拾四歩山崎國宗寺都六徳寺東村東宇山ニアリ慶長年中
僧無國開基創進ス元禄年中備大平中興ス天明二年僧妙山又テ再興ス

物産

胡麻實壹石、甘藷實壹拾方尺、榿實壹萬方八千斤、生魚貳百貫目、生
蠶實貳千七百斤、黒紗糖實壹千五百斤

民業

男農ヲ勤トスル者貳百七拾九戸農閑地ヲ棄トスル者拾四戸匠ヲ業トスル者壹戸
長崎洞邊面辺ニ臥睡ノ如ク開防陣斗出シ斷續編織シ七八丈其上ニ志志列置シ農
具横穴十餘(余志)アリ其尤モ大ナル者洞口高六間幅五間余潮水流入海深其
奥ハ極テ暗黒通風スルモ炬火ヲ口セザレハ入ル可カラズ又テ鯨角仕々取アリ漁業
ノ時舟艇其間ヲ往來スヘシ信ニ寄郵ナリ

○夷村

本村古ヨリ香地莊ニ屬シ古來分合ナシ

東ハ西黒木嶽白岩嶺ヲ境トシ千燈村ニ隣シ、西ハ箕ヶ平ノ山嶺
ヲ界トシ小畑村ニ接ス、南ハ山林耕地及ヒ大牟礼山ノ絶頂ヲ以
テ黒土村及東真玉村ニ界シ、北ハ字見目河内ノ山路ヲ界トシ西

方寺村ニ隣、ル西南ハ寺迫山ヲ以テ上々々地村ニ界シ、北ハ惠
良山嶺ヲ以テ同村ニ界ス

幅員

沿革

里程

東西九老里南北老里四町余面積
東真玉村二出ス
大分県序元郡六分町頭田中中央ニアリヨリ北方拾七里三拾貳町三
拾九間五尺貳寸標準本村字尾鼻東面宇敷原田南方三拾九間三尺ノ地ニアリ、
東方西方寺へ三拾四町拾貳間、西方小畑村へ貳拾七町三拾四間
四尺五寸、東真玉村へ老里九町三拾叁間四尺五寸、南方黒土村
へ老里貳拾老町五拾六間壹尺、北方上々々地村へ貳拾七町四拾
五間壹尺貳寸

地勢

東南ニ黒木壺尻村ノ諸山ヲ負ヒ西北原野ニ屬シ運輸便ナラス耕
墾乏トセス

地味

見目村ニ同シ
田三拾九町八反八畝七歩、畑五拾八町三畝拾七歩、宅地七町貳反九畝拾七歩、
山林拾九町九反五畝貳拾貳歩、藪貳拾九町貳反壹畝拾歩、芝地貳畝拾五歩、
總計百五拾四町四反畝拾八歩

税地

山林拾九町九反五畝貳拾貳歩、藪貳拾九町貳反壹畝拾歩、芝地貳畝拾五歩、
總計百五拾四町四反畝拾八歩

官有地

社地老町四反四畝貳拾三歩、山林拾三町三反六畝八歩、寺院地貳反壹畝貳拾
七歩、芝地老町五反四畝貳拾七歩、總計拾六町五反七畝貳拾五歩

無税地

埋葬地七反四歩

賃租

○地租金九百六拾八円三拾三錢五厘、○牛馬売買税金三円、○酒類税金
四拾三円、○銃類税金五円、○県税金五円五拾錢、○總計金拾六円八拾
三錢五厘

戸數

本籍百七拾戸平民、社貳戸小共、寺貳戸天台宗兼宇、總計百七拾四戸
男四百三十三口平民、女三百七拾壹口平民、總計七百七拾四口

牛馬

牡牛百八頭、牝牛貳頭、總計百拾頭、牡馬拾九頭、牝馬壹頭、

總計貳拾頌

大牟礼山高八拾五丈、廻巻曲徑三拾町村南ニアリ、頂上ハ三分シ、西ハ東真玉村ニ属シ南ハ大岩洞村ニ属シ東北本村ニ属ス山腹ヨリ西北ノ一部ヲ三分シ、西ハ東真玉村小畑村ニ属シ北ハ本村ニ属ス山脈西ハ坂幸礼山ニ連リ東ハ梁栗山ニ連ル山嶺以上唯タ草茅茂茂ス以下、續野原登路ニ乗リハ村南中ノ山ヨリ上ル高八町島ニシテ、連シテハ村南中ノ山ヨリ上ル高五町被ニシテ、西黒木山高百拾五丈、廻巻曲徑里貳拾町村東ニアリ、嶺上ヨリ三分シ北ハ八丁村ニ属シ東兼赤澤村ニ属ス西ハ本村ニ属ス山脈北ハ鷲ノ嶺山ニ連リ山腹以上唯タ草茅輪茂シ以下、松樹確立ス、登路一條村東字石河内ヨリ上ル高八町嶺ル嶺也

竹田川三等河ニ属ス、濶六尺、淺宅尺、拾間、流急ニ水清ク、未嘗シ堤防ナシ、水源ニアリハ、黒土村字寛谷ニ発シ、西溪字梓橋ニ米リ一ハ、間村、尻交山、龍ニ発シ、北流字石河内ヨリ米リ字英麩ニ至リ、合流村ノ中央ヲ西流シ上著々、地村界字大谷野間ニ入ル、長三拾五町、間村及ヒ香々、地村ヲ越テ、海ニ入ル、平治橋、香々、池道ハ、本村ノ中央、渠シテ竹田川ノ中流字、東底ニアリ、濶六尺、五間、橋長五間、由八尺石製ナリ、山神溝、深ニ尺、淺五寸、広野間、深ニ尺、長拾町、源ヲ村東字山ノ神ニ發シ、字、真ノ畑ニテ、尾目川トナル

香々、地、道、三、等、道、路、ニ、属、ス、村、南、界、上、村、カ、ジ、サ、ヨ、リ、村、北、上、香々、地、村、界、字、徳、間、ニ、至、ル、長、貳、拾、五、町、馬、野、間、道、數、貳、間、村ノ、中央、字、東、底、ニ、至、リ、ノ、支、道、アリ、ハ、西、ニ、折、レ、東、真、玉、道、アリ、ハ、北、ニ、折、レ、西、方、寺、道、アリ、字、ヤ、ケ、ウ、ニ、至、リ、東、ニ、折、レ、赤、根、道、アリ、赤、根、道、三、等、道、路、ニ、属、ス、村、東、字、石、河、内、ヨ、リ、村、北、字、徳、間、ニ、至、ル、長、拾、五、町、馬、野、間、道、數、貳、間、字、ヤ、ケ、ウ、ニ、至、リ、南、ニ、折、レ、黒、土、村、ニ、通、ス、ル、小、径、アリ、東、真、玉、道、三、等、村ノ、中央、字、東、底、ヨ、リ、西、ニ、折、レ、東、真、玉、村、界、字、大、岩、石、ニ、至、ル、長、拾、五、町、松、間、道、三、尺、間、所、ヨ、リ、西、ニ、折、レ、小、畑、道、アリ、西、方、寺、道、三、等、村ノ、中央、字、東、底、ヨ、リ、西、ニ、折、レ、小、畑、道、長、貳、拾、九、町、馬、野、間、道、五、寸、道、數、三、尺、小、畑、道、村ノ、中央、字、東、底、ヨ、リ、西、ニ、折、レ、小、畑、村、界、字、大、岩、石、ニ、至、ル、長、拾、三、町、貳、拾、間、市、三、尺

社

寺

物産

民業

沿革

○東真玉村(抜粋)

六所社村社社地東底武間開西北四拾八間、東嶺三反五畝、東嶺主伊村東字大倉ニアリ、伊孫掃部大任、神日神大高日神、赤間、神中、西、野、神、鹿、野、神、ヲ、祭、ル、其、世、二、年、勤、請、禮、久、八、年、及、文、祿、元、年、神、殿、ヲ、改、修、ス、明、治、五、年、村、社、ニ、列、ス、祭、日、九、月、九、日

靈仙寺天宮宗末百拾三間、余南北三拾拾間、而宿舎三、畝、拾、六、步、伊、孫、江、國、進、賢、部、延、福、寺、末、村、東、字、根、本、ニアリ、義、老、三、年、二、月、領、仁、開、闢、新、創、壽、正、平、十、三、年、佛、部、芳、中、興、ス、天、文、十、年、佛、慶、秀、又、又、之、ヲ、再、興、ス、実、相、院、天、宮、宗、末、百、拾、三、間、南、北、武、間、開、南、北、四、間、積、八、畝、拾、老、近、江、國、江、野、部、延、福、寺、末、村、東、字、根、本、ニアリ、享、保、二、年、佛、部、興、中、興、ス

植實、粟、貳、萬、斤、生、蠶、實、三、千、斤、梅、乾、石、食、塩、實、貳、萬、石

男、農、ヲ、業、ト、ス、ル、者、百、拾、九、戸、佛、ヲ、業、ト、ス、ル、者、五、拾、戸

慶長五年豊前國小倉城主細川忠興之ヲ領シ、其臣有吉興行松井康之ヲシテ、速見郡杵築城ヨリ支配セシム、寛永九年岡田肥後へ転封ノ後、小笠原忠知行州松本ヨリ徒封之ニ代ル、正保二年同氏參州吉田へ転ス、故ニ松平英親高田城ヨリ杵築へ徙リ、岡氏預テ支配ス、後元祿二年徳川氏ニ帰シ、日田郡永山布政所ニ歸ス、後正徳二年日向國延岡城主牧野成英ノ提封タリ、延享四年岡氏常州笠間ニ転シ、内藤政樹奥州磐城平ヨリ移テ之ニ代リ、大分郡千歳村ニ役所ヲ置キ分給セシム、明治四年二月、當國提封外七拾九村ト日向國日田縣所轄五郡ト杵諸縣児湯那珂宮崎ト地ヲ易ヘテ同縣ノ所轄トナリ、同十一月同縣廢セラレテ大分縣之ヲ管轄ス

2 天台宗本末寺名帳 (明治四年・抄出)

○叡山文庫藏

天台宗本末寺名帳

右間斷

右間斷

右間斷向村
竹林坊

靈仙寺末

前間斷

右間斷控古村
顯成就寺

豊後國東郡夷村

靈仙寺

右者天台宗本末寺号書面之通御座候以上

日田県管轄所

豊後國・東郡夷村

夷山

靈仙寺 (黒印)

賢達 (花押)

西京府管轄所

青蓮院宮道末

如何相心得候三付右様仕候宜敷御座候様候
御伺申上候

天台宗

日田県管轄所

豊後國・東郡夷村

靈仙寺

住職
賢達

管領御殿

御役所

明治四年辛未十二月

天台宗本末寺名帳

豊後國東郡夷村

実相院

右間斷向村

庵実坊

靈仙寺塔中

在龜舞之岡即同感向村靈仙寺
賢達等御在候

右間斷

右間斷

右間斷向村

大力坊

天台宗

一 西京府管轄所
青蓮院宮廬末
如何相心得候二付右様仕候旨敷
御座候哉、御傳申上候

実相院

日田奥管轄所

豊後國々東郡夷村

実相院

住職

兼亮

一 堂宇 竪三間横二間

一 境内 百拾坪

一 境外所有地

一 耕地三畝廿七步

一 地価金貳拾貳拾七

一 信徒四百五拾人

一 大分県庁迄拾六里三拾老町

以上

右者天台宗本末寺号書之通御座候以上

日田奥管轄所

豊後國々東郡夷村

夷山

実相院(黒印)

兼亮(花押)

明治四年辛未十二月

管領御殿

御役所

3 境外仏堂明細帳(明治二三年・抄出) ○大分県立公文書館蔵

大分県管下豊後国西国東郡堅来村字向

長谷寺末

観音堂

黄檗宗

一 本尊 観音

一 由緒 不詳

官有地第三種

堅来村字夷田

IV 寺院関係資料

△ 香々地 ▽

普照寺 香々地町大字香々地三八四八

浄土真宗本願寺派

〔寺院明細帳〕

天正一〇年（一五八二）周防守江口太郎通壽、秀吉に従い中国に下向し豊後国国東郡に渡滯す。その後、本願寺願如上人に帰依し阿弥陀仏画像並びに普照坊西休と房号法名を賜う。七世恵休の元禄三年（一六九〇）八月一五日普照寺の号を賜う。

〔香々地町誌〕

（開基普照坊については前記に同じ）その子、了念、慶安三年（一六五〇）良如上人より本尊絵像を授与され、第五世恵休、元禄一三年（一七〇〇）房号を改め、普照寺の寺号を許可された。

1 阿弥陀如来立像

一 軀

検材寄木造 玉眼 漆箔

像高五九・三 cm 元文五年（一七四〇）

（右足柄墨書）

康雲押見

（左足柄墨印）

（納箱墨書）

佛照寺殿門明達寺殿下徳寺下

豊後国国東郡香々地村

木佛尊像

普照寺観蓮

〔元文五年〕中 年四月五日取次主殿大工康雲

2 方便法身尊像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦三五・四 cm 横一六・二 cm

江戸時代初期

（猿背貼紙墨書）

本願寺禪良如（花押）

方便法身尊形

願主釋了念

3 方便法身尊像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦五二・二 cm 横二二・四 cm

元禄一三年（一七〇〇）

（猿背墨書）

本願寺總寂如（花押）

元禄十三歳十月廿日

方便法身尊形

仏照寺門徒明達寺光徳寺下豊後

国国崎郡香々地村普照寺住物

4 聖徳太子・七高僧像

二幅

絹本着色 掛幅装

縦一〇五・七 cm 横四八・一 cm

江戸時代前期

(裱背貼紙墨書)

本願寺釋寂如(花押)

5 親鸞上人像

一幅

願主釋

絹本着色 掛幅表

元文五年(一七四〇)

(箱墨書)

御開山様御影

佛照寺殿門徒明蓮寺殿下光徳寺下

豊後國国東郡香々地村 善照寺

元文五年(一七四〇)年四月五日

親達

取次 主殿

6 蓮如上人像

一幅

絹本着色 掛幅表

弘化三年(一八四六)

(納箱墨書)

信證院様御影

佛照寺殿門徒明蓮寺殿下光徳寺殿下豊後國国東郡香々地村 善照寺奉願

取次 主殿

寄進清願 眞信 安心

弘化三年十一月十日

普通次 重象 收 左衛権大尉

7 湛如上人像

一幅

(裱背墨書)

絹本着色 掛幅表
縦九八・九cm 横四〇・八cm
明和七年(一七七〇)

釋法如(花押)

本願寺前往湛如畫像

明和七庚寅年二月廿六日

佛照寺門徒明蓮寺下光徳寺下豊後國国東郡香々地村 善照寺々々物

願主釋奉憲

8 住如上人像

一幅

絹本着色 掛幅表

縦九九・三cm 横四〇・六cm

元文五年(一七八〇)

(納箱墨書)

信順院様御影

佛照寺殿門徒明蓮寺殿下光徳寺下

豊後國国東郡香々地村 善照寺

元文五庚申四月五日

親達 取次 主殿

9 文如上人像

一幅

絹本着色 掛幅表

文化六年(一八〇九)

(裱背墨書)

釋本如(花押)

文化六己巳年六月一九日

本願寺前住文如画像

佛照寺門徒明蓮寺下光徳寺下豊後國東郡香々地邑

善照寺々物

願主釋恭恵

10 本如上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦九八・八cm 横四〇・七cm

文政一〇年(一八二七)

(猿背墨書)

釋廣如(花押)

文政十丁亥年後六月廿六日

本願寺前住本如画像

佛照寺門徒明蓮寺下光徳寺下豊後國々東郡香々地

村善照寺物

願主釋 雲倪

11 親鸞上人絵伝

四幅

絹本着色 掛幅装

各縦一三四・七cm 横七七・五cm

文化六年(一八〇九)

(桐箱蓋表墨書)

佛照寺御門徒明蓮寺御下光徳寺御下

豊後國東郡香々地村

御繪傳

文化六_三年

12 喚鐘

一口

京次少進

寄進四之卷(二〇巻通記) 善照寺恭恵

銅製 鑄造 双竜頭

総高四六・一cm 竜頭高九・六cm

外径二七・一cm 内径二二・五cm

宝永四年(一七〇七)

(池ノ間陰刻銘)

寶永四丁_三歳

五月朔日

施主かゝ利右衛門

いものゝ為

善正寺

13 古文書・古記録

(1) 一枚起請文

紙本木版 縦三〇・一cm 横五一・六cm

(作者) 源空

建暦二年(一一二二)正月二三日

(2) 善照寺由来書

一冊 縦二七・八cm 横一九・〇cm

(3) 九條殿三部妙典書附に添書

一通 折紙 縦三一・六cm 横四六・五cm

(出) 宮武睦朗 (宛) 善照寺

安政四年(一八五七)九月

(4) 證文渡状覽

證文渡状覽

一冊 縦一六・二cm 横一六・七cm

(出) なし (宛) なし

年月日未詳

(5) 江口氏系圖

一卷

巻子装 縦二七・〇cm 横一五五・七cm
年月日未詳

(6) 九條殿御役所木札

一枚

木製墨書 縦八・八cm 横五・一cm

(出) 九條殿御役所(宛) 善照寺

年月日未詳

(7) 九條殿御役所木札

一枚

木製墨書 縦八・八cm 横五・一cm

(出) 九條殿御役所(宛) 善照寺門徒

年月日未詳

堤 釈迦堂 香々地町大字香々地

〔香々地町誌〕

その昔、香々地別宮八幡の境内に建立されていたといわれる神宮寺の一堂、釈迦堂を堤部落に移転したもの。

1 釈迦如来立像

一躯

樞材一木 彫眼 頭軀共木

背剝

両側面材別木 現状弃地

像高(現状) 七九・三cm

平安時代後期(一二世紀)

両手後捕、螺髪に漆痕あり。

△ 見目 ▽

光周寺 香々地町大字見目三二二六

浄土真宗本願寺派

〔寺院明細録〕

(水正の誤か)

天正一八年(一五九〇)堂山市之進と申す者通世して本願寺実如上人へ帰依し、法名了西と称した。孫香意に至り類如上人より阿弥陀仏画像を授与され光周房と号を賜う。三世教雲、宝永三年(一七〇六)二月二八日光周寺号を賜う。

〔香々地町誌〕

堂山市之進満村、永正年間(一五〇四)本願寺実如上人より法名を了正と賜る。曾孫香意、類如上人より方便法身尊像を授与され、次郎丸の古跡、光周坊を相続し一字を創立した。第五世教雲代元禄一二年(一六九二)三月一日寂如上人より木仏並びに寺号を許可された。

1 阿弥陀如来立像

一躯

栓材寄木造 玉眼 漆箔

像高五五・五cm

元禄一二年(一六九二)

備考 「光周寺記録」によれば、元禄一二年木仏寺号に許されたという。

2 方便法身尊像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦四〇・八cm 横一八・六cm

桃山時代

(裱背貼紙墨書)

方便法身尊形

本願寺釋迦如(花押)

願主釋香意

3 聖德太子・七高僧像

二幅

絹本着色 掛幅装

各縦一〇九・八cm 横四九・六cm

江戸時代前期

(裱背貼紙墨書)

本願寺釋迦如(花押)

上宮太子尊形

願主釋

4 古記録

(1) 光岡寺記録

一冊 袋綴

縦二四・三cm 横一八・四cm

延享三年(一七四六)

(2) 石軍記目錄 一冊 袋綴八三枚

縦二四・〇cm 横一七・四cm

(一八三四)

千時天保五^甲年歲九月下旬写之

豊後國東見目邑

光岡寺

大英主

東 智 庵

香々地町大字見目三二四九

臨濟宗大徳寺派

〔寺院明細帳〕由緒不詳

〔香々地町誌〕

南北朝のころ、無隠元庵禪師によって開創された。江戸時代、第五代東叡漸和尚のころ見目村の庄屋松成武左衛門藤原盛雄が再興した。

1 薬師如来坐像

一軀

檜材青木造 彫眼 漆箔

像高三二・二cm 膝張二一・〇cm

江戸時代前期

2 不動明王立像

一軀

檜材一木 玉眼 彩色

總高五一・四cm 横四三・八cm

江戸時代

3 涅槃図

一幅

絹本着色 掛幅装

縦一五三・九cm 横二二八・七cm

延享元年(一七四四)

(巻留墨書)

施入帳

都合百三拾目也

右者徒惣遣中寄付爲

延享元子歳

施入都合金壹両貳歩也

内金壹両 鳥羽太右衛門

同壹歩 鳥羽安右衛門

同壹歩 鳥羽熊平

現住永福

右者徒三人寄附寫

活藏代

安政二卯二月十四日

(軸木墨書)

延享元年

寺町八幡町下ル町

申立十月吉日

表具師 源右衛門

4 涅槃圖

一幅

絹本著色 掛幅装

縦一三〇・三 cm 横一二〇・五 cm

江戸時代中期

5 釈迦三尊十六善神圖

一幅

絹本著色 掛幅装

縦九二・五 cm 横四四・二 cm

江戸時代後期

6 出山釈迦圖

一幅

絹本著色 掛幅装

縦九六・八 cm 横三八・三 cm

江戸時代後期

(巻留墨書)

出山佛 竹田津村 永福禪寺現住淺井仙友代

7 出山釈迦圖

一幅

紙本墨書 掛幅装

縦一三〇・二 cm 横三七・四 cm

江戸時代前期

(落款・印章)

法橋海北友傍（海北友傍）「友情」

(楧背貼紙墨書修理銘)

文久二年 爲父母菩提爲山和尚

十二月八日 弥天宗鐵居士

大德寺 (墨円印) 春光妙融大師

見目村

東智庵 (墨円印)

海北友備

8 墨梅圖

紙本墨書 掛幅装

縦一〇三・三 cm 横二九・五 cm

江戸時代後期

(落款・印章)

(巻留墨書)

文晁（海北友備）「文晁」（海北友備）「谷印文晁」

文兆之梅

谷文晁梅之圖 (朱字方印)

研堂藏

9 千直齋書狀

一幅

紙本墨書 掛幅装

縦三一・九 cm 横五七・八 cm

江戸時代中期

(巻留貼紙墨書)

千直齋書

武者小路統直伯男

堅現 天明二年五十八没

一口

鋼製 鑄造 打出

總高二四・五 cm 外徑三一・二 cm

10 鑿子

内径二九・四cm

安永三年（一七四四）

（口縁部陰刻銘）

安永三年三月十七日施主永福禪寺活岩和尚并
惣檀中現住宗密代京大仙住西村上總大縁宗春作

西村宗春

11 位 牌

四基

(1) 總高五九・四cm

(表) 當庵開山勅證法雲普濟禪師無應元海大和尚

(裏) 延文三戊戌年十月十七日 現住宗政建之

(2) 總高四五・二cm

(表) 當寺中興東叔漸座元禪師

(裏) 正徳四申午歲正月初三日

(3) 總高四〇・八cm

(表) 當寺再興東叔洋座元禪師

(裏) 明和元甲申八月十五日

(4) 總高三二・四cm

(表) 守節庵竹翁居士覺位

(裏) 寛永二己巳年九月初四日

當庵開基 俗名松成武左衛門藤原彦雄

長 泉 寺 香々地町大字見目一四二三

浄土真宗本願寺派

〔寺院明細帳〕

大永七年（一五二七）升巴和泉守某本願寺証如上人に佛依し、長泉房了庵と別号法名を授けらる。第五世智秀の代に至り、宝永三年（一七〇六）三月四日長泉寺の寺号を免許。

〔香々地町誌〕

升巴和泉守、本願寺証如上人より蓮如上人御筆六字尊号並びに真如上人御筆末代無智章の御文を頂き、天文二二年（一五五三）法名を長泉坊了庵と賜る。源光寺と称する天台宗の堂宇を道場とする。第五世智秀代元禄七年（一六二四）三月二十五日本山より木仏御札下付、宝永三年（一七〇六）寺号を許可される。寛文年間法難により門徒の大部分を失う。

1 阿弥陀如来立像

一軀

檢材寄木造 玉眼 漆箔

像高六〇・九cm

宝永三年（一七〇六）

（背面墨書）

佛照寺門徒明運寺下光徳寺下

豊後國国東郡見目村

知秀

（裾底面刻銘）

（右足柄墨書）

盤後 見目村 知秀

康 寛

備 考 宝永三年の木仏御札あり

2 阿弥陀如来立像

一軀

檢材寄木造 玉眼 彩色

像高四〇・〇cm

江戸時代

3 聖徳太子・七高僧像

二幅

絹本着色 掛幅装

各縦一〇九・五cm 横五〇・四cm

享保二年(一七一七)

(楳杵墨書)

佛照寺殿門徒明蓮寺殿下光徳寺下

太子七高僧御影 豊後國国崎郡見目村長泉寺

享保二年丁卯三月三日 取次外記 知秀

4 親鸞上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

享保九年(一七二四)

(箱墨書)

佛照寺殿門徒明蓮寺殿下光徳寺下

御開山様御影 豊後國国東郡見目村 長泉寺

享保九年丁卯三月取次外記 知秀

5 良如上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦九七・三cm 横四〇・三cm

江戸時代前期

(楳杵墨書)

釋寂如(花押)

本願寺前住良如畫像

願主釋

6 文如上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

(楳杵墨書)

縦九九・一cm 横四一・〇cm

文政八年(一八二五)

釋本如(花押)

文政八乙酉年十月八日

本願寺前住文如畫像 佛照寺門徒明蓮寺下光徳寺下豊後國々東郡見目村

寺下豊後國々東郡見目村

長泉寺々物

願主釋秀峯

7 親鸞上人繪伝

四幅

絹本着色 掛幅装

各縦一三六・五cm 横七八・三cm

文政八年(一八二五)

(桐箱蓋表墨書)

佛照寺門徒明蓮寺殿下光徳寺御下

豊後國国東郡見目村

四之巻 長泉寺秀峯

御繪 寄遣(玉名連記)

取次 外記

文政八乙酉年十月八日

8 松に双鶴図

一幅

絹本着色 掛幅装

縦一三四・四cm 横七一・八cm

江戸時代前期

願主釋

印章「正信」(白文方印)

9 雲龍圖

絹本着色 掛幅装

縦三四・五 cm 横五〇・六 cm

江戸時代

落款 海北法橋筆写之

10 竹石頭

絹本着色 掛幅装

縦一三四・六 cm 横五五・八 cm

江戸時代後期

落款・印章 岳
「五岳」^{（五岳）}「竹榔古外史」^{（竹榔古外史）}

（平野五岳）

11 古文書・古記録

(1) 御文

掛幅装 断簡

（筆者）實如

室町時代後期

(2) 六字名号

掛幅装

（筆者）實如力

室町後期

(3) 木佛堂に付き一札

縦二八・八 cm 横三三・三 cm

（出）知秀（宛）上原兵庫

元禄七年（一六九四）三月一三日

(4) 寺号安楽寺望に付一札

縦三二・〇 cm 横四八・六 cm

（出）正沢（宛）上原縫殿

元禄一二年（一六九二）正月一四日

(5) 寺号長泉寺望に付一札

縦三一・八 cm 横四八・〇 cm

（出）知秀（宛）上原縫殿

元禄一二年（一六九二）正月一四日

(6) 宗門改帳長泉坊書上に付断り申状

縦三一・三 cm 横四〇・八 cm

（出）長泉坊（宛）高松御役所

元禄一二年（一六九二）三月

(7) 木仏尊像下附状

掛幅装 縦二三・〇 cm 横一五・七 cm

（出）源如（宛）智秀

寶永三年（一七〇六）三月四日

(8) 三箇條誓詞案

縦三一・一 cm 横四七・〇 cm

（出）長泉坊（宛）池永主税外二名

寶永八年（一七一二）二月晦日

(9) 長泉坊開基由緒案

縦二七・七 cm 横四〇・〇 cm

（出）長泉坊（宛）土肥理右衛門

正徳三年（一七一三）正月日

(10) 長泉坊由緒書上状

縦三〇・九 cm 横七八・〇 cm

(出) 長泉坊外七名 (宛) なし

正德三年 (一七一三)

(11) 長泉坊由緒書上状

一通

首關 縦二七・二 cm 横七四・五 cm

(出) 長泉坊外七名 (宛) 光徳寺

正德三年 (一七一三)

(12) 長泉坊由緒書上状

一通

縦二八・六 cm 横三三・三 cm

(出) 長泉坊 (宛) なし

正德三年 (一七一三)

(13) 三箇條誓詞案

一通

縦三一・〇 cm 横四七・六 cm

(出) 長泉寺智秀 (宛) 下間刑部卿外三名

正德四年 (一七一四) 二月二日

(14) 太子御影下附状

一通

尾關 縦三八・〇 cm 横二八・三 cm

(出) 関 (宛) 関

享保二年 (一七一七) 三月三日

(15) 太子高僧御影免許添状

一通

縦二〇・〇 cm 横四五・九 cm 包紙有

(出) 池永外記 (宛) 長泉寺智秀

享保二年 (一七一七) 三月七日

(16) 教興院様等冥如銀請取状

一通

縦二七・七 cm 横三一・二 cm

(出) 仏照寺紅点 (宛) 長泉寺

辰 (享保九年) 三月二日

(17) 御開山様御影等免許添状

一通

縦二〇・六 cm 横五五・四 cm 包紙有

(出) 池永外記 (宛) 長泉寺智秀

享保九年 (一七二四) 三月一日

(18) 御開山様御影等免許添状

一通

折紙 縦三二・九 cm 横四五・八 cm

(出) 佛照祐周 (宛) 長泉寺・門徒中

享保九年 (一七二四) 三月一日

(19) 寂永御消息寫

一通

縦三二・三 cm 横四六・二 cm

(出) 寂永 (宛) 惣坊主・惣門徒衆中

享保一九年 (一七三四) 中夏下旬

(20) 十四箇條控書寫

一通

縦三一・〇 cm 横一三一・〇 cm

元文元年 (一七三八) 二月七日

(21) 三箇條誓詞案

一通

縦三〇・四 cm 横四六・〇 cm

(出) 長泉寺知秀 (宛) 下間少邊外三名

延享四年 (一七四七) 二月

(22) 畝高之覺

一通

縦二七・八 cm 横七八・三 cm

明和五年 (一七六六) 一〇月

(23) 井之子堀人夫控

一冊

〔出〕 長泉寺僧珉外六名 (宛) 光徳寺
文化六年 (一八〇九) 四月 一通

〔筆者〕 僧珉

(24) 自剃刀免狀

天明五年 (一七八五) 林健三三日 一通

折紙 縦三九・二 cm 横五二・〇 cm

〔出〕 嶋田正就 (宛) 長泉寺僧珉・門徒中

天明八年 (一七八八) 三月二四日

(25) 林平外二名宗門送手形

縦二七・九 cm 横三九・三 cm 一通

〔出〕 妙寿寺 (宛) 長泉寺

寛政三年 (一七九二) 正月

(26) 佛飯志上納帳

一冊 縦二二・七 cm 横一五・五 cm

〔出〕 長泉寺 (宛) 御本山御役所

寛政七年 (一七九五) 六月

(27) 佛飯志上納帳

一冊 縦二二・〇 cm 横一五・五 cm

〔出〕 長泉寺 (宛) 御本山御役所

寛政一〇年 (一七九八)

(28) 本如御消息寫

紙本木版 縦三九・四 cm 横五七・〇 cm 二通

〔出〕 本如

寅 (文化三年) 一一月

(29) 僧珉隠居并後住相續願書

一通 縦二六・九 cm 横四七・〇 cm

〔出〕 長泉寺僧珉外六名 (宛) 光徳寺
文化六年 (一八〇九) 四月 一通

(30) 摂州法泉寺住持相續證狀

縦二七・六 cm 横三九・三 cm

〔出〕 光徳寺 (宛) 寺社御奉行所

文化一〇年 (一八一三) 三月

(31) 豊後國国東郡見目村浄園往来手形

一冊 縦二四・一 cm 横一七・五 cm

〔筆者〕 長泉寺秀琿

文化一四年 (一八一七) 八月日

(32) 本堂平洗鉢自然石取人数控

一冊 縦二四・一 cm 横一七・五 cm

〔筆者〕 長泉寺秀琿

文化一四年 (一八一七) 八月日

(33) 周作金子借用證文

一冊 縦二七・五 cm 横三九・一 cm

〔出〕 周作外一名 (宛) 米屋理右衛門

文政元年 (一八一八) 九月二九日

(34) 長泉寺石高書上狀

一冊 縦二四・八 cm 横三六・六 cm

〔出〕 なし (宛) なし

文政四年 (一八二二)

(35) 自剃刀免狀

一通 折紙 縦三九・三 cm 横五三・〇 cm

包紙有

(出) 鈴木幸春 (宛) 長泉寺秀瑛・門徒中
文政八年(一八二五) 六月二三日

(36) 絹製袷免許御印書

縦三二・三 cm 横四九・四 cm 包紙有

一通

(出) 本山 (宛) 長泉寺秀瑛

文政八年(一八二五) 六月二五日

(37) 御印書添状

縦二一・四 cm 横五一・一 cm

一通

(出) 鈴木幸春 (宛) 長泉寺秀瑛

文政八年(一八二五) 六月二五日

(38) 一代綾子衣并花色鈍子輪袷袷御免書 一通 包紙有

縦一六・八 cm 横二四・〇 cm

(出) 鈴木外記 (宛) 長泉寺秀瑛

文政八年(一八二五) 六月二六日

(39) 自剃刀御禮等算用書

縦一七・八 cm 横一〇四・五 cm

(出) 高瀬九朗右衛門 (宛) 長泉寺秀瑛

文政八年(一八二五) 六月

(40) 長泉寺秀瑛金子借用證文

縦三一・八 cm 横四一・五 cm

一通

(出) 長泉寺秀瑛 (宛) 佛照寺御役僧衆中

文政八年(一八二五) 八月

(41) 簾寄附禮銀請取状

縦二八・〇 cm 横三三・二 cm

一通

(出) 阪上民部卿 (宛) 長泉寺

文政十一年(一八二八) 四月

(42) 簾寄附取次覽

縦三一・六 cm 横四三・八 cm

(出) 阪上民部卿 (宛) 長泉寺

文政十一年(一八二八)

(43) 宗阿吟味に付同書案

縦二七・六 cm 横二〇四・五 cm

一通

(出) 光周寺外六箇寺 (宛) 千歳御役所

文政十三年(一八三〇) 二月

(44) 石碑料志帳

堅帳 縦二四・八 cm 横一六・六 cm

一冊

天保二年(一八三一) 正月

(45) 僧 碑銘書上帳

堅帳 縦二七・〇 cm 横一九・八 cm

一冊

(筆者) 淨應寺周印

天保二年(一八三一) 三月

(46) 自剃刀御禮銀預り状

縦一六・六 cm 横二三・六 cm

一通

(出) 御本山御納戸 (宛) 長泉寺良瑛

天保六年(一八三五) 三月六日

(47) 安樂寺正音等口上書

縦二七・四 cm 横四一・三 cm

一通

(出) 安樂寺正音外二名 (宛) 光德寺

天保一〇年(一八三九) 四月

(48) 廣如法名書出

一通

掛幅装 縦二三・三 cm 横一一・三 cm

(出) 廣如 (宛) 貞圓

天保一〇年(一八三九) 三月二日

(49) 下間仲濤書状 一通

折紙 縦四〇・〇 cm 横五三・六 cm

(出) 下間仲濤 (宛) 長泉寺秀琿

天保一四年(一八四三) 九月二九日

(50) 自剃刀免状 一通

折紙 縦三九・九 cm 横五三・四 cm

(出) 下間仲濤 (宛) 長泉寺僧淳・門徒中

嘉永元年(一八四八) 二月一日

(51) 一代青袈裟等免状 一通

縦二一・六 cm 横六六・三 cm

(出) 下間小進法印 (宛) 長泉寺僧淳

嘉永元年(一八四八) 二月一日

(52) 一代無金地合唐草輪袈裟に付御免書 一通

縦一七・〇 cm 横二四・一 cm 包紙有

(出) 下間小進法印 (宛) 長泉寺僧淳

嘉永元年(一八四八) 二月一日

(53) 一代緞子衣等に付御免書 一通

縦一七・〇 cm 横二四・三 cm 包紙有

(出) 下間小進法印 (宛) 長泉寺僧淳

嘉永元年(一八四八) 二月一日

(54) 一代布裳附に付御免書 一通

縦一七・一 cm 横二四・二 cm 包紙有

(出) 下間小進法印 (宛) 長泉寺僧淳

嘉永元年(一八四八) 二月一日

(55) 住寺相續免状 一通

折紙 縦四〇・二 cm 横五三・四 cm

包紙有

(出) 下間仲濤 (宛) 長泉寺僧淳・門徒中

嘉永七年(一八五四) 一〇月二四日

(56) 自剃刀免状 一通

折紙 縦三九・九 cm 横五三・六 cm

(出) 下間賴泰 (宛) 長泉寺洪琿・門徒中

慶應三年(一八六七) 五月四日

(57) 一代青袈裟等免状 一通

縦二二・一 cm 横五〇・二 cm 包紙有

(出) 下間大藏御法眼 (宛) 長泉寺洪琿

慶應三年(一八六七) 五月四日

(58) 一代無金地合唐草輪袈裟に付御免書 一通

縦一七・一 cm 横二四・三 cm 包紙有

(出) 下間大藏御法眼 (宛) 長泉寺洪琿

慶應三年(一八六七) 五月四日

(59) 一代黒秩父絹裏附に付御免書 一通

縦一七・〇 cm 横二四・一 cm 包紙有

(出) 下間大藏御法眼 (宛) 長泉寺洪琿

慶應三年(一八六七) 五月四日

(60) 一代淺黄絹切袴に付御免書 一通

縦一七・一 cm 横二四・一 cm 包紙有

(出) 下間大藏御法眼 (宛) 長泉寺洪珉

慶應三年(一八六七)五月四日

(61) 一代布裳附に付御免書 一通

縦一七・一 cm 横二四・二 cm 包紙有

(出) 下間大藏御法眼 (宛) 長泉寺洪珉

慶應三年(一八六七)五月四日

(62) 一代板子衣等に付御免書 一通

縦一七・〇 cm 横二四・二 cm 包紙有

(出) 下間大藏御法眼 (宛) 長泉寺洪珉

慶應三年(一八六七)五月四日

(63) 御帳木書上状 一通

縦二七・六 cm 横二〇・五 cm

(出) 松成介四郎 (宛) なし

年末詳・子二月

(64) 御禮冥加金間合わせに付願書寫 一通

縦三二・三 cm 横九〇・〇 cm

(出) 長泉寺 (宛) 御本山御繪所御使僧

年末詳・丑三月

(65) 寶光寺金子請取状 一通

縦一七・六 cm 横三三・二 cm

(出) 寶光寺 (宛) 長泉寺

年末詳・寅一〇月二〇日

(66) 總會所冥加金請取状 一冊

長帳 縦一七・四 cm 横四八・二 cm

(出) 總會所 (宛) なし

年末詳・寅一月

(67) 御印書 一冊

長帳 縦一七・四 cm 横四八・二 cm

包紙有

(出) 本山 (宛) 長泉寺洪珉

年末詳・卯八月二五日

(68) 隱密役に付口達 一通

縦一七・六 cm 横一三一・三 cm

(出) なし (宛) なし

年末詳・辰七月

(69) 御繪表所達書 一冊

紙本木版 整帳

縦二六・四 cm 横一八・八 cm

(出) 御繪表所 (宛) なし

年末詳・午一〇月

(70) 安心一件に付願書寫 二通

縦二五・七 cm 横一六九・六 cm

(出) 小倉領法中 (宛) なし

年末詳・未六月一〇日

(71) 御修整墓志に付御印書 一冊

長帳 縦一五・八 cm 横四六・〇 cm

(出) 本山 (宛) 長泉寺

年末詳・未一月五日

(72) 御印書 一通

縦二七・〇 cm 横五〇・七 cm 包紙有

包紙有

(出) 本山 (宛) 長泉寺

年未詳・西六月一三日

(73) 自剃刀御禮等書上状

縦一五・六 cm 横七八・五 cm

(出) 高瀬九郎右衛門 (宛) なし

年未詳・西八月

(74) 安心一件に付申渡状

縦二五・〇 cm 横三七・三 cm

(出) 下間兵部卿 (宛) □教寺智調

年未詳・西二月

(75) 官職触頭取上等に付申渡状寫

縦二七・一 cm 横三七・一 cm

(出) なし (宛) 専想寺弟子崇祝

年未詳・亥三月

(76) 下間兵部卿法眼等通署書状寫

首闕 縦二五・〇 cm 横八八・三 cm

(出) 下間兵部卿等 (宛) 豊後国内陣衆等

年未詳・二月二日

(77) 佛照寺金子請取状

縦一八・一 cm 横二九・五 cm

(出) 佛照寺 (宛) 豊後延岡願七箇寺法中

年未詳・五月二九日

(78) 佛照寺教圖書状

折紙 縦三五・六 cm 横四八・四 cm

(出) 佛照寺教圖 (宛) 豊前中津明蓮寺

年未詳・二月一日

(79) 銀子請取状

縦一五・六 cm 横四二・二 cm

(出) 柳来出店 (宛) 長泉寺御納所

年未詳・七日

(80) 長泉寺僧 法語書

縦三二・三 cm 横九〇・〇 cm

(筆者) 長泉寺僧琅

年月日未詳

(81) 御免書寫

縦二六・〇 cm 横三六・八 cm

文政八年(一八二五) から嘉永七年(一八五四)

(82) 寺屋敷等書上状

縦一六・四 cm 横五六・五 cm

(出) なし (宛) なし

年月日未詳

(83) 長泉坊由緒書上状案

縦二六・〇 cm 横三五・七 cm

(出) 長泉坊知秀 (宛) なし

年月日未詳

(84) 某書状

縦三八・六 cm 横四三・三 cm

(出) なし (宛) 長泉寺僧淳

年月日未詳

(85) 諸恩法名書出

一通

縦一八・五 cm 横二五・二 cm

(出) 跡恩(宛) 猶遺

年月日未詳

(86) 國崎見目浦八景之引弁詩

一通

縦二九・〇 cm 横一三六・〇 cm

(筆者) 不詳

年月日未詳

三 光 寺

香々地町大字見目四七七
浄土真宗本願寺派

〔寺院明細帳〕

片山林左エ門という者真宗に帰依し、法名教念と称す。実如上人より蓮如上人の染筆六号の名号を授与され、元禄十一年(一六九八)七世澤円に寺号免許、寂如上人より三光寺を賜う。

〔香々地町誌〕

文亀元年(一五〇二)片山林右エ門、本願寺実如上人より法名を正念と賜り、蓮如上人御筆六字尊号を下附された。願如上人より方便法身尊像を授与され正念坊を現在地に開いた。その後、元禄十一年(一六九八)第六世教念代に寂如上人より木札並びに寺号を下附された。

1 阿弥陀如来立像

椀材寄木造 玉眼

漆箔

像高六〇・三 cm

江戸時代前期

2 妙見菩薩立像

一 瓶

3 方便法身尊像

(像背面陰刻銘)

享保五子

進藤五郎左衛門

施主見目村之住

應鑑吉且

同性吉兵衛

一幅

絹本着色 掛幅装

縦八八・六 cm 横三六・六 cm

室町時代末期

(被背貼紙墨書)

本願寺釋顯如(花押)

方便法身尊形

眞正寺門徒

4 聖徳太子・七高僧像

二 幅

絹本着色 掛幅装

各縦一〇八・六 cm 横四八・三 cm

江戸時代中期

(被背貼紙墨書)

上宮太子尊形

本願寺釋静如(花押) 願主釋

5 親鸞上人絵伝

四 幅

絹本着色 掛幅装

(横背墨書)

各縦一三五・四cm 横七八・一cm
安政六年(一八五九)

釋廣如(花押)

安政六己未年八月一九日

大谷本願寺親鸞聖人之緣起 佛照寺門徒明蓮寺

下光徳寺下疊後國郡

見目村三光寺物

願主釋法觀

6 太鼓

一口

榊材 長胴 紙打

胴長五六・四cm 胴径四七・六cm

元禄九年(一六九六)

(胴内墨書)

元禄九年 大阪住吉より求む

仁兵衛

7 本堂改築趣意

一幅

絹本着色 掛幅装

縦一〇七・七cm 横五二・七cm

天保五年(一八三四)

伽藍堂 香々地町大字見目

1 阿弥陀如来立像

一軀

捨材寄木造 玉眼 漆箱

總高一一〇・三cm 像高七七・六cm
室町時代前期

一ノ瀬薬師堂 香々地町大字見目

1 喚鐘

一口

銅製 鑄造 双竜頭

總高四五・二cm

外径二六・八cm 内径二二・三cm

(池ノ間陰刻銘)

氏子中

庄屋

松成助四郎

盛長

医王山

東智禪庵

現任

宗政

弘化三四年

三月吉祥日

豊后國東郡

見目村薬師堂

△上香々地▽

施恩寺 香々地町大字上香々地

臨濟宗大徳寺派

〔寺院明細簿〕

創建弘安年間（一二七八）開山勸諭佛照大光禪師南溪殊勝大和尚、俗姓田原豐前守貞広公の次男也。開基は吉弘嘉兵衛統鎮。天正年間（一五七三）中興開山勸諭禪師清基宗僧大和尚、中興開基は竹田津弥左工門淨綱・享保四年（一七一九）再中興右門義隆和尚。大徳寺末。

〔西国東郡誌〕

三重村大字上香々地字三角に在り、臨濟宗大徳寺派なり。禪苑録日、延元二年（一二三七）南溪禪師之を創む、寺記に云、創建は弘安年中にして開山を勸諭佛照大光禪師、南溪殊勝大和尚とす、俗姓田原氏貞廣の二男なり、天正年間竹田津彌左衛淨綱再興し、享保四年再々興の開祖を義隆和尚とす、爾後十世を経て現住持大友宗寛に至る豊鑑壽鳴録白、南溪禪師諸ハ殊勝、豊後州田原ノ府主、藤ノ貞廣ノ大友政村原豊前刺史子也、豊前ニシテ授ニ寶陀ノ悟庵和尚ニ交染受戒、長シテ叩北京東相ノ諸刹、竟ニ參シ萬壽ノ玉峰圭公ニ、啓發ス玄鍵ヲ圭ハ是レ高峰日公ノ神足ナリ也、師已ニ帰豊親養ス實際寶陀ニ尋テ開テ施恩寺ヲ千香賀地、掘跡應ヲ千ノ都シ字間ニ、晩節遊化シ遠州ニ檀越某氏建金剛山貞永安國寺ヲ請師爲開山、凡所住ノ處法蓮濟々道俗虔々康安一作正安者非也元年八月二日奄然トシテ示滅云々

1 釈迦如来坐像

一 瓶
椀材寄木造 玉眼 漆箔
像高二八・四 cm
江戸時代前期

2 観音菩薩坐像

一 瓶
椀材寄木造 彫眼 漆箔
像高四九・四 cm
江戸時代前期

3 南溪殊勝・無隠元臨坐像 二瓶

石造 安山岩
像高（南溪）七〇・四 cm
（無隠）七四・二 cm
室町時代

4 涅槃図

一 幅
紙本着色 掛幅装
縦一八七・七 cm 横一一二・七 cm
江戸時代前期

（落款・印章）

信武筆「信武」（方郭内白字内印）

5 釈迦三尊十六善神図

一 幅
絹本着色 掛幅装
縦一一六・九 cm 横五八・〇 cm
江戸時代

6 喚鐘

一 口
銅製 鑄造 双竜頭
總高六六・五 cm 竜頭高一三・〇 cm
外径三六・〇 cm 内径二八・五 cm
安政三年（一八五六）

（池ノ間陰刻銘）

古禅山施恩禪寺從ノ異韻香瓶進止威儀ノ古来有半鐘雖然無破煩惱雲吟真如月ノ銘而何代乎鑄之哉ノ驚起韶陽被着七條曾不鐵鐘又盆鑄音ノ現前一衆異口同音ノ声不闕愁之久口今古峰松嶺周海潮音ノ年立秋有三角忠右ノ上透響漢下徹黄泉

衛門企於再鑄之盛／佛果成就善提圓滿／事時哉近隣信者

五穀豐登万民快樂／捨於淨財而補助之／山門水護法光無量

施主名繁父故畧之／皆安政三丙辰年／別記之譬如擊鐘隨

十月如意日／于其剛柔其声出施／現住應山誌

者又如短者短髮／心長者長髮心

教 証 寺 香々地町大字上香々地二二〇八

浄土真宗本願寺派

〔西国東郡誌〕

三重村大字上香々地字宗永に在り、真宗本願寺派なり。天文中阿部忠左衛門佛法に帰依し、髪を削りて浄宗と称し、一字の寺堂を建てて佛像を安置す、元禄中六世の住持浄雲の時、本山より寺號を許され、爾來連續現時に至る。

〔香々地町誌〕

安部忠左衛門貞教、天文一八年（一五四九）一〇月一九日証如上人より法名善宗を賜り、運如上人の御筆六字尊号と方便法身絵像を授与され、その子安慈、宗永道場を開く。元禄四年（一六九一）二月二三日第六浄雲代に寺号許可され、同七年一〇月三日木仏御札を下附された。寛文の法難にあい、第五世教祐は費をおうて自害した。

1 阿弥陀如来立像

一 軀

松材青木造 玉眼 漆箔

像高五九・五 cm

元禄四年（一六九一）

（像背墨書）

佛照寺門徒明蓮寺下光徳寺下

豊後國國崎郡 佐古村

教証寺 浄雲

（像底墨書）

豊後 佐古村 教証寺

2 阿弥陀如来立像

一 軀

松材一木造 彫眼 彩色 付厨子

像高二・五 cm 厨子高四一・二 cm

室町時代後期

（厨子底面裏墨書）

真靈仙寺素樺弟子円明房権隆 安永二ノ比京都大佛宮口御内佛相勤候時御院家日殿院権僧正ヨリ惠心作申而拜領致候則阿弥陀如来也 天明元五年京都市町御池上ル所并上喜内ト申大佛師再興仕候

3 方便法身尊像

一 幅

絹本着色 掛幅装

縦五一・一 cm 横二一・一 cm

室町時代後期

判読不能

4 方便法身尊像

一 幅

絹本着色 掛幅装

縦三四・三 cm 横一五・七 cm

室町時代後期

（像背墨書）

方便法身尊形

本願寺釋尊如

願主釋 教祐

(備考) (当寺過去帳等によれば天文一八年(一五四九)のもの

と見られる。

5 聖徳太子・七高僧像

二幅

絹本着色 掛幅装

各縦一〇六・九cm 横四八・三cm

宝永七年(一七二〇)

(袂背墨書)

本願寺釋寂如(花押)

寶永七年庚辰臘月

本朝高僧圖像

佛照寺門弟明運寺光徳寺下
豊後國崎郡佐古村教證寺

常住物

願主釋淨雲

6 親鸞上人絵伝

四幅

絹本着色 掛幅装

各縦一三四・八cm 横七七・八cm

享保一九年(一七三四)

(箱表墨書)

佛照寺殿門徒明運寺殿下光徳寺下

豊後國崎郡佐古村 教證寺是

享保十九年(一七三八年)十二月五日取次師法眼

7 青山流水図

一幅

紙本墨画

掛幅装

吉嗣拜山筆

縦一三六・五cm 横五一・七cm

明治一七年(一八八四)

(落款・印章)

甲申豊秋

拜山

(獨掌翁) (拜山)

8 大字名号

一幅

紙本墨書 掛幅装

縦四二・五cm 横一九・三cm

室町時代後期

(備考)

伝運如筆

9 古文書・古記録

(1) 木佛寺号真加金請取状写

一通

縦二四・〇cm 横三一・二cm

(出) 極印所新左衛門 (宛) 教證寺淨雲

元禄四年(一六九二)二月一日

(2) 光徳寺末寺證文

一通

縦二六・九cm 横三九・四cm

(出) 光徳寺雲山 (宛) 金井九右衛門

元禄五年(一六九二)二月七日

(3) 新九郎大妻借用證文

一通

縦二六・三cm 横一八・六cm

(出) 新九郎外一名 (宛) 淨雲

元禄七年(一六九四)九月一〇日

(4) 宗門改帳自判に付願書

一通

縦二一・〇cm 横四三・五cm

(出) 浄雲 (宛) なし

元禄一五年 (一七〇二) 一〇月三日

(5) 宗門改帳寺号書上に付断状 一通

縦三〇・五cm 横九三・七cm

(出) 浄雲 (宛) 高松御役所

元禄一五年 (一七〇二) 一〇月

(6) 宗門改帳寺号書上に付託状写 一通

縦二五・九cm 横三七・五cm

(出) 浄雲 (宛) なし

元禄一五年 (一七〇二) 一〇月

(7) 酒造米之覚纏形 一通

縦二六・三cm 横三八・二cm

(出) なし (宛) 御勘定所

元禄一五年 (一七〇二)

(8) 當寺再興(表紙のみ) 一点(長巻)

縦三七・八cm 横一三・三cm

(出) 浄雲 (宛) 室七郎左衛門

元禄一六年 (一七〇三) 正月

(9) 教證寺三ヶ條書上一札 一通

縦三〇・四cm 横四七・七cm

(出) 教證寺浄雲 (宛) 横田監物

宝永七年 (一七一〇) 一二月

(10) 住職附風願書写 一通

縦二七・四cm 横三九・〇cm

(出) 教證寺浄雲等 (宛) 寺社御奉行所

享保七年 (一七二二)

(11) 公儀御本山掟書写 一点(短巻)

縦二三・六cm 横一七・三cm

享保一七年 (一七三二) 閏五月

(12) 教證寺後住定證文写 一通

縦三一・四cm 横四〇・五cm

(出) 専了外二名 (宛) なし

寛保三年 (一七四三) 八月一七日

(13) 宗門改帳自判に付願書写 一通

縦二六・九cm 横三八・八cm

(出) 光徳寺等 (宛) 宗門御奉行所

寛延二年 (一七四九) 正月

(14) 宗門改帳自判に付願書写 一通

縦二六・八cm 横三八・八cm

(出) 安楽寺等 (宛) 宗門御奉行所

寛延二年 (一七四九) 正月

(15) 寺請證文 一通

縦二七・九cm 横三九・五cm

(出) 教證寺 (宛) 所々御改衆中

寛延二年 (一七四九) 八月

(16) 御本山よりの違書に付請書写 一通

縦二七・三cm 横三九・二cm

(出) 光徳寺等 (宛) 下間大進法印外四名

安永二年 (一七〇五) 一二月

(17) 光徳寺後住相續に付證状写 一通

縦三一・三 cm 横四五・七 cm

(出) 明蓮寺 (宛) 寺社御奉行所

安永七年(一七二〇) 正月

(18) 養子後住相續に付願書写 一通

断簡 縦二七・二 cm 横三八・五 cm

(出) 教證寺外二名 (宛) なし

天明四年(一七八四) 一〇月

(19) 年中行司・教祐死去由来書 一冊

豎帳 縦二四・七 cm 横一八・九 cm

(筆者) 住圓

文化五年(一八〇八) 五月

(20) 御公儀御木山記録 一冊

豎帳 縦二七・八 cm 横一九・七 cm

文化五年(一八〇八) 以降

(21) 布袋附御免之覚 一冊

豎帳 縦二五・〇 cm 横一八・七 cm

文化八年(一八一二)

(22) 決心書 一冊

豎帳 縦二四・七 cm 横一七・七 cm

天保二年(一八四二)

(23) 圖了金子借用証文 一冊

縦二七・〇 cm 横三八・一 cm

(出) 教證寺圖了 (宛) 本山貸附人衆中

天保五年(一八四四) 一一月

(24) 決心請合証文 一通

縦二四・五 cm 横六九・〇 cm

(出) 安太郎外二名 (宛) 教證寺

嘉永三年(一八五〇) 正月二七日

(25) 條目懇詞一札 一通

縦三三・七 cm 横四五・八 cm

(出) 教證寺圖了 (宛) 下間少進外五名

嘉永七年(一八五四) 一〇月

(26) 奉寄遣帳覚 一冊

豎帳 縦二〇・七 cm 横一四・〇 cm

(筆者) 教證寺淨口

安政四年(一八五七) 〇月

(27) 誓詞延引款願書控 一冊

豎帳 縦二七・一 cm 横一九・五 cm

(出) 長泉寺等 (宛) 嶋田左兵衛權大尉

安政六年(一八五九) 六月

(28) 恵心僧都作木仏願状 一通

(出) 土谷儀兵衛等 (宛) 瀬口安右衛門

文久二年(一八六二) 正月吉日

(29) 常末官扣 一冊

豎帳 縦二四・四 cm 横一七・九 cm

文久二年(一八六二) 九月一〇日

(30) 教證寺銀子借用証文 一通

縦二六・三 cm 横三八・七 cm

(出) 教證寺等 (宛) 本山貸附役人衆中

慶應三年(一八六七) 五月

(31) 往来手形御判に付願書 一通

縦三〇・五 cm 横四六・七 cm

(出) 茂左衛門 (宛) 高松御役所

年未詳・巳一月

(32) 赤門改帳寺号書上に付願書写 一通

縦二六・一 cm 横三七・七 cm

(出) 上原縫殿 (宛) 室七郎左衛門

年未詳・二月

(33) 本尊等吟味に付召状写 一通

縦二四・三 cm 横三五・七 cm

(出) 光徳寺 (宛) 安樂寺

年未詳・戊八月一日

(34) 石田半助外一名連署書状 一通

折紙 縦二七・一 cm 横三八・六 cm

(出) 石田半助外一名 (宛) 光徳寺

年未詳・二月二三日

(35) 某書状 一通

縦二六・四 cm 横三六・一 cm

(出) 關 (宛) 岡村

年未詳・二月二〇日

(36) 坊號免状 一通

折紙 縦三七・二 cm 横五〇・一 cm

(出) 佛照寺任圓 (宛) 教證寺淨靈

年未詳・六月朔日

(37) 僧願書状 一通

縦一五・八 cm 横五七・八 cm

(出) 僧願 (宛) 教證寺

年未詳・六月二四日

(38) 釣鐘鑄造銀子請取状 一通

縦二七・五 cm 横四〇・四 cm

(出) 藤右衛門外一名 (宛) 平之丞外一名

年未詳・六月二五日

(39) 恵了口上書 一通

縦一三・九 cm 横二七・一 cm

(出) 恵了 (宛) なし

年未詳・一〇月一五日

(40) 某書状 一通

縦二五・五 cm 横三六・五 cm

(出) なし (宛) 教證寺等

年未詳・一〇月二〇日

(41) 代替祝儀請取札状 一通

縦二〇・〇 cm 横二八・八 cm

(出) 佛照寺 (宛) 教證寺

年未詳・霜月一〇日

(42) 代替祝儀請取札状 一通

縦二一・三 cm 横三九・九 cm

(出) 佛照寺 (宛) 教證寺且那伊右衛門

年未詳・霜月一〇日

(43) 教證寺免状等書上帳 一冊

長帳 縦二一・三 cm 横三五・一 cm

年月日未詳

(44) 教興院様御札等書上状

縦二四・七cm 横二九・七cm

一通

年月日未詳

(45) 太子七高僧御札書上状

縦一四・九cm 横三五・五cm

一通

年月日未詳

(46) 糸門改帳御判書出に付願書雛形

縦二六・六cm 横三九・〇cm

一通

(出) 浄雲 (宛) なし

年月日なし

(47) 末寺證文雛形

縦二六・九cm 横三八・五cm

一通

(出) なし (宛) 室七郎左衛門

年月日なし

(48) 坊號免許願書雛形

縦二四・五cm 横三六・七cm

一通

(出) なし (宛) 岡村武左衛門外一名

年月日未詳

(49) 岡本武左衛門書状写

縦一三・六cm 横五六・一cm

一通

(出) 岡本武左衛門 (宛) 佛照寺

年月日未詳

(50) 切手遅参に付申状写

斯册 縦二八・七cm 横一三・〇cm

一通

年月日未詳

(51) 糸門改帳御判書書上に付願書

斯册 縦二七・四cm 横三九・〇cm

一通

(出) なし (宛) なし

年月日未詳

(52) 教証寺系圖

(筆者) 不詳

一通

年月日未詳

(53) 法敵記

年月日未詳

豎帳

一冊

川原寺

香々地町上大字香々地二五三〇
浄土真宗本願寺派

[寺院明細様]

由緒不詳

[香々地町誌]

力匠出家して浄土真宗に帰依し、坊を建つというも伝不詳、光徳寺末。

開基宗周

1 阿弥陀如来立像

一軀
桧材寄木造 玉眼 漆箔

像高五六・二cm

江戸時代中期

(像背面墨書)

佛照寺門徒明蓮寺下光徳寺下

豊後國国崎郡佐古村

川原寺智観

(右足柄墨書)

康雲

豊後 佐古村 川原寺

(左足柄墨印)

「康雲」

2 方便法身尊像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦五二・八cm 横二二・九cm

元禄八年(一六九五)

(横背墨書)

本願寺釋寂如(花押)

元禄八歳亥三月六日

方便法身尊形

佛照寺門徒明蓮寺光徳寺下豊後國国崎郡佐古村川原寺物

願主釋祖運

3 聖徳太子・七高僧像

二幅

絹本着色 掛幅装

縦一〇五・一cm 横四八・七cm

享保三年(一七一八)

(箱蓋表墨書)

佛照寺殿門徒明蓮寺下

太子七高僧御影 豊後國国崎郡佐古村 川原寺

享保三戊戌年九月七日 敬心

4 親鸞上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

延享元年(一七四四)

(別表装掛幅墨書)

釋法如(花押)

延享元甲子年五月二日

大谷本願寺親鸞上人真影 佛照寺門徒明蓮寺下

光徳寺下豊後國国崎郡佐古村川原寺物

願主釋智観

願主釋智観

5 運如上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

嘉永三年(一八五〇)

(箱蓋表墨書)

佛照寺殿門徒明蓮寺殿下光徳寺

殿下豊後國国崎郡佐古村

信證院棟御影 寄進(一〇名運影) 川原寺鼻道

嘉永三庚戌年六月五日

取次 大隅介

6 湛如上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦九八・四cm 横四〇・六cm

延享元年(一七四四)

(襖背墨書)

釋法如(花押)

延享元年(曆五月二日)

本願寺前任蓮如畫像 佛照寺門徒明蓮寺下光徳

寺下豊後國崎郡佐古村川原

寺々物

願主釋智觀

7 本如上人像

一幅

絹本着色 掛幅装

縦九・五 cm 横四〇・八 cm

文政一〇年(一八二七)

(襖背墨書)

釋廣如(花押)

文政十丁亥年後六月廿六日

本願寺前往如畫像 佛照寺門徒明蓮寺下光徳

寺下豊後國々東郡香々地佐古

村川原寺物

願主釋智恩

寄造(二名)

8 親鸞上人絵伝

四幅

絹本着色 掛幅装

各段一三八・一 cm 横七七・四 cm

嘉永三年(一八五〇)

(桐箱蓋表墨書)

佛照寺御門徒明蓮寺御下光徳寺御下

豊後國東郡佐古村

御繪傳

寄造(二〇名通記) 川原寺昇道

9 西行 図

一幅

掛幅装 縦一八・五 cm 横二八・三 cm

江戸時代前期

(巻留墨書)

西行之因道利筆

(海北道利か)

10 墨竹 図

一幅

掛幅装 縦一一・四 cm 横三二・七 cm

江戸時代後期

(落款・印章)

旭莊並題 「旭印庵」(白字方印) 「竹墩山人」(朱字方印)

11 古文書・古記録等

(1) 後鳥羽天皇和歌懐紙 一通

縦三〇・五 cm 横五七・八 cm

(筆者) 伝後鳥羽天皇

年月日未詳

(2) 大字名号 一幅

掛幅装 縦三三・五 cm 横一四・五 cm

(筆者) 伝蓮如筆

室町時代後期

(3) 寂如法名書出 一通

掛幅装 縦二〇・〇cm 横九・八cm

(出) 寂如 (宛) 宗蓮

元禄二年(一六九九) 正月二十五日

(4) 親鸞聖人御手跡寄進状 一通

縦三〇・八cm 横二二・五cm

(出) 甲野太郎右衛門入道露幻 (宛) なし

寛文八年(一六六八) 二月一日

(5) 一字一石之記 一通

縦二九・九cm 横七三・〇cm

(筆者) 信源

享保一四年(一七二九) 臘月下洗日

(6) 本如御消息 一通

縦三九・九cm 横五三・〇cm

(出) 本如 (宛) なし

寅(文化三年) 一月

(7) 廣如法名書出 一通

掛幅装 縦二五・三cm 横二三・〇cm

(出) 廣如 (宛) 尼妙像

元治二年(一八六五) 三月二六日

(8) 月輪殿下兼寛公六百五拾回御遠忌に付演述 一通

折紙 縦三六・一cm 横四九・〇cm

(宛) 朝山教綱外四名 (宛) 豊後國門末中

年月日未詳

(9) 大谷光尊御詠歌等書上状 一卷

縦三一・〇cm 横二二・九cm

年月日未詳

(10) 血脈 一通

年月日未詳

〽 夷 〽

靈仙寺 香々地町大字夷二四六

天台宗

〔寺院明細帳〕

養老二年(七一八) 仁聞菩薩の開基。衰微せしを後村上天皇の後字僧
郷秀なるもの再興す。正平一三年(一二五八) 藤原登法師丸殿より御
下文あり。その後、慶長八年(一六〇三) 慶秀法印再興す。延暦寺末、
本尊は不動明王、阿弥陀如来。

〔西国東郡誌〕

三重村大字夷字根本に在り。天台宗延暦寺末なり。養老中仁聞律師の
創建にして、六郷山廿八寺の一なり。國土鎮護の道場として往昔隆盛
を極めたる中比衰退し、正平年間郷秀再興し、其後又た慶長八年慶秀
再々興し、爾後連綿今に及ぶ。現時の住職に至るまで傳世二十代なり
又初不動明王、阿弥陀如来を本尊と爲したるを、明治三十七年十二月
允許を得て千手觀世音に改むと云ふ。

〔太室管内志〕 豊後之九 國崎郷下

「六郷山諸勤行注進目錄」に中山分一夷石屋本尊千手觀世音菩薩年中
勸修正月會日五月一日香向三日修二月會日一日至月日三夜勤之二季彼岸大念佛一

夏九旬不断供花一日轉讀大般若會九月九日讀經廿八小立藥修八座問答講讀佛八人三箇夜法華不断經七月十八日至廿日佛之天台大師供十一月廿四日佛名經十二月廿五日月並動觀音講每月十八日一萬卷心經會每月一日次動初後入堂讀誦經典最勝講一座觀音經卅三卷云云、「異國降伏御祈禱卷數日録」に中山分夷山奉勸修七箇日不動行法每月奉讀誦大般若經一部每季奉講讀仁王經一百座奉讀誦觀音經一千卷奉讀誦勝陀羅尼一千反奉講法花八講問答云云、「六郷廿八山本寺日録」に流通分末山十箇寺夷山靈仙寺云云、「六郷山定額院主日録」に古蔭蘇山靈仙寺本堂也卅八箇所ノ第一云云院主根本院ノ徒十二房也云云、「文書」に延曆寺政所下六郷中山住僧神源所可早停止園力十力紀印等濫妨任相傳證文者神源令領掌田島領掌之道依證文道理而園力十力紀印等指不帶一紙之證文巧者諸無道致濫妨云云事實不穩便次第也早停止後等濫妨證文等之理可令領掌神源之狀如件所宜承知勿遺失以下、建久九年四月日修理別當法眼和尚書判上座大法師吉判寺主大法師書判、三人にあたる小寺主法眼隆永、都羅那大法師書判、また下可令早任次第相承之旨安堵領掌豊後國六郷山夷山院主職ノ事、右件ノ院主職者卿秀次第相傳當知行無相違之條公家武家公驗等明白也者任道理可令卿秀安堵領掌有限於佛神事并年賣濟物者守先例可致其沙汰之狀如件正平十三年三月十一日藤原登法師丸書判、「混本院靈仙寺縁起」に豊後州國崎郡香々地在古蔭蘇山靈仙寺者住昔仁閑菩薩所開闢之靈場面六郷二十八刹之内其一也焉近古以來遭戎馬之變神祠佛閣俱發柱礎僅存數個房院至徒有其名而失其實祝者靡不爲之嘆息也于茲村之長有隈井吉進發善心促備夫謀村民經歲月而鑿開廢窟仁閑菩薩手所刻千手大慈尊像暨諸天神之尊像安置于其中年々相繼至二本堂蠟燭根本本實相二院次第榮復而長列叡山之末刹也云々千時寶永七年寅之應鑑吉且代兼仙住持聚泉法印化藏經自序自疏、河陽大寶山派公松嚴探楓於蘇蘇峨之山觀室また「天明年中六郷山寺院名簿」に夷村靈仙寺背連院末、杵築

領合除地二町三段六畝拾一步山王宮除地一段六畝廿步大石山王宮司、今井裏師堂境内除地一畝などあり、靈仙寺は香地庄夷村にあり口向にして入五間に横八間の堂あり本尊は不動明王なり寺前に小流あり向ひにさがしき岩の高く聳えたるいくつと云敷をしらず又後方にも大岩講堂半町上流にあり入三間に横四間の堂なり本尊は千手觀音なり傍佛吉祥なり左に大師堂あり皆岩洞なり不動と龍王とは右ノ方にあり各小會なりすべて堂前に杉の古木多し比寺に古文書數通あり

1 千手觀音立像

一 般

杵材寄木造 玉眼 彩色

總高一五五・一 cm 台坐高五〇・〇 cm

像高九九・〇 cm

鎌倉時代後期

(光背裏陰刻修理銘)

第十四世

功德院賢秀法印 發願主

夷山靈仙寺隱居 隈井淳藏

第十五世

當山住職實達法印 同 小野勇八郎

明治第十年

根元六親王信受佛

2 阿弥陀如来坐像

一 般

樟材一木 玉眼 彩色 膝前横一材

像高八一・四 cm

平安時代後期 (一二世紀)

備考

面部ほか後世の補修多し

3 観音菩薩立像

一軀

桧材寄木造 玉眼 漆箔

像高四七・九 cm

江戸時代

4 十一面観音菩薩頭部残欠

一軀

樟材寄木造 玉眼 彩色

総高七一・八 cm

江戸時代

5 不動及び二明王坐像

三軀

桧材寄木造 玉眼 彩色

像高(不動)五四・八 cm

(明王)五三・七 cmと五一・二 cm

江戸時代中期

6 毘沙門天立像

一軀

桧材寄木造 玉眼 彩色

像高六二・一 cm

江戸時代

7 釈迦三尊十六善神図

一幅

絹本着色 掛幅装

縦一〇六・五 cm 横四五・〇 cm

江戸時代後期

8 地獄極楽図

一幅

紙本着色 掛幅装

縦一四一・四 cm 横八七・五 cm

9 梵鐘

一口

銅製 鑄造 双竜頭

総高二〇・一 cm 竜頭高二〇・八 cm

外径六八・九 cm 内径五五・二 cm

室町時代後期

10 磬

備考

無銘だが、形式から豊後高田鋳物師の作とみられる。

11 銅製 鑄造 打出

一口

銅製 鑄造 打出 享和二年(一八〇二)

総高二七・〇 cm 外径三三・一 cm

内径三〇・八 cm

(口縁部陰刻銘)

六郷夷山靈仙寺什物享和二_五及一二月賢應代施主

夷村限井大作

12 銅製 鑄造

一口

銅製 鑄造

宝永七年(一七二〇)

径三七・六 cm 厚四・二 cm

(陰刻銘)

宝永七_庚天三月日 夷山靈仙寺常什物施入法印

奈良

12 鍍鉢

一对

銅製 鍍鉢 打出

径三六・一 cm

享保二年(一七三六)

(陰刻銘)

享保廿一辰年三月

奉寄違鏡之事同夷山現住豪純施主庚戌度七三反田惣六敬白

13
鬼会面

四面

(1) 鈴鬼男面

桐材 彩色 面長二四・二cm
面幅一六・八cm

(裏面墨書)

文明ヨリ嘉永五子年迄
三百八十二年也嘉永六丑年

調形之法印賢廣代

施主 堂園 矢野末吉

同名藤六

同姓瀧平

(2) 二鈴鬼女面

桐材 彩色 面長二二・八cm
面幅一五・九cm

(裏面墨書) (男面に同じ)

大施主 鍛冶迫 猪股富藏

同名治三良

同名清三良

(3) 荒鬼面

桧材 彩色 面長二七・三cm
面幅二一・六cm 片耳欠失

(裏面墨書) (前文に同じ)

村長 隈井元左衛門跡

大施主 堂園 矢野末吉

同名藤六

同姓瀧平

(4) 荒鬼面

桧材 彩色 面長三〇・〇cm
面幅二二・二cm

(裏面墨書)

文明ヨリ嘉永五子年迄
三百八十二年也嘉永六丑年正月五日

法印賢廣代開眼之

大施主 庄屋 隈井元右衛門跡

猪股富藏

同 治三良

同 清三良

佛師 板井徳四良園吉

14
古記録

(1) 靈仙寺由来記 一通 折本三紙雜
經二八・六cm 横一〇二・〇cm

(奥書) 青蓮院御門跡御末 靈仙寺住

寛保元年辛酉七月廿五日 豪桓(花押)

神社

御奉行所

牧野備後守様 御代指上候

(2) 寺社方差出帳 一冊 袋綴一七枚
縦二四・二cm 横一六・一cm

(表書) 正徳三年
寺社方差出帳

巳正月 關東郡 夷村

(3) 靈仙寺寺地書上 一冊 袋綴一三枚
縦二四・三cm 横一七・二cm

同姓瀧平

江戸時代後期

京麩屋町二条下ル角大佛師

井上喜内調刻之

実相院 香々地町大字夷一〇二九

寛延二〇天三月吉日

夷山内實相院養慶

院主養檀上京初調之

天台宗

〔寺院明細録〕由緒不詳

〔西園東郡誌〕

三重村大字夷字宮ノ木に在り、天台宗延暦寺末なり。

〔正徳三年寺社方差出帳〕

天台宗 實相院 此境内除地 東西一八間南北九間

3 阿弥陀如来坐像

一軀

松材寄木造 玉眼 漆栢

像高三七・〇cm

江戸時代

4 如意輪觀音菩薩坐像(修理中) 一軀

(箱墨書)

權少僧都野野者兼周覺

奉寄達如意輪觀音一鉢

小南院并氏施主妙園尼

5 涅槃圖

一幅

紙本着色 掛幅装

縦一二七・九cm 横七三・八cm

江戸時代

6 明王・天部諸尊像

二幅

紙本着色 掛幅装

縦一〇五・七cm 横四四・六cm

江戸時代後期

2 觀音菩薩坐像

一軀

松材寄木造 玉眼 漆栢

總高八五・二cm 像高三九・九cm

寛延二年(一七四九)

(櫃坐裏面墨書銘)

1 不動明王・二童子立像

三軀

松材寄木造 玉眼 彩色

總高一五三・五cm 像高(不動)七二・五cm

(鈔羯羅) 四〇・八cm (割叱連) 四二・六cm

天明三年(一七八三)

(光背裏陰刻銘)

天明三龍次等 大願主 円修院養辨

奉造立不動尊一鉢 小野迫伊右衛門

十月吉祥日 細工 板井養藏

7 三行書

一幅

紙本着色 掛幅装

縦一二八・八cm 横五一・六cm

江戸時代後期

(落款・印章)

「廣瀬漢印」^{〔中野氏〕}「吉甫」

8 磬子

一口
銅製 鋳鋼 打出

總高一六・七cm 外径二三・七cm
内径二二・〇cm

天明七年(一七八九)

(口縁部蔭刻銘)

天明七未九月日 實相院澄存代

9 位牌

享保二十乙卯

一基

當寺中興權大僧都堅者法印壽量院信榮和尚位

四月十六日

六 所神社 香々地町大字夷

1 如来形立像

一軀

樟材一木 彫眼 頭鉢共木 内割
なし 両手先挿込(欠失) 素地

平安後期(一二世紀)

2 如来形坐像(1)

一軀

樟材一木 彫眼 頭鉢共木 背割
膝前別木欠失 現状素地

像高(現状)八八・六cm

平安時代後期(一二世紀)

3 如来形坐像(2)

一軀

樟材一木 彫眼 頭鉢共木 内割
なし 膝前柄挿込(欠失) 素地

像高(現状)六一・三cm

平安時代後期(一二世紀)

4 十一面觀音立像

一軀

樟材一木 彫眼 頭鉢共木 内割
なし 右腕、左肘先、両足先欠失

像高九五・八cm

平安時代後期(一二世紀)

備考 天冠台上に頭上面を挿込んだ柄穴の痕跡あり

5 菩薩形立像(1)

一軀

樟材一木 彫眼 頭鉢共木 内割
なし 両腕足先欠失 現状素地

像高六七・二cm

平安時代後期(一二世紀)

6 菩薩形立像(2)

一軀

樟材一木 彫眼 頭鉢共木 内割
なし 左肘先挿込(欠失) 右腕
手先まで共木 両足首下欠失

像高(現状)八二・八cm

平安時代後期(一二世紀)

※ 六所神社の仏像群は、旧夷岩屋所在のものであるため、ここに収載した。

焼尾 阿弥陀堂 香々地町大字夷焼尾

[香々地町誌]

六郷山巡礼第三百七番札所で、本尊は千手観音という。

1 如来形立像

一軀
榿材一木 彫眼 蓮肉共木 内刺なし
両手先欠失 現状素地

総高九五・二cm 像高九二・〇cm
平安時代後期(一二世紀)

2 如来形立像

一軀
榿材一木 彫眼 素地
総高七〇・二cm 像高六四・八cm

(像背面墨書)

元禄四辛亥年

願主

隈井

甚□□

元禄四年(二六九一)

3 阿弥陀如来坐像

一軀
榿材一木 彫眼 彩色
像高三九・四cm 台座高二三・五cm

(像底墨書)

享保十四己酉四月日

豊後國東郡夷呂施主

熊井仁右衛門尉房光

嫡子仁兵衛

豊前宇佐宮寺并教信作

(台座上)面墨書

文久三年癸亥二月日

彫色仕俵 夷村

隈井嘉八代 板井泰四口

成是

國安

4 阿弥陀如来坐像

一軀
榿材一木 彫眼 彩色 請花共木
像高四四・二cm 台座高二六・四cm

江戸時代

横 岳 観 音 堂 香々地町大字大字夷横岳

1 観音菩薩坐像

一軀

榿材一木 彫眼 頭体共木 両腕
膝前別木 内刺なし 現状素地
像高五〇・五cm 台座高三四・二cm

(膝前底面墨書)

奉修造

救世尊座

享保十四己酉五月日

大佛師□□芝崎町

幡屋山□□相院

堂所志地如件

文龜三^ノ年十月

(櫃座底面墨書)

再興志意趣者

豊之後州香々地谷寅色横嶽之

住再興之大願主津崎清九郎依志願



文龜三年(一五〇三)

台座は享保一六年(一七三二)の後補。

2 涅槃図

一幅

紙本着色 掛幅装

縦一二九・五cm 横九二・八cm

江戸時代

3 釈迦三尊十六善神図

一幅

紙本版刷着色 掛幅装

縦一〇三・一cm 横四三・六cm

明治一三年(一八八〇)

(巻留貼紙墨書)

明治十三辰年三月吉日 小畑村

喜捨主 小野廣藏 寶泉寺什物

爲先祖代々菩提 現十四賢光代

4 磬子

一口

銅製 鋳造 打出

高二八・〇cm 外径三六・二cm

内径三三・五cm

寛政九年(一七九七)

(口縁部陰刻銘)

爲笠翁道仙居士花室妙蓮大師 施主野上藤左エ

門寛政九巳三月吉日 豊後國東郡羽根邑福田

禅寺現住祖外代 金童子作

5 位牌

一基

總高四八・〇cm

(表) 當寺開山無學洞大和尚禪師

(裏) 善 天明八戊申年七月二日

〈 堅 来 〉

宝 泉 寺 香々地町大字堅来三九二一

曹洞宗

[西園東郡誌]

曹洞宗総持寺末にして三浦村大字堅来にあり。由緒不詳

[香々地町誌]

創立不詳。明正天皇(一二二九)の御代、孤岩舟大和尚が愚師無学

大洞大和尚禪師を拜請開山として再興。

1 釈迦如来坐像

一軀

松材寄木造 玉眼 漆箔(近年)

像高二五・〇cm

江戸時代

米巻石 爲供料 施主岡正藏

梅 天明八戊申年八月一六日

△ 小畑 ▽

梅松寺 香々地町大字二二四六

曹洞宗

〔西国東郡誌〕

曹洞宗總持寺末にして三浦村大字小島にあり、當寺の住職一四代に焼失に付古記録絶て焼亡故に詳かならず。

〔香々地町誌〕

もとは天台宗、応永一七年（一四一〇）に泉福寺二世明嚴鏡昭大和尚が開山。第六世中興大梁玄達和尚、宝永元年（一七〇四）より梅松寺と公称した。

1 観音菩薩坐像

一 軀 一 椀
桧材寄木作 玉眼 彩色

像高二七・三 cm

室町時代前期

2 十一面観音坐像

一 軀 一 椀
桧材一木 彫眼 彩色

像高二九・五 cm

室町時代後期

3 涅槃図

一 幅

紙本着色 掛幅装

縦一四〇・〇 cm 横一〇二・七 cm

安永三年（一七七四）

（箱身底墨書）

涅槃尊像 安永三年正月日禪外代新添 代主富

村中 男女若考志

4 釈迦三尊十六善神図

一 幅

絹本版刷著色 掛幅装

縦一二六・九 cm 横五二・三 cm

明治三三年（一九〇〇）

（巻留墨書）

拾六大善神尊像明治三十三年迄同八月首 施主隈井繁平

5 琴棋書面図屏風

一 双

紙本着西金地著色 六曲一雙

（右隻） 縦一五五・二 cm 横五五・九 cm

（左隻） 縦一五五・二 cm 横六一・四 cm

6 喚鐘

江戸時代後期

一口

銅製 鑄造 双電頭

総高五七・〇 cm 電頭高一・〇 cm

外径二九・〇 cm 内径二三・四 cm

（池ノ間陰刻銘）

銘云 維持天保九年

曉鐘響遠近 戊三月吉日

一聲驚駭夢 豊後國東郡小畑邑

音聞助佛事

太平山梅松禪寺

隨獄救群衆

現住實伴代

咄

施主

永閉却三惡佛路

總檀中

連今到涅槃佛地

△ 羽根 ▽

福田寺

香々地町大字羽根二一八九

曹洞宗

〔寺院明細帳〕萬年寺末
〔香々地町誌〕

養老年間、仁聞菩薩開基、天台宗水鏡山として創立、後廢絶、応仁二年（一四六八）正月二日寒江転雪和尚、庵寺跡に白野村西村の福田寺の寺号を移し再興した。転雪和尚の師白野荘の松樹山萬年年寺第五世保福良護大和尚を開山とした。

1 聖観音菩薩坐像

一 瓶

椀材寄木造 玉眼 漆箱

像高三六・三 cm

江戸時代

2 涅槃図

一 幅

絹本着色 掛幅装

縦一二九・〇 cm 横一〇〇・三 cm

3 釈迦三尊十六善神図

一 幅

紙本版刷着色 掛幅装

縦一二八・四 cm 横五六・五 cm

江戸時代後期

4 喚鐘

一 口

鋼製 鑄造 双竜頭

總高五八・〇 cm 竜頭高一三・〇 cm

外径三三・一 cm 内径二五・八 cm

明治四四年（一九一）

（池ノ間陰刻銘）

志喜附從重政七代目

半鐘寄進名記

柳本源十

初回

嫡男 同 重範

正徳四年春為二親

真福寄附柳本重政 西國東郡三浦村羽根

二回

弘化二年秋為祖先追

福寄附從重政四代目

同郡 高田町住 宇都宮雄山代

柳本興左エ門

鑄工技師

三回

吉原吾一郎

明治四十四年春繼祖先之

高田町住

吉原吾一郎

高田町住

一枚材 長胴 紙打

5 太鼓

一 口

一枚材 長胴 紙打

(胴表刻銘)

胴長六八・二cm 口径五一・五cm
嘉永二年(一八四九)

嘉永二年春新調

施主柳本理十

明治廿三年春張替

二回目全 源十

昭和三年春張替

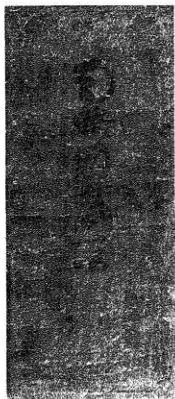
三回目全 重範



2 石造無題元佛像（施恩寺）



1 木造釈迦如来立像（堤釈迦堂）



4 六字名号（長泉寺）



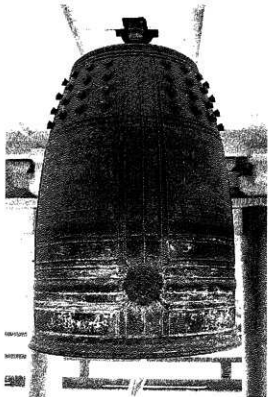
3 方便法身像（教証寺）



6 木造阿弥陀如来像 (伽藍堂)



5 方便法身像 (三光寺)



8 梵鐘 (靈仙寺)



7 木造阿弥陀如来坐像 (靈仙寺)



10 如来形立像（焼尾阿弥陀堂）



9 如来形坐像（六所神社保管）



12 木造観音菩薩坐像（梅松寺）



11 木造観音菩薩坐像（横岳観音堂）

V 小社小堂資料

△ 香々地 △

一 早田観音堂（字早田）

堂宇 二間×二間。①石造観音菩薩像 総高六〇cm、②木造修業大師像 総高六三cm、③木造修業大師像 総高五八cm、④石造弘法大師像 総高三〇cm、⑤石造弘法大師像 総高三〇cm、⑥石造地藏菩薩像 総高二五cm、⑦木造子安観音菩薩像 総高二五cm、⑧木造薬師如来像 総高三一cm この他に、石造観音菩薩像三四軀がある。

（境内）

①石灯籠一基 銘文なし 総高一三〇cm、②石塔（寄せ集めのもの）現高一二二cm、この他に国東塔の塔身のみがある。

・早田講中が祀っている。

・延享四年（一七四七）の「寺社書上帳」にみえる「唐橋村観音堂」がこれにあたると思われる。

・講中の人たちは、毎月17日の夜、参籠して「詠歌三十三番とその他の」詠歌をあげる。

二 坂口観音堂（字坂口）

堂宇 四・七m×四・二m。①木造子安観音坐像 総高七〇cm、②榎札「奉造立御堂一字跡地福苑天下泰平万民和楽ノ大正十年四月吉祥日 施恩寺住職妙峯文代ノ世話人 末廣一角 安松庄一 木下四浪吉 坂本達吉 安松健吉 木下駒太郎 大工芳本久吉 石工安松庄七 木挽安松藤夫 左官土田定次」、③榎札「坂口観世音御安座三十三回忌念ノ有縁無縁

三界萬靈十方至聖供養嚴修ノ昭和三十八年三月一日」、
・坂口講中によって祀られている。

三 五郎丸不動堂（字五郎丸）

堂宇 二間×二間半。①木造不動明王立像 総高四九cm、②石造地藏菩薩像 総高四二cm、③石造弘法大師像 総高三五cm、④木造修業大師像 総高五三cm

・五郎丸講中が祀っている。

四 貴船宮（字五郎丸）

拝殿 三間×一間半、境内 約一畝、石祠二基 ①「荒神宮ノ嘉永三年庚ノ戌三月吉日 五郎丸氏子中」、②銘文なし 総高一〇〇・五cm

（境内）

①鳥居「幸垂光降奇賜字祐清願慶臨成就快因ノ萬延元庚申歳英則吉祥日ノ村史 測三郎右衛門頼房」

・七月九日と二月九日に五郎丸の氏子の人たちが参拝し神職を招いてお祭りをする。

五 樋ノ口観音堂（字樋ノ口）

堂宇 二間×二間、境内 約二畝。①木造聖観音菩薩像 総高五五cm、②石造弘法大師像 総高二三cm、③石造弘法大師像 総高三九cm

（境内）

①無元庵主塔一基 「享保十二丁末年無元庵主塔十月二十六日」、総高一九三cm、②国東塔一基 総高二二六cm この他に、五輪塔が四〇基ほどある。

・毎月一七日に樋ノ口講中の人たちがお参りする。こゝ詠歌などあげる。特に正月の一七日には昼お参りし、お経ご詠歌をあげる。直会をする。また六月一七日には供養盆踊りをし、甘酒が出る。

・井は施恩寺の末寺とされていた。

六 辰宮(字樋ノ口)

石祠一基「奉喜連/御宝殿/天保四巳年八月吉日」。

(境内)

①鳥居 総高約三m、霜額「辰宮」、右柱「天下泰平/寛政三年亥二月吉日 樋ノ口村中」、左柱「日月清明/慶応二寅晚奉吉日/香々地村吏江本藤左衛門秋綱 庄屋洲安左衛門 世話 俊藏」。

・一月の辰の日(二一/二五)に、樋ノ口講中の農菜をしている一五軒の人が集まり、神職を招いてお祭りをする。夜は直会をする。六月も辰の日にお祭りをする。

七 叶測観音堂(字叶測)

堂宇 二間×二間。

①木造観音菩薩立像(厄除観音と言われている) 総高九一cm

(境内)

①圍東塔一基 総高三〇〇cm、②庚申塔一基「奉修庚申塔」 総高一二六cm、③石殿一基、皆明治十八年酉年仲春吉日/往古仁聞菩薩作安置在之中古羅燒碑像埋比処故造立之石佛者也 総高一六一cm(観音像を収める)、④一字一石塔一基「淨政寿妙典一字一石塔/文化十一年甲戌歳二月吉祥日」 総高一三四cm、⑤一字一石塔一基「淨土三部経一字一石塔/文政二年二月吉日」 総高一二四cm、⑥石祠一基「文化十一年/施主当

村大五郎」 総高七三cm、⑦石祠一基「金比羅大権現 善神王宮/文政十一年二月吉祥日」 総高九三cm、⑧石灯籠一基「御神燈/天保十四年」 総高八五cm、⑨忠死記念碑一基 総高二五七cm。このほかに、五輪塔が多数ある。

・旧二月七日 叶測講中で一戸から米少量を取立ておぶつしよろをつくつて、参る。

・八月九日 施恩寺の住職を招き、お経をあげる。

・八月一七日 講中の者がこ詠歌をあげる。夜爐の上で盆踊りをする。

八 坂口不動堂(字坂口)

①木造不動明王像「昭和五年 板井益次郎」 総高一六〇cm、②小笹ハナ坐像 総高九三cm、③童子立像「昭和十二年二月十四日 坂口女中」 総高一一五cm

・不動堂はお花堂とも呼ぶ、お花と呼ぶ女性の請願によって建立されたからだといわれている。

九 坂口稲荷社(字坂口)

社殿 二m×二・八m

(境内)

①鳥居「昭和十一年四月十九日/藤井カク 小笹ハナ 熊井鹿松 安松庄七」 総高二九五cm、②石灯籠一對 銘文なし 総高二四八cm、③顕彰碑一基「木下重範先生顕彰碑」 総高一五九cm、④狛犬一對 銘文なし 総高八五cm

・坂口講中の人が二月の初午、一二月の初午におみきと小豆ご飯を供えておまつりをする

一〇 稲荷社(字樋ノ口)

石祠二基 ①銘文なし 総高一二二cm、②銘文なし 総高八五cm、③石灯籠一基(奉獻/文政十二年丑十月吉日/施主 当村 豊作) 総高一〇四cm

・正月の百手祭のとき神職を招いて、ご幣を捧げおはらいをあげる。

一一 塩屋観音堂(字塩屋)

堂宇 二間×二間

①木造聖観音菩薩坐像 総高七八cm。外に弘法大師像が五躯ある。

江戸時代享保八年眞玉莊香々地荘合せて三十三ヶ村に一つずつ観音霊場をつくった。塩屋観音堂はその第三十番札所で香々地神宮寺となっている。時々三十三ヶ札所めぐりの人々も参拝に来る。

・塩屋講中が祀っている。

・毎月田一七日・二〇日には講の女性が集まりご詠歌を唱える。また、盆の八月一七日には盆踊りをしている。

一二 堤釈迦堂(字堤)

堂宇 一間半×三間

・堂内の仏像については、寺院関係資料を参照。

・別宮八幡社の神宮寺内に釈迦堂があったが、明治の神仏分離の際の地に移転されたと言われている。

一三 大神宮(字鎮在)

拜殿 三・八m×九・三m。石祠四基、向かって左から①銘なし 総高

一六cm、②「明治二乙巳年十二月吉日」 総高一四三cm、③「明治四十年未二月二十六日」 総高一八八cm、④銘なし 総高九三cm、これらの石祠は五・四m×三・四mの露台の上にある。ほかに、⑤石造恵比須像 総高七三cmがある。

(境内)

①鳥居 扁額「大神宮」、右柱「飯坂南歌播歌百歌 維時明治四年辛未村吏 江本弥藤治秋綱 石工喜六」、左柱「貫爾斯活驛 其違艶陽三月氏中建立 世話人谷忠作」、永代常夜燈二基、向かって右、②「大神宮寛政六甲氏子中」 総高一六七cm、左③「大神宮 寅三月吉日氏子中」 総高一七五cm。

・西浜全戸が氏子で毎年四月一〇日に神職を招いて、祭典を執行し神楽も奉納している。

一四 汐ふき地藏(字羽追)

堂宇 一間半×二間

①石造地藏菩薩立像尊 総高一〇〇cm

・羽追講中が祀っている。講中の人々は香、花を絶やさぬようにお参りしている。毎月一日と一六日には、御詠歌をあげている。

・閏年にはお接待をだす

・以前は八月一六日には盆踊をやっていたが今はやめている。

一五 龍神社(字尾崎)

拜殿 二間×三間。①石祠一基 総高八八cm。

・四月二〇日と八月二日に神主をよんで、羽追講中の世話人(年番)だけでお祭りを執り行っている。以前は、お籠籠の雨乞と云って神楽

を奉納していた。

一六 稲荷宮(宇塩屋)

石祠二基 ①「正一位稲荷大明神 氏子塩屋中」 総高一三五cm、②「生目八幡 修理 江藤セキ」 総高六〇cm、これらを二・六m×二・五mの露台の上に祀っている。

(境内)

木製鳥居一基がある。また、境内の向かって左側に八坂神社秋葉社の神幸石がある。

・塩屋講中が祀り、四月八日におこもりがある。

一七 阿弥陀堂(宇江畑)

石造阿弥陀如来像二躯 向かって右より①「文久三年亥二月/世話人為吉 八吉 石工 忠助」 総高一四二cm、②「南無阿弥陀佛/明治二十五年」 総高九七cm、③石祠一基「稲荷大明神」 総高六〇cm
・定永講中が祀っている。いまは草刈りはするが、おまつりはしていない。

一八 権現社(宇谷)

石祠三基 向かって左より①総高四四cm、②総高八〇cm、③総高八四cmで、いずれも銘なし。これらは、六・二m×四・三mの露台の上にある。
・谷講中が祀っている。正月一〇日に別宮八幡宮の神職を誂んで、百手祭りを行う。また、七月一七日には神職をよんで赤幟を述てる。そして二月一七日にも講中での秋祭りがあつた。

一九 稲荷社(宇松原)

拝殿 四m×一・五m

(境内)

石祠三基 向かって左から①総高一二四cm、②総高一二二cm、③一二〇cmで、いずれも銘なし。④石灯籠一基「稲荷大明神/末代常夜燈/世話人 善五良 為右衛門/寛政二天」。

・松原講中が祀っている。

・九月一日には、年番一六名が加勢して掃除や直会の準備をする。神職をよんでお祭りをして夜盆踊りする。元は盆に神楽を奉納していたが今はしていない。

△ 見 目 △

一 行者様(宇長峠)

①木造役行者像 総高五六cm、②石造蔵王権現像 総高七三cm、③石造前鬼像 総高三五cm、④石造後鬼像 総高三二cm、⑤石造役行者像 総高六七cm、⑥石造不動明王像 総高七七cm

・台石に「寛政六年甲寅年三月吉日/願主藤巻身口口 願主萬屋利左口 門/願主片山口 石工儀平石工卯之助」と銘がある。

・堀切、山口講中が祀っている。毎年四月八日にお接待を出す。三安集落、黄船集落からも寄付をしている。昔は旧四月八日であったが養蚕が盛んな時から新暦にしたというが、具体的には不詳である。

二 加蓋堂(宇加蓋)

①板碑現高七八cm(カラン様と呼ばれている)、②木造阿弥陀如来立像

総高一〇・三m

・阿弥陀如来像の詳細については、寺院関係資料を参照

・伽藍講中が祀っている。十区公民館建設により伽藍堂を改修して公民館内に祭壇を作り奉納した。

・講中で、順番に堂守をし、春秋のお彼岸三月二〇日と九月二四日には長泉寺の住職がお経をあげ、ナオライを行う。また、八月一七日には盆踊をおこなっている。

三年神社(字年神)

①鳥居 扁額「年神社」、向かって右柱に「頭物幽物者明治十丁丑年十二月十日兼峯講中」、左柱に「是神之主宰/唐櫃石工伊東此吉」とある。②鳥居そばの二本の石柱には、それぞれ「文化六年奉寄進巳正月吉日」、享保十七年奉寄進壬子天氏子中」とある。③石祠一基 「稲荷社」 明治三十八年旧三月三日 願主末延字吉、④自然石の石碑「年神社敷地廿貳歩 永代末延字吉神納 明治二十七年一月兼峯氏子中」

・兼峯講中が祀り、毎年一月一六日おこもりがある。また、八月十九日、一二月二六日にもお祭りをする。

四 龍神宮(字長峰)

①石祠一基 総高九八m、向かって右に「天明八甲年/庄屋松成助四郎」、左に「三月吉日/施主源四郎」とある。

・見目の各講中が祀る。大正時代、雨乞をここで行う時には、別宮八幡社のお神輿がお載りに舟名の札がついた舟に乗り、おともの舟も満盛飾にして牛立場より上陸、龍宮の神幸石に神幸して満願の日まで神主はお載いをあげ、神楽等奉納して雨を乞いたという。

・祭りは四月八日にお接待を出す。又八月一六日には神主と牛頭天王社の総代だけでお祭りをおこなう。戦前までは、大字見目全講中による「チンコンカンコン」というモチタキをする祭りをおこなっていた。

例えば、堀切講中では一戸より小麦粉一升・お神酒代を集め朝から年行事の家で大釜に湯をわかし、うすい平餅をつくり「湯アモチ」トキワの穂のクキで箸の長さにして3枚位真中を通したものを作った。外の人はニシメ作りをしたという。

五 龍神宮(字高島)

石祠四基 ①銘なし 総高一〇四m、②「八大龍王/安永四年二月吉日」、総高九〇m、③銘なし 総高九六m、④「安永六年三月吉日/願主浪治、□茂、八助」 総高九六m、⑤石灯籠一对 「安永四年十一月二日/氏子中奉寄進」

・三月卯の日、神楽を呼んで祭りを行う。神宮と東西高島の氏子の世話人が中心となり、氏は参拝するだけである。「知ノ祭」という。

・八月一八日の晩に、盆踊りをする

六 善神宮(字堂園)

拝殿 二・八m×五・四m、本殿 一・九m×一・九m

①石造善神像 総高一〇〇m、②狛犬一对 総高三五m、③鳥居 扁額に「鎮守」とあり、向かって右柱に「天下泰平/安永三癸巳如月吉日」、左柱に「國土安穩/願主井手上喜左衛門井氏子中/岡村 傳四郎」とある。④例棧鳥居 柱部分に「萬延二年辛酉年/堯基 松成氏阿能恵曾我金平」とある。

石祠四基 向かって左より⑤「天満宮/宝曆十三年午霜/願主松成助四

郎盛安 堂園喜平 総高八六cm ⑥「稲荷大明神」延享二五年十二月
吉祥日 総高八八cm ⑦「火ノ神社」総高八七cm 扁額に「火神宮」
とある。⑧「善神宮、総高八八cm、扁額に「善神宮」とある。⑨石造神
燈 「文政四年天五月吉日」長崎 櫻木道口

・井手上と堂園講中が祀っている。毎年四月二三日に火神祭があり、お
こもりが行われる。また、九月一日にもおこもりと盆踊りがある。

七 中山観音堂(字中山)

堂宇 二間×二間、須弥壇に向かって、左から①石造弘法大師像 総高
二三cm、②木造聖観音立像 総高五五cm、③不動明王像 総高四〇cm、
その他石造弘法大師像九躯がある。

・境内には、国東塔二基、庚申塔、地藏尊、解脱塔、五輪塔などの石造
物がある。

・元兼講中が祀っている。享保八年(一七二三)に、真玉香々地三十三
所観音霊場として建立されたそうである。

・毎月一七日に観音和讃、御詠歌を上げる。年番は家順にまわる。昔は
八月一七日にもおこもりをして、晩に盆踊をしていたという。また、
正月一五日には百万遍をくぐる。

八 一ノ瀬葉師堂(字一ノ瀬)

堂宇 二間半×二間半。

①木造葉師如来坐像 像高二五cm、②木造如来立像 像高八五cm、③木
造如来立像 像高五〇cm、④石造恵比須像 像高二五・五cm

・喚鐘については、寺院関係資料を参照。

・このほかに、堂内には石造弘法大師像三躯がある。

・堂外には、庚申塔一基「宝暦四甲年二月十日」のほか、五輪塔数基、

石造葉師如来坐像(頭部欠、現高一〇cm)がある。

・近広と一ノ瀬講中が祀っている。春と夏にはお接待をだし、毎年八月
一八日に福僧をよんで近広講中と一ノ瀬講中と一年交代で供養を行う。

九 太神宮(字平原)

①鳥居 扁額なし、向かって左柱に「人為悪於類則帝王誅之」、右柱に「為
悪於幽冥則鬼神罰之」明治十五年願主有永庄蔵ノ助力氏子中ノ石工井本
九平、石祠二基、②「太神宮」総高八六cm、③「宮地嶽三柱大明神」
明治廿八年十二月五日願主木村嘉真太「小野秋平」総高一〇八cm

・近広と長相講中が祀っている。かつては毎年神楽奉納をしていたとい
う。現在は年に一度、九月の第一日曜日に神主を呼び、お祭りをする。

一〇 稲荷様(字三安)

石祠二基 向かって左から①銘なし 総高八七cm(稲荷様という)、②總
高七四cm(生目様という)、③石灯籠一基

・三安講中が祀っている。毎年二月の初午の日に、神主にお赦いをして
もらい一戸一人ずつ出て、直会をする。

一一 稲荷宮・山ノ神(字高島)

石祠二基 向かって右から①「稲荷様」卯六月吉日當相村氏子中 総
高九二cm、②「山神様」明治十二年卯年二月吉辰ノ西内講中 総高八
五cm、大山祇神社の紋が入っている。

(境内)

①鳥居 右柱「奉寄晋華表」、左柱「明和九辰九月氏子中」、②石灯籠一
基「安永四年」 総高一一五cm

・高島講中が祀っている。毎年二月初午の日に稲荷祭が行われる。稲荷大明神の赤い大櫓二本立て、年番の家で神職と直会をする。また、二月二日には山神祭を行う。神職と公民館で直会をする。

二二 山神社(字仁田尻)

石祠二基 向かって左から、①「元禄十四年巳十一月十四日」 総高八〇cm、②「山神祠」 総高一〇〇cm

(境内)

①鳥居 扁額「山神社」、石柱「尊厳守山縣/四月吉祥日」、左柱「神之御威稜」、②石灯笼一基「宝曆二申年/奉寄進石灯笼/林鐘下游」 総高一六〇cm

・堂園と井手上講中が祀っている。毎年一月二三日に堂園と井手上講中一戸に一人ずつ出て、神職をよんでお祭りし直会をする。

二三 金毘羅様(字堀切)

石祠三基 総高一四〇cmの露臺の上にあり、向かって右から①「龍神宮」 総高一四五cm、②「翠平社」 総高七二cm、③「稲荷社/助力山口甚助・堀切忠平・山口平四郎・堀切仙太郎・堀切口吉」 総高一〇四cm

・堀切と山口講中が祀っている。前方に二間×三間の広場があり、以前はここで神楽を奉納していたという。

・以前は旧三月九日には櫓を建て神職を招き、神楽を奉納しておこもりをし、旧六月九日には年行事が各戸より材料を集めて麦酒を作り、牛頭塚に上げて、皆にのませ、晩には盆踊をしていたという。昭和三〇年代になくなった。今は旧三月九日に神職をよんで、お祭りをして公民館で会食をしている。

一四 恵比須社(字宮庄)

石祠二基 向かって左から①「正一位稲荷大明神」 総高八七cm、②銘なし、総高一〇三cmで、中に総高三〇cmの恵比須像が入っている。③庚申塔一基 総高一三〇cm

・このほか、日清戦争に伴う忠魂碑が一基ある(明治二八年建立)。
・毎年一月一〇日の百手の日に、恵比須祭を行っている(十日エベス)。

△上 香 々 地 △

一 牛頭宮(字小園)

石祠五基 玉垣内の向かって左から、①「大正三年/五月十二日/渡辺イノ」 総高五三・五cm、②「寛文十三年/丑三月吉日」 総高七八・五cm、③銘文なし 総高八三・〇cm、④「天明六歲丙十一月日/五段成就村中安全」 総高一二八・二cm、⑤「大正三年/五月十二日/吉武管二郎」 総高五三・〇cm、⑥玉垣 天明三癸申春/施主中山彦蔵、⑦石造阿弥陀坐像 四三・五cm、⑧石造弘法大師坐像 三六cm

・さらに木造菩薩立像二軀と陶製武者像二軀がガラスケースに納められている。これらと⑦⑧はブロックで囲われている。

(境内)

①鳥居 「赫々神威/□□□銅高/天保六己未年 石工松成 同助 同
/三月吉日 寛延二吉武平次芳真二柱初建後依回縁再建 吉武信四郎一
直 里正余源重範代」 二二八cm、②御神燈一基 「安政六己未歳大呂/
願主中山丈右衛門」 一七三cm、③手洗鉢 「明治三十六年二月 吉武り

う、④庚申塔 元禄九丙子天／正月三日 七〇cm 石刹二基 ともに銘文なし。

・上長小野講中によって祀られている。現在は、毎年七月一日にぎおん様のお祭りをする。神 職を招いて、当番の二人がお酒を出す。

二 行者窟（字今井）

①修札 「安政七戊申歳夷山靈仙寺現住法印賢廣 世話人吉武正之助 上園甚平／奉詔誦法華八講役行者當千百六十回御忌一天安全萬民快樂／四月初八日 村長 余願」
②石造役行者像 総高五〇cm、③石造前鬼二二cm、④石造後鬼二三cm、⑤石造蔵王権現五八cm
（境内）

①鳥居 「扁額 蔵王権現／奉新建華表阿柱贊日道德全看鬼神不得而竊口／岩寛政六歳在甲寅仲秋吉祥日 世話人内屋鋪惣四郎 講中 石工 羽根村 禁上吉左衛門」、②灯籠一基 「安政六年己未大呂吉日」、
・上長小野講中によって祀られている。

三 くと屋敷の阿弥陀堂（字石仏）

①木造阿弥陀如来像 総高五一・五cm、②石造阿弥陀如来像（自然石に浮彫）四六cm

・ほかに、石造観音菩薩像三三軀と石造弘法大師像四軀、そして石燈残欠一基分がある。石造弘法大師像のうち一軀には「第四拾九番 願主 近藤柳平 大正元年八月吉日」とある。

・現在は、仲坪講中によって祀られているが、もともとは、土谷雷男氏宅の裏にあった。その場 所には、いまま大業妙典塔一基と五輪塔二基がある。

・昭和十三年（一九三八）に、水松祥太郎氏が中心となり、仲坪講中によって二間×一間のトタン葺のお堂が再建されたが、いまま県道沿いに移ったのは、昭和六一年（一九八六）のこと。

・『香々地町誌』によると、三枚の修札のことが記されている。

①文政六癸未年／奉修水天宮二十一座雨請御祈禱

②嘉永六年癸丑年／六郷山仁開菩薩古跡入差行者十一人結衆各初入／大先速行入寺奉清後越家阿子寺寮千云々

③宝曆二壬申年／奉再建阿弥陀堂一字／願主上園甚太郎 大工園政直 助

いずれも、『三重郷土誌』（昭和四年発行）に依拠している。

四 大力坊観音堂（字曾根）

①木造観音菩薩坐像（江戸時代）、②石造伝教大師像 四六・〇cm、③修札「弘化三丙午年 於願密塚場 願 長小野村翁三郎／種子（カーンマ） 奉修不動尊護摩供領主御武運長久御息災延命国家安全祈所／二月吉祥日 夷山靈仙寺主 夷島佐助」
（位牌）

①「明和五戊子天／種子（アインク） 権律師覺澄大徳靈位／正月十一日」 長さ二四・五cm、②「文化十五戊寅天／種子（ア） 早寛範夢童子霊／六月十八日」 長さ二一・八cm、③表「種子（カ） 濟漸童子位／裏「種子（パン）〇〇 嘉永元戊申天／十二月十七日」 長さ二四・七cm、④「文化十癸酉年／種子（カ） 瑞口智口童子霊／十月初四日」

長さ二一・八cm、⑤「文化十五戊寅天／種子（カ） 性智空童子霊／三月十二日」 長さ二二・五cm、⑥「宝永元申年／種子（ア） 権律師慶昌經口霊／十月五日」 長さ二一・三cm、⑦表「種子（ア） 月江

浄船信士精舎 裏「元禄九丙子天ノ七月廿四日」 長さ三〇・七cm

⑧表「種子(ア) 華岩法春信女畫」裏「延宝九辛酉天ノ正月廿九日」 長さ一九・三cm、⑨表「種子(ア) 権少僧都蒙昭法眼和尚位

裏 宝曆七丁丑正月二十一日」 長さ二四・七cm、⑩「永四己未天ノ

種子(ア) 離入海門寛靈ノ四月二十日」 長さ二九・七cm、⑪「化三

丙寅ノ種子(カ) 殊榮童子ノ九月十五日」 長さ二一・〇cm、⑫「種

子(カ) 行雲玄童童女」裏「嘉永元戊申ノ五月廿三日」 長さ一

八・五cm、⑬「寛永九天ノ種子(キリク) 深達妙圓信女靈ノ六月十七

日」裏「余額」 長さ一九・一cm、⑭損のため文字は判読で

きない。 長さ三八・五cm

五 愛宕社(宇伊勢堂)

①石祠一基、奉再建ノ天保十四年知正月大力作願

・石祠内部には、石造地蔵菩薩坐像一軀と石造地蔵菩薩立像一軀がある。

・また、敷地内には五輪塔が一五基、板碑が一基、一石五輪が四基ほど

ある。

六 今井薬師(宇今井)

・旧名医王山薬師窟、昭和三七年に山火事によつて、堂宇が焼失した。

・現在は、宝篋印塔残欠二基分と宝塔(国東塔)基礎と石椁残欠がある

のみである。

・崖面には、磨崖石碑がある。

・「三重郷土誌」には、「寛政七年ノ薬師堂十二神持 院主夷山雲仙寺檀

遊代 医王山大力坊ノ村長余源範九郎重虎 仏師板井甚藏國俊」と

いう棟札が載せられている。

七 市丸伊勢堂(宇伊勢堂)

二二五cm×二二〇cm トタン葺き ブロック建て。

①木造立像 総高三〇cm(彩色あり、天照大神か。右手に刀、左手に薬

つぽを持つている)

修札二枚、②「神明社拜殿 明治二年仲春」、③表「皇大神宮拜殿一宇

国家安全会氏子繁榮祈所」裏「千時 明治二十八年乙未十一月上旬上棟

棟梁 松本芳松 副竹内廣策」

(境内)

①石灯笼一基 「安永四乙未年八月 日ノ奉寄進石灯笼ノ藤原□□野上

八右衛門」、②石礎一基 銘文なし。総高一七〇cm、③石造仁王像二軀

ともに総高一〇七cm。お堂に向かって左の仁王像の台座には「享保九甲

亥年ノ奉寄進仁王ノ十二月廿一日 佐古村一丸源七」の銘がある。

・市丸講中によつて祀られている。

八 山神社(宇梶屋)

石祠二基 ①「元禄十四年辛巳年ノ奉修造山神石塔二月十五日ノ願主國

実茂左衛門 施主氏子中」 一五三・五cm、②銘文なし 総高九三cm

(境内)

①鳥居 「奉寄進御口前」佐古村氏子中ノ享保五庚子六月吉祥日 敷

白、②石灯笼一基 「安永二年ノ六月吉日氏子中」、③火伏観音像 総

高七二cm。(顔面は青色、衣は白色、裳裾は朱に彩色されている)

・昔は拝殿があつたが廃れた。

・梶屋・洲上講中によつて祀られている。

・火伏観音像ははじめ川原寺の裏山にあつた観音堂に安置されていたと

いう。その観音堂が廃れたので川原寺に移したという。その後、昭和四七年槐屋・洲上講中の人たちが発議して、現在の所に安置された。槐屋・洲上の人たちは春のお彼岸のお中日に参拝しておこもりをする。当番の家の人がばらずしを作ってお供えし、それをみんなでいただく。

九 友広観音堂(字友広)

二間×二間 瓦葺き。須弥壇に向かって右から、①石造仏像 像高五四・五cm、②石造観音菩薩像(首飾欠) 現高一五〇・五cm、③石造聖観音菩薩像(現本尊) 像高八五・〇cm、④石造弘法大師像(彩色あり) 総高二七・五cm、⑤石造弘法大師像 総高三二・五cm、⑥石造弘法大師像 総高三五・三cm、⑦石造仏像、総高一・八cm、⑧石造地藏菩薩像 総高三三・五cm

棟札二枚 ⑨「天下泰平 享保六年丑年 願主氏子中／奉再建観音堂一字御武運長久村民豊饒祈故／国土安全 仲春吉日 大工松行善兵衛 有永左衛門小工徳光太兵衛、次郎左衛門、⑩「明治卅六年巳年 皇國肇國帝道遐屆 佛日増輝法輪常轉 世話人 尾形英治 繁成権八 井上藤次郎 光成孫平法常土佐市 光成助九郎 光成栄太郎 法常法吉／奉再建観音堂壹字村中安全参禮男女佛果菩提圓滿 願主氏子中／天下泰平日月清明 風雨順時五穀成就 晚春吉祥日 大工秋元建次郎 木挽金峯文造 左官末延卯七」

(境内)

①庚申塔二基 [] 戊寅年六月吉日、②「光成新九郎／奉寄遣石

・中は畳敷きで六畳、正面に須弥壇、石造の観音像などがあるが、仏像のうち②がもとの観音像と思われる。この観音像は延享四年(一七四

七)の寺社書上帳に「のりつね観音」とあるものといわれている。友広講中では、いまも毎月一回講中の婦人たちがご詠歌を唱える。

一〇 宗永伊勢堂(字宗永)

押殿 二間×一・五間

棟札 ①「奉修理押殿一字 皇紀二六〇八年 昭和二十三年九月、②「西紀一九七九年／奉伊勢堂押殿一字／新築昭和五四年一月七日、③「西紀一九九〇年／遷宮伊勢堂様 宗永講中／平成二年二月十二日」

(境内)

石灯笼二基 ①「享保拾乙巳天／奉寄遣石燈籠一基／二月初三日 願主 太郎助、②「享保十乙巳歳佐古村／奉造立御寶前石燈籠／仲秋上旬第五日 施主 氏子中」

・昭和五四年、大型農道開道に伴い伊勢堂を農道側に移転したが、道路の下方となったので改めて現在地に移す。

・毎年春分の日午後五時より講中相集い参拝する。輪番制で直会の準備をし、押殿前で焚火をする。お神酒の代は取り立てる。小麦粉でひらもちを作る。

・宗永講中によって祀られている。

一一 琴平宮(字金伏)

押殿 五間×二間

(境内)

①鳥居 「国土安穩／天下泰平／天保六乙未年 村長土谷又四郎唯經

願主橋本弥七／大邑吉祥日 惣氏子中 石工板井宮内園貞」

石灯笼二基、②「奉寄遣御神燈／文化三年丙寅八月吉日／施主 秋木甚

作 吉兵衛 石工 羽根 吉右衛門、③「奉寄進御神燈／安永八年己亥十二月吉日／施主 当村氏子中 同又右衛門 願主 羽根 石工徳七」
〔地藏堂〕

- ①石造地藏菩薩坐像 総高七二・五cm、②石造地藏菩薩立像 総高六一・五cm、③石造仏像 総高三五・〇cm
- ・境内に、中世石造物がある。

二 秋本の薬師さま（字秋本）

- ①石祠一基 「明治八年亥三月／世話人 松本弥吉 秋田仙助 清水柳吉」 なかに伝石造薬師如来像 総高四二・五cm、②十五仏石 総高一三三cm、③石造三層塔 総高七〇cm、④石造塔「安永八己亥年／六月吉祥日／施主与藤」 総高九〇・八cm、⑤石造地藏菩薩立像〔首部長欠〕 現高五六・五cm、⑥石造塔 総高四一・三cm
- ・④の脇には、五輪塔残欠が二分ある。
- ・昭和三〇年頃までは、堂宇があったけれども老朽化してなくなった。
- ・秋本講中によって祀られている。
- ・「香々地町誌」によると、「奉薬師堂建立五穀豊饒天下泰平方民安楽／大正十一年一月十七日願主秋本講中」という修札があったと記されている。

ハ 夷

一 経兒大神宮（字今夷）

拝殿 二間×一間半、本殿 一・五m×一・一m 板葺き。
棟札①「昭和八年 社掌板井政市／奉復興新築拜殿一字天下泰平国家安

全五穀奉熟祈所 氏子中／十月十日 棟梁 大力 清、②「恵比須社／奉屋根押葺修復万世太平氏子平安祈禱修／總代永野恒利 末永利行 評議員内田国丸 大力喜美男／平成二年四月廿九日」

〔境内〕

- ①石造大日如来像 総高四四cm、②石造弘法大師像 総高三六cm、③鳥居 「奉寄進華表一基／国家安全而未敢更疊整／願主田原源左衛門 村司限井勘右衛門／享保三戊戌十二月吉辰／石工松村九良左衛門」 総高二・七m
- ・坊中・鳥越講中が祀っている。

かつては今夷岩屋と呼ばれ、大所権現の元宮ともいわれている。大所権現の大祭の際は、まずこの神に祝詞をあげなければならぬとされていた。

二 焼尾阿弥陀堂（字焼尾）

- 堂宇 二間×二間
- ・堂内の仏像については、寺院関係資料を参照。
- ・下河内講中（九戸）で祀っている。

三 祇舎不動（字堂明）

堂宇 二間×三間。①木造不動明王立像 総高一二〇cm、②棟札「聖口 天中天 伽陵頻伽聲 維時享保十七年大庄屋真玉興三右衛門 郷司 熊井重明 大力口左衛門／奉再興御堂一字天下泰平国家豊饒富御願主牧野越中守源俱貞公御武運長久御領静謐五穀成就／哀愍衆生者 我等奉敬禮 壬子三月廿九日 靈仙寺現住 歌口法印 実相院現住暨者信梁 大工 矢野口三郎 小工野田口」

(境内)

①石灯笼一基、宝曆十天二月吉日、 総高一五〇cm

・寺迫講中が春秋二回僧職(靈仙寺と実相院が交互)を招き行く。

四 貴船大明神(宇貴船)

拝殿 二間×一間半、本殿 一間×一間、棟札①「昭和參拾貳年八月吉日/一金老軒五百円 内田桐夫ほか」、②「氏子中名ノ記 一金六百五拾円 猪股茂ほか」

(境内)

①鳥居 扁額「貴船大明神」 総高二・二m、②石殿「奉寄進 社頭一宇/宝永三年三月二十一日」 総高一・八cm、③庚申塔「元禄十四年辛巳八月初五日」 総高一四八cm、④庚申塔 銘なし 総高九〇cm、⑤石幢 総高九〇cm

・田ノ口講中が祀っている。

五 古椎堂(宇上追)

堂宇 三・五m×二・八五m、①石造千手観音菩薩像 総高五三cm、②木造地藏菩薩像「元禄十二年卯七月二日 狩場村」、③木造薬師如来像 総高三五cm、④石造弘法大師像 総高三五cm、⑤石造弘法大師像 総高三五cm、⑥石造牛乘大日如来像 総高二〇cm。その他に、石造十王像(十軀)がある。

(境内)

①石幢一基 現高一五〇m(笠部のみ)、②西国三十三所供養塔一基 総高一七五cm、③宝塔一基 現高一二四cm(相輪欠)

・東狩場講中(四戸)で祀っている。現在、旧六月一三日に講中で般若

心経をあげる。また、一二月一三日には、小豆ごはんを炊いて供える。

六 五柱大明神(宇内立)

①石造神像 総高三〇cm(顔などに彩色がある)

(境内)

①鳥居 扁額「五柱大明神」 「神威輝八絃/菅生仰雲/昭和十六年九月吉日 荒木精一郎 全平次郎 全悟 全富貴男 荒木桐夫 全なか村角さかえ/石工見目 徳久増蔵 隈井隆喜 井本清」 総高二五四cm、石造仁王像二軀、向かって右②「文政二年卯三月/石工 板井宮内」 総高一四九cm、向かって左③「願主 隈井武衛門」 総高一四九cm、石灯籠三基、④「獻燈/隈井徳左衛門 隈井幸八/文化七庚午季秋吉旦」 総高三〇五cm、⑤「御神燈/天明二壬寅天二月吉辰/願主隈井幸八」 総高二〇cm、⑥「□□□□天」 総高一五〇cm

・西狩場講中が祀っている。

七 貴布弥大明神(宇小野迫)

拝殿 二間×三間、本殿 一間×一間、前扉右側「奉寄進 春岡元左衛門」、前扉左側「文化十二乙亥二月」の銘あり。

(境内)

①鳥居「奉寄進鳥居両柱/社司坂井国房/文化十二歳乙亥二月吉日 氏子中」 総高二三〇cm、②石祠一基「天保十四年癸申/神主坂井益口」 総高一五〇cm、③石造狛犬一軀 総高二〇cm

・小野迫講中が祀っている。年に二回、三月と九月に「災難ごもり」をする。日は決まっていない。

・昭和三〇年位迄は、お宮でお接待を春と夏にしていたが、水の不便な

こともあり、お接待は各戸のもちまわりになった。

八 妙見社(字妙見)

拝殿 三間×二間、①棟札「大庄屋 真玉三左衛門 別当 靈仙寺法印 賢修 村長 隈井元右衛門」

(境内)

②鳥居 萬額「明見宮、左柱「文化五年歲次戊辰二月吉日日/願主 板井多作」 総高二五二cm

・板井一統の神を祀るともいう。

九 熊野権現社(字尾鼻)

拝殿 二間×三間、①石祠一基「明和九天/奉寄進/口主 辰三月吉日」 総高一二三cm、中に総高三四cmの御神体がある。

・道園地区在住の矢野一統で祀っている。

・拝殿は大正一四年に建築し、昭和五八年に立て直した。

・旧六月一日、旧一二月一日に、神職を招きお祭りをする。「ついでに祭」ともいう。座前は矢野一統のまわりもちとなっている。

・伝承によると、昔旅人が紀伊国の熊野権現を矢野家に勧請したことが始まりという。

一〇 永四郎社(字尾塔)

拝殿は倒壊している。本殿 一九六cm×二二九cm、①水造神像「元文元年/宮の主 隈井源之進/施主 津崎清九郎 同氏子中」、②石造狛犬一對「字佐宮神官 百楽左衛門位/栗田時右 作之」 総高三七cm

(境内)

石殿二基①銘なし 総高一一五cm、②「施主 木浦松龜右衛門」

総高九〇cm、石灯笼二基、③「御神燈」 総高二五五cm、④「文政三年

庚辰卯月吉日/藤本松左衛門 全苗 休作」 総高二五五cm

一一 山祇社(字五太郎)

①石殿一基「奉寄進/寛政十戊午天三月吉日 氏子中/社司板井友之進」 総高一二二cm

(境内)

①鳥居「奉寄進/當邑 石工夷邑 猪股勇助忠廣/文化六歳己巳九月吉日 氏子中」 総高二三五cm、②石灯笼一基「神燈/寛政十戊午天七月

吉辰」 総高一七二cm

・西狩場講中が祀っている。

一二 シタバ様(字差次)

石祠一基「志太波大明神」 総高八〇cm、玉垣(八一cm×三一cm)がめぐっている。

・志太波一統が祀っている。

・昔は春と冬にお祭をしていたが、今は一二月の第一日曜のみとなっている。座元は小野迫在住の志太波一統のまわりもちである。清掃をして家族中集まりお祭をする。お祭には、靈仙寺住職を呼んで行う。

一三 生目八幡社(字一の迫)

拝殿 二間×一間半。

(境内)

石祠二基 ①「嘉永七年寅 八月十五日」 総高六〇cm、②銘文なし 総高七五cm。この石祠は岩窟のなかに祀られている。

③石灯笼一基「安政五年三月吉日／社司 板井國俊、下坊卯八」 総高
一〇五 cm

・志太波家二軒と井之口家、大力家、春岡家の計五軒で祀っている。四
月一日、一〇月一日にこの五軒の者が集まりお祭をする。

一四 山神宮（字板井藤原）

①石祠一基「奉寄進／享保五庚子 十月吉日／願主 板井源太夫 矢野
定四郎」②鳥居 破損し左柱のみがのこる。「華表一基／神主 板井親負
椽 村長 熊井重助」 現高一八七 cm、③扁額一点「山神宮」
総高三二 cm

・道園講中が祀っている。

・現在は、毎年二月の第一日曜日にお祭りをす。神職と共に村人らが
山に登り火を焚き、直会をおこなう。昔は二月一日に祭りをしていた
が、戦後になって現在のような期日になったという。

一五 若宮（字岩ノ下）

押扉 六間×二間 瓦葺き、石祠二基、向かって左より①「寛政□□／
三月□□」 総高九二 cm、②銘文なし 総高一〇 cm、

〔境内〕

①鳥居 匾額「若宮殿」、向かって右柱「奉寄進諸佛皆歡喜現口神力」、
左柱「正徳二壬辰年極月吉日、施主板井傳四郎後妻、敬白」 総高二五
一 cm、②石灯笼 一基、「二月吉日 施主 矢野仁三郎」 総高二一七 cm、
③石櫃 一基「奉寄進灯笼／元禄十六年／十二月 板井五朗大夫」
総高一八〇 cm

・道園講中が祀っている。

・毎年、春秋講中が全員集まり、お祭りをす。

一六 横岳観音堂（字横岳）

堂宇 二間×二間、石造仁王像二躯 ①阿形 総高一二三 cm、②吽形
総高一二四 cm、③石造不動像 総高三五 cm、④庚申像 総高二八 cm、⑤
石造仏像（尊名不詳） 総高四〇 cm、⑥石造仏像（尊名不詳） 総高四
一 cm

・堂前の手洗い鉢に「石工 板井國広 同苗 會人／天明四甲辰正月」
の銘がある。

・堂内の本尊（聖観音）については寺院関係資料を参照。
・横岳講中（九戸）が祀っている。

一七 道園観音堂（字中園）

堂宇 二間×二間、境内約二畝。

①木造聖観音菩薩立像 総高六六 cm、底板に「天明三癸卯年／仏師板井
対馬守／奉粉色観世音菩薩／大施主矢野仁三郎／十二月吉日 氏子中」
の墨書銘がある。②木造不動明王立像 総高四〇 cm、底板に「寛政九丁
丑年正月吉祥日／当村仏師板井甚蔵／願主矢野嘉一郎 氏子中」の墨書
銘がある。③木造持國天立像 総高四一 cm

〔境内〕

①石造薬師如来像一軀 「施主矢野仁三郎／寛政三年正月吉日」 総高
一〇五 cm、②三界萬靈塔一基「天明七丁未十一月吉日」 総高一一六 cm
・道園講中が祀っている。年に二回講中でおこもりをしている。

△ 羽 根 △

一 金毘羅大権現(宇四垣)

拝殿 三間×一間半、押殿横に、総高約一・五m、三間×三間の広さの石壇があり、石殿一基、総高一mがある。

(境内)

鳥居一基、文化四卯年／奉寄進、庄屋 野上貞次良、現在は倒壊している。

・上羽根が祀っている。

・四月一〇日に例祭があり、上羽根全戸がおこもりをする。昔は石殿の横の場所ですて神楽が奉納されていた。

二 今宮社(宇水毛)

押殿 三間×一間半、境内 約三畝。

石殿三基 ①「奉寄進氏子 田中重藏／文政十二乙亥十一月六日」、総高九〇cm、②「奉寄進／光成五郎吉／石工野上古右衛門 同榊左衛門 同左京」、総高九二cm、③「奉寄進 氏子中／文化十二年」、総高九二cm、石祠一基、銘文なし、総高八五cm

(境内)

①鳥居一基 「奉寄進奉表 国家安全祈所／野上氏子中 庄屋野上土大右衛門 石屋松村九右衛門」、総高三〇〇cm、②石祠一基 「天神社」

総高九五cm、③石祠一基 「稻荷社」、総高八〇cm

・早尻・水毛講中が祀っている。

・例祭は、毎年一月一三日と八月二六日(いずれも新暦)の二回。一月は正月の門松などを持ち集って焼き、八月には氏子がおこもりをする。

三 御崎社(宇秋成)

①石殿一基、銘文なし、総高一三五cm、②石祠一基 「稻荷社」、総高六五cm

(境内)

石灯籠二基、向かって左①銘文なし、総高一四〇cm、向かって右②「□□社石□ 全所／□□天」、総高一六五cm、③石造恵比須像一軀、総高二三cm

・秋成講中が祀っており、八月二六日には氏子がおこもりをする。

四 蛭子宮(宇早尻)

石祠四基、向かって左から①銘文なし、総高八〇cm、②銘文なし、総高七四cm、③銘文なし、総高七六cm、④銘文なし、総高八〇cm、⑤石碑一基 「蛭子宮」、総高一二二cm

・早尻一統が祀っている。一年に一回早尻一統の者が集まり、神職を招いてしめ縄を張り替え、御幣をとりかえ、祝詞をあげる。

・昔は現在地の西方羽根川の近く早尻氏の邸に鎮座していたという。

五 恵美須宮・稻荷社(宇広永)

境内 一畝、石祠二基、向かって左①「稻荷社／天明八中年正月日」、総高七〇cm、向かって右②「恵美須宮」、総高七六cm、石殿一基、銘文なし、総高一〇五cm

・広永講中で祀っている。

・毎年八月二六日に掃除をし、神職を呼んで、おはらい・おこもりをしている。

六 圓通庵(宇佐古)

堂宇 二間×三間、須弥壇には、総高五〇cmの木造観音菩薩像が三四廻安置されている。

(境内)

- ①西国三拾三所供養塔一基 「西国三拾三所供養塔/天保十四歳癸卯十二月吉日 施主 庄屋野上弥右衛門代 施主當村中」 総高一七五cm、
- ②石殿一基 銘文なし 総高七二cm、③国東塔一基 総高一一〇cm、④石祠一基 銘文なし 総高一三三cm
- ・古くは円寿庵と称し、明治四一年(一九〇八)に庵主の井本正学師が逝去するまで、福田寺の末寺として庵主がいた。

七 日切地蔵(宇松津)

堂宇 五間×四間、須弥壇には①木造地藏菩薩坐像 総高五五cmのほか、総高約三三cmの石造地藏菩薩像五軀と木造地藏菩薩像三軀がある。

- ・松津講中が祀っている。毎月二四日にお参りしてご詠歌をあげる。
- ・八月十五日には大供養を営む、夜は盆踊りが行なわれる。

八 山神社(宇松津)

石祠二基 向かって左より、①銘文なし 総高七七cm、②「山神社」 総高七六cm

(境内)

- ①鳥居一基 扁額「山神社」、向かって左柱「笑面重華悲 明治十三辰年 松津村中」、右柱「苦心含惡毒 五月吉祥日 世話人 松成善吉 野上 藤吉」 総高二m、石灯笼二基、②総高一四〇cm、③総高一二三cm、④庚申塔一基 総高六〇cm、⑤石造恵比須像 総高四九cm

・松津講中が祀っている。

・山神社は日切地蔵と同じ敷地内にある。

・毎年一月に根付け祭りをする。神職を招いてご幣をあげ、しめ縄を張り替え、祝詞をあげる。講中みな参拝する。

九 沙屋神(宇中塚)

石祠一基「奉造沙屋神/元禄十五年壬午十一月/弓崎金次郎」 総高一二〇cm

(境内)

石灯笼二基①「享保十年乙巳年三月吉日/羽根村□□□」 総高一四〇cm、②「道祖神祠/奉寄進 石灯笼一字/享保十年乙巳年三月吉日 羽根村弓崎」 総高九〇cm、この他にいずれも銘文のない四基の石祠がある。

・園道二一三号線沿いにある。

・かつては、春になると下羽根の者がおこもりをしていた。また、八月に盆踊りをしていた。

∧ 堅 来 ∨

一 達磨堂(宇小池)

堂宇 二間×二間

- ①木造達磨大師像 総高三五cm、②木造観音菩薩像 総高三九cm、③石造弘法大師像 総高三二cm、④石造弘法大師像 総高四〇cm、⑤石造佛像(尊名不詳) 総高四四cm

(境内)

- ①供養塔一基「三拾三所百歳回□□」文政四年四月十日、総高一二二cm、石灯籠二基、②「奉寄進石灯籠」享保七歳壬寅十一月吉日、総高一六四cm、③「奉寄進石灯籠」享保七歳壬寅十一月吉日、願主松尾加兵衛、総高一六〇cm、④石造地藏菩薩像、総高一六〇cm
・小池跡中が祀っている。八月二十日の夜は、講中の者が皆集り盆踊りをする。

二 御霊社(字中村)

本殿 二m×一・一m、境内約一畝。

(境内)

- ①鳥居 匾額「御霊社」、柱「享保八癸卯年正月吉持日奉造立華表願主谷口三衛門」、総高二五七cm、石灯籠一對、②「宝曆十二年十月吉日」、総高一五五cm、③「聖来村谷口洋雲 同三右衛門」、④石殿一基 銘文なし、総高八〇cm

・同社には八面社も合祀されている。精神という。昔干魃が続いた時、雨乞いを祈っていたところ八月七日になって雨が降ったという。それで今でも、毎年八月七日に村民こそぞってお祭りをする。

三 請観音堂(字請)

堂宇 三間×三間、境内約一畝。須弥壇向かって左より、①石造弘法大師像、総高三四・四cm、②銅造觀音菩薩立像、総高二六・〇cm、③木造阿弥陀如来坐像、総高一九・八cm、像底に「延宝六年知月六日／奉修□阿弥陀／聖来彦三郎」の銘がある、④位牌 二五・五cm、表「三界萬靈位」、裏「大正拾五年四月拾八日／觀音堂上様式日／請中建之」。
また、境内には五輪塔が二基ある。

・請講中が祀っている。

・この堂は、妙宝院(本尊は聖観音)と后寺(本尊は阿弥陀)が一緒になったもので、后寺はここから東の山上にあったと言われているが、明治三十年頃老朽倒壊したので、妙宝院に移したという。

四 長谷寺跡觀音堂(字堂ノ本)

堂宇 二間×二間、須弥壇向かって左より、①木造仁王像(阿形) 総高九九・〇cm、②木造阿弥陀如来坐像、総高七七・七cm、③木造十一面觀音菩薩立像、総高七七・五cm、④木造仁王像(吽形) 総高九九・〇cm。そのほかに、位牌が三基ある。⑤表「掃真雲山淨白禪定門 靈位」、総高四〇・〇cm、⑥表「掃真淨參教誓信士 靈位」、裏「正徳二壬辰年／六月六日」、総高三九・〇cm、⑦表「掃真清江妙順尼 靈位」、裏「三月廿一日」、総高四四・〇cm

(境内)

①圓東塔一基、②石造層塔(三層)一基、③宝篋印塔一基、④石灯籠二基、向かって右に「石灯籠二株」、左に「奉寄進／元禄十五壬午年／如月四日立之」とある。このほかに五輪塔が二基ある。

・浜講中が祀っている。

・このお堂の西側の丘陵の上に、海向山長谷寺という寺院があったという。境内の圓東塔や層塔などは、近代になってからこの地に移したといわれている。

五 行常觀音堂(字行常)

堂宇 二間×二間半。須弥壇に総高八〇cmの自然石が三個立っている。その他に、石造弘法大師像、総高二八cmがある。

・正月一日、行常集落の者十軒が堂に集まり一年の計画をたてる。
・四月の第一日曜日に講組の者がお堂にお参りし、後で炊事場でおこもりをした。

六 地藏堂(字中村)

堂宇 5m×5m。須弥壇に、①木造地藏菩薩像 総高七九cm

(境内)

①宝篋印塔一基 総高一五〇cm、②石幢 一基 総高一七〇cm、③五輪塔一基 総高五五cm、板碑二基 ④総高六三cm、⑤総高五五cm、⑥庚申塔「宝曆八天」 総高五〇cm、⑦龕仏 総高五〇cm

・中村講中が祀っている。

・地蔵講が、卯月八日・涅槃会・春彼岸・秋彼岸の四回行われる。当番があつて、各戸から三合のお米と野菜を取り立てる。

七 金比羅社(字大平)

石殿一基

・中村講中が祀っている。かつては、一年に一度講中の者が、現地でおこもりをしていたという。

八 痕齋堂(字徳光)

堂宇 一間半×一間半。中央に祠(間口九〇cm×奥行三〇cm)があり、中に尊名不詳の木造仏像(総高一五四)がある。

・徳光講のうち、三軒で祀っている。

・旧暦三月二十一日にお接待を出す。

△ 小 畑 △

一 稻荷大明神(字門出)

社殿 一・二m×一・二m、押殿 三m×二m。

(境内)

①石灯籠一基 「奉寄進 石灯籠/大正十三年七月十七日/石工 土谷儀造 勝治」、②鳥居四基

・上小畑講中が祀っている。

・旧暦三月一七日と八月一七日に、小畑全体が参詣して神事を行っている。現在は当番の家で、午前一一時頃から神前行事を行う。

・なお、八月一七日の神事は、全戸が参加するのではなく、管理者と講中の役員のみでおこなう

・毎月輪番で、稻荷社の掃除を行う。

二 妙見宮(字妙見)

崖下の岩壁に、一間×一間の堂宇が建っている。そこに尊名不詳の木造仏像が安置されている。向かって左より、①現高一〇九cm、②現高一〇一cm、③現高一二五cm。この他に朽ちた仏像が五軀ある。

(境内)

鉄製鳥居 二基 総高二〇cm

・下小畑講中が祀っている。

・毎年八月一七日、下小畑講中がおこもりをする。その時には、一軒から一人男が出て、清掃を行う。女は食事の用意をする。そして、お供えをする。

・昭和五八年八月一七日、堂宇などを木造で修復する。

・昔は雨乞いなどもしていた。



14 石造阿弥陀如来像（クド屋敷阿弥陀堂）



13 木造聖観音菩薩像（大力坊観音堂）



16 木造阿弥陀如来坐像（長谷寺観音堂）



15 木造地藏菩薩立像（中村地藏堂）

VI 神社関係資料

西国東郡神社明細牒(明治二十三年・抄出) ○大分県立公文書館蔵

大分県管下豊後国西国東郡小畑村字阿弥陀堂

無格村社

穂葉社

一祭神 大山祇神

一由緒 不詳

一石祠 神殿 竪一間 横一間

一拝殿 竪老間三尺 横老間

一境内二百四坪 管有地第一種

一境内神社六社

山神社

祭神 大山祇神

由緒 不詳 元本村字板迫鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

神殿 竪三尺 横三尺

拝殿 竪老間三尺 横老間

貴船神社

祭神 高瀬神

由緒 不詳 元本村字ヤシキ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠 一尺 二尺

金毘羅社

祭神 金山彦神

由緒 不詳 元本村字日ヶ迫鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠

山神社

祭神 大山祇神

由緒 不詳 元本村字門出鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

石祠 一尺 一尺

拝殿 竪老間三尺 横三間

稲荷社

祭神 保食神

由緒 不詳 元本村字門出鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

石祠 一尺 一尺

一氏子七拾貳戸 六拾七人

一大分県庁迄拾六里三拾町七間

以上

大分県管下豊後国西国東郡堅来村字西浜田

村社

八幡社

一祭神 足仲彦天皇 誉田別天皇

息長足姫命

一由緒 当社ハ遠ク貞観ノ頃、堅來浦海中ニ於テ一夜耀トメ異光ヲ発

シ、村民怯テ海浜出空相眺ムニ、其微ヲ見ス正通ノ一老翁アリ、其夜眠ニ就キ忽然トメ夢中ニ白髮老翁現シテ詔ク、仲哀

・神功・応神三靈ナリ、東西三浦ノ人民ヲ濟ニ為ニ來リ、我

ハ三朝ニ仕シ武内ノ臣ナリト云終テ去ルト語レリ、海中又光

氣ヲ発セリ、故ニ潮ノ去ヲ候テ、人民干沙ニ出テ其微ヲ求ム

ルニ、泉ニ三塊ノ金丸ヲ得、以テ大ニ驚キ俄ニ壇ヲ築キ之ヲ

八幡社ト崇恭シ奉リ、白野・堅來・羽根三浦ノ人民氏子トナ

リ、其壇ヲ増補シ社地トナシ連々之ヲ經營シタル等ノ旧記有

リ、去ル文化二年七月十四日ノ夜火災ニ罹リ恐クモ神体ト共

ニ焼失シ、其遺塊ヲ以テ今神靈ト奉斎スト古老ノ口碑ニ伝ヘ

リ

一神 殿 堅武間 横卷間

一社 殿 堅九間 横武間

一境内千九百六拾四坪 官有地第一種

一境内神社十四社

蛭子神社

祭神 蛭子命

由緒 不詳

石祠

拝殿 堅武間 横卷間

天満社

祭神 菅原神

由緒 不詳

石祠

金毘羅社

祭神 金山彦神

由緒 不詳

石祠

殿嶋社

祭神 市杵嶋姫命

由緒 不詳

石祠

國主社

祭神 旧藩領主靈

由緒 不詳

石祠

黄船社

祭神 關渡神

由緒 不詳

石祠

山神社

祭神 大山祇神

由緒 不詳

石祠

大年社

祭神 大年神

由緒 不詳

石祠 堅三尺 横三尺

八面社

祭神 八種雷神

由緒 不詳

石祠 竪三尺 横二尺

御霊社

祭神 八所御霊

由緒 不詳

石祠 竪三尺 横二尺

山神社

祭神 大山祇神

由緒 不詳

石祠

住吉社

祭神 住吉ノ三柱ノ神

由緒 不詳

石祠

山神社

祭神 大山祇命

由緒 不詳

石祠

祖霊社

祭神 板本山田野上瀬口ノ遠祖

由緒 不詳

石祠

一氏子八百四拾老戸

一大分県庁迄拾六里三十一町貳拾七間

一境内神社三社

以上

大分県管轄下豊後国西国東郡堅来村字浜辺

村社

山神社

一祭神 大山祇神

一由緒 不詳 明治六年癸酉年村社ニ列セラル

一神殿 竪三尺 横四尺

一拝殿 竪老間三尺 横三間

一境内 貳百五拾三坪 官有地第一種

一氏子五十戸

一大分県庁迄拾六里三拾五町廿間

一境内神社三社

姪子社

祭神 事代主命

由緒 不詳

石祠 一尺 一尺

五穀神社

祭神 保食神

由緒 不詳

石祠 一尺 一尺五十

納津見社

祭神 豊玉彦命

由緒 不詳

石祠 一尺五十 二尺

大分県官下豊後国西国東郡羽板村字姉本

村社

綿津見社

一祭神 少童命

一由緒 明治七年三月村社ニ列ラル

一神殿 竪老間三尺 横老間四尺

一拜殿 竪老間三尺 横三間

神楽殿 一間三尺

籠屋 二間三尺

御仮殿 一間三尺

二間

拾間

三間

一境内三百五拾二坪 官有地第壹種

一境内神社八社

殿嶋社

祭神 市杵嶋姫命

由緒 不詳

石祠 一尺五十 一尺八十

稻荷社

祭神 保食神

由緒 不詳

石祠 一尺五十 一尺八十

神明社

祭神 大日靈命

由緒 不詳

石祠 一尺五十 一尺八十

御崎社

祭神 猿田彦命

由緒 不詳 元本村字秋成ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠 一尺 一尺五十

今宮社

祭神 素戔鳴男神

由緒 不詳 元本村字水尾鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

石祠 一尺 一尺五十

八坂神社

祭神 素戔鳴男神

由緒 不詳 元本村字神出ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠 一尺 一尺五十

山神社

祭神 大山姫命

由緒 不詳 元本村字小河内ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ移転ス

内へ移転ス

石祠 一尺 二尺

一氏子貳百廿九戸

一大分県庁迫拾七里拾丁四拾四間

以上

大分県管下豊後国西国東郡香々地字塩屋

郷社

別宮八幡社

一 祭神 菅田別尊 市杵島姫命

田心姫命 息長足姫命

滿津姫命

一 由 緒 明治五壬申年月日不詳、社格郷社ニ列セラル、鎮座由緒之儀

不明ト雖モ、養老年間仁聞大士之遺跡ニヨリ宇佐別靈ヲ鎮坐

シ別宮ト称ス、或ハ大同或ハ天安貞觀年間トモ云、事夷不分

明、永延後遣宮棟板而已僅ニ遺留、再之長享年間社主狂乱シ

宝庫ノ什物ヲ棄シ逃去シ、豊前國京都郡稲光村ニテ死ス其遺

物盡驗ノ由ニテ、國東八幡ト称シ来ル伝説ナリ、其後火災ニ

罹リ口什物灰燼ト成ル、稲光村國東八幡宮旧記ニ云ク当社者

住吉村上山ニ白幡ハ流降り、依テ八幡宮メ豊後國國東郡ミト

メト申ス所ヨリ御鎮坐申請シ由、其幡ノ降り立タル所ヲ幡ノ

限ト云トヲ御鎮坐年記由緒事共御坐候由ニ候得共、人皇百七

代正親町院ノ御宇天正十四年丙戌年、九州兵乱ノ節悉ク焼亡

仕候由申伝候、其後年数ヲ経テ異國遺治ノ御祈禱ニ初メテ正

月五日武者役祭ト云ヲ行テ、十二番ノ流鏑馬年々之アリ、以

テ列規ト久云フ

一 神 殿 竪二間 横三間

一 中 殿 竪老間三尺 横貳間

一 拜 殿 竪老間三尺 横老間三尺

一 神 乘 殿 竪二間三尺 横二間

一 南 門 竪三尺 横一間

一 北 門 竪一間 横一間

一 表 門 竪一間三尺 横三間

一 神 横 殿 竪一間三尺 横三間

一 社 務 所 竪二間三尺 横五間

一 神 庫 竪一間三尺 横二間

一 飯 殿 竪一間三尺 横三間

一 神 官 扣 所 竪一間三尺 横三間

一 拜 殿 竪一間 横四間 供奉扣所 一間 一間三尺

一 境 内 三 千 廿 六 坪 官 有 地 第 一 種

一 境 内 神 社 九 社

若宮社

祭 神 大 鷲 鸕 命 大 兼 皇 子

小 葉 枝 皇 子 鷗 鳥 皇 子

由 緒 不 詳

神 殿 竪 五 尺 横 五 尺

荒神社

祭 神 壇 安 彦 命 壇 安 光 命

軻 遇 突 知 命

由 緒 不 詳

神 殿 竪 四 尺 横 五 尺

山神社

祭 神 大 山 祇 命

由 緒 不 詳

石 祠 一 尺 一 尺 五 十

住吉社

祭 神 表 簡 男 命 中 簡 男 命

底 簡 男 命

由緒 不詳

石祠 二尺 二尺

神明社

祭神 大日靈尊

由緒 不詳 元本村字ハサコ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 一尺 一尺五十

天満社

祭神 菅原道美公

由緒 不詳 元本村字早田鎮座ノ処、明治十一年本社境内〔

移転〕

石祠 一尺五十 二尺

稲荷社

祭神 豊受姫命

由緒 不詳 元本村字松原鎮座ノ処、明治十一年本社境内〔

移転〕

石祠 一尺 一尺

貴船社

祭神 間瀬命

由緒 不詳 元本村字五郎丸鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 一尺五十 二尺

天満社

祭神 菅原道美公

由緒 不詳 元本村字周念寺鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

神社殿 竪三尺 横二尺

一 氏子八百九十七戸

一 大分県庁拾八里廿一町

以上

大分県管下豊後国西国東郡香々地村字三園

村社

御盃社

一 祭神 息長足姫命

一 由緒 明治五年壬申月日不詳、村社ニ列セラル

一 神殿 竪三尺 横四尺 素屋 一間三尺 二間

一 拝殿 竪老間三尺 横二間

一 境内九拾八坪 官有地第一種

一 氏子百二十戸 信徒百拾五人

一 大分県庁遠十八里拾四町

以上

大分県管下豊後国西国東郡香々地村字辰ノ平

無格社

神明社

一 祭神 大日靈尊

一 由緒 不詳

一 石祠 一尺 一尺五十

一 拝殿 竪老間三尺 横老間三尺

一境内百十二坪 官有地第一種

一氏子四拾三戸

一大分県序返十八畧拾五丁

以上

大分県管下豊後国西国東郡上香々地村字園政

村社

日枝神社

一祭神 大山咋命

一由緒 靈龜二年鎮坐月日不詳、古キ木面ヲ以テ御靈代トシテ先年尊

敬、其木面ノ裏ニ靈龜二年ト書記アリ、明治五壬申年村社ニ

列レリ

一神殿 竪老間 横老間三尺 素屋 三間 三間 中殿 一間

一間 門 一間 一間

一拝殿 竪老間三尺 横六間

一境内六百四拾九坪 官有地第壹種

一境内神社八社

天祖神社

祭神 天御守主神

由緒 不詳 元本村字秋光ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠 一尺 一尺五十

金毘羅神社

祭神 金山彦命

由緒 不詳

石祠 一尺五十 一尺五十

五穀神社

祭神 倉稲魂命

由緒 不詳

石祠 一尺五十 一尺五十

錦山神社

祭神 加藤清正公

由緒 不詳

石祠 一尺 一尺

荒神社

祭神 素戔嗚命

由緒 不詳

石祠 一尺 一尺

八坂神社

祭神 素戔嗚命

由緒 不詳 元本村字小園ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠 一尺五十 一尺五十

若宮神社

祭神 大鷦鷯尊

由緒 不詳 元本村字若宮ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠 一尺 二尺

九子神社

祭神 綱通智命

由緒 不詳 元本村字堂口二鎮座ノ処、明治十一年本社境内

へ移転

石祠 一尺 一尺五十

一氏子六拾六戸

一大分県庁迄拾八里拾老丁

以上

大分県管下豊後国西国東郡上香々地村字川原

無格社

嶺島神社

五穀神社

一祭神 市谷嶋姫命

倉稲魂命

一由緒 不詳

一石祠 老尺 老尺五十

一拜殿 堅貳間 横四間

一境内五百五拾貳坪 民有地第老種

一境内神社六社

天満神社

祭神 菅原道実公

由緒 不詳

社殿 三尺 二尺

山神社

祭神 大山姫命

由緒 不詳

石祠

神明社

祭神 大日靈命

由緒 不詳

石祠

金毘羅神社

祭神 金山彦命

由緒 不詳

石祠

綿津見神社

祭神 少靈命

由緒 不詳

石祠

神明神社

祭神 大日靈命

由緒 不詳

石祠

一氏子百七拾五戸

一大分県庁迄拾七里余

以上

大分県管下豊後国西国東郡見目村字牛頭

村社

八坂社

秋葉社

一祭神 素盞鳴命

稻田姫命

軻遇突智命

一由緒 明治五年壬申年村社二列ス

一社殿 堅老間 横老間

一拝殿 堅老間三尺 横三間

一境内三百八拾坪 官有地第一種

一境内神社拾貳社

瑜伽社

祭神 大物主命

由緒 不詳

石祠

天満社

祭神 菅原道真公

由緒 不詳

石祠

貴船社

祭神 閻魔命

由緒 明治五年壬申年村社二列ス

神殿 堅老間三尺 横四尺

拝殿 堅四間老尺五寸 横老間

歳社社

祭神 口口靈命

由緒 不詳

神殿 堅貳尺六寸 横三尺

拝殿 堅二間老尺 横老間老尺

天祖社

祭神 御中主命

由緒 不詳

石祠

神殿 堅三尺 横四尺

拝殿 堅二間老尺 横貳間

山神社

祭神 大山姫命

由緒 不詳

石祠

火神社

祭神 軻遇突智神

由緒 不詳

石祠

善神社

祭神 豊岩窓命

由緒 不詳

石祠

神殿 堅三尺 横三尺

神殿 堅老間三尺 横老間

鼓鳴社

祭神 市杵嶋姫命

由緒 不詳

石祠

龍神社

祭神 豊玉彦命

由緒 不詳

石祠

栗嶋社

祭神 少名彦命

由緒 不詳

石祠

神明社

祭神 大日靈命

由緒 不詳

石祠

一 氏子二百七拾七戸

一 大分県庁迄拾七里二十八町四十八間

以上

大分県管下豊後国西国東郡夷村字大宮

村社

六所神社

一 祭神 伊弉諾神 八十狂津日命

大直日神 表筒男命

中筒男神 底筒男命

一 由緒 養老二年午二月勸請、明治五壬申年村社三列セラレ

一 社殿 竪貳間 横老間三尺

一 境内九百七拾老坪 官有地第老種

一境内神社十六社

天満社

祭神 菅原道真公

由緒 不詳 元本郷字手元鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

石祠 一尺 一尺

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本郷字徳間鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

石祠 八十八 八十

八面社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本郷字松尾鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

石祠 一尺 一尺

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本郷字山際鎮座ノ処、明治十一年本社境内へ

移転

石祠 一尺 一尺五十

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本郷字坂井河内鎮座ノ処、明治十一年本社境

内へ移転

石祠 一尺 一尺

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本邸字千灯林鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 一尺五十 一尺五十

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本邸字谷ノ追鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本邸字竹ノ中鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 八十八

貴布祢社

祭神 閻濫加美神

由緒 不詳 元本邸字□□鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 二尺五十 二尺五十

今夷社

祭神 事代主命

由緒 不詳 元本邸字今夷ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

社殿 堅老間五尺 横老間五尺

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本邸字今夷ニ鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 一尺 一尺

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本邸字庵十弘鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 一尺 一尺二十

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本邸字小ケ□□鎮座ノ処、明治十一年本社境内

内〔移転〕

石祠 二尺 二尺

山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳 元本邸字鳥越鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

石祠 八十 八十

白峯社

祭神 崇徳天皇

由緒 不詳 元本邸字前花鎮座ノ処、明治十一年本社境内

〔移転〕

社殿 整卷間 横卷間三尺

一 氏子百七拾戸

一 大分県庁道拾七里廿七町

大分県管下豊後国西国東郡夷村字見目河内

無格社

山神社

一 祭神 大山淨見神

一 由緒 不詳

一 石祠 一尺 二尺

神殿 二間 二間三尺

一 境内拾七坪 官有地第壹種

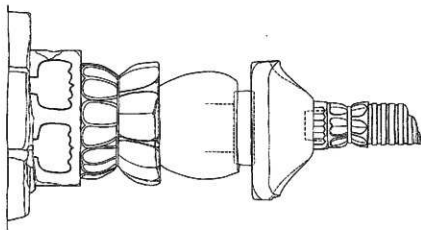
一 氏子八人

一 大分県庁道拾八里

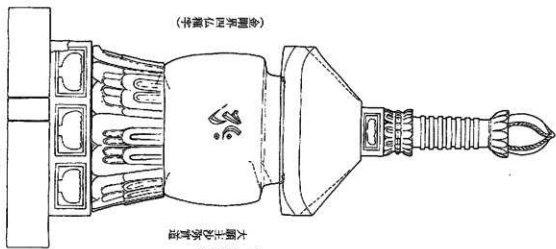
Ⅶ 石造文化財実測図

香々地区は、これまでの調査地区であった田染地区・都甲地区と同様に石造物が極めて豊富な地域である。ただし、無銘の優品が多く、今回の調査でも、編年の基準をつくるため、またこれまでの調査成果との対照を行うため、主なものの実測を悉皆的に実施することとした。以下に掲げた三〇〇の図面は、その成果である。ここでは、石造物の種類とに推定年代順に配列した。

- 1 塔ノ本因東塔(南北朝時代・一四世紀前半) 大字夷字焼尾
- 2 実相院東塔(南北朝時代・一四世紀前半) 大字夷字東南私
- 3 殿屋敷園東塔(暦応二年八二三八年√銘) 大字香々地字早田
- 4 長谷寺跡園東塔(南北朝時代・一四世紀後半) 大字堅来字堂ノ本
もとは真玉町界に近い丘陵部にあったものを移したという。
- 5 中山観音堂園東塔(室町時代・一五世紀前半) 大字見目字中山
- 6 叶洞観音堂園東塔(室町時代・一五世紀前半) 大字香々地字下叶洞
もとは、観音堂の後背にある丘陵中腹にあったという。
- 7 垣副家墓地園東塔一号(室町時代・一五世紀前半)
大字上香々地字上平
- 8 垣副家墓地園東塔二号(室町時代・一五世紀後半)
大字上香々地字上平
- 9 樋ノ口観音堂園東塔(室町時代・一五世紀後半)
大字香々地字上ノ平
- 10 盤仙寺園東塔(室町時代・戦国時代・一五世紀後半〜一六世紀)
大字夷字中川原
- 11 中山家墓地園東塔一号(戦国時代・一六世紀前半)
大字上香々地字上平
- 12 中山家墓地園東塔二号(戦国時代・一六世紀前半)
大字上香々地字上平
- 13 五郎丸園東塔一号(戦国時代・一六世紀前半) 大字香々地字五郎丸
- 14 五郎丸園東塔二号(戦国時代・一六世紀前半) 大字香々地字五郎丸
- 15 吉田家園東塔一号(戦国時代・一六世紀前半) 園見町大字竹田津
もとは大字見目字伽藍にあったもの。
- 16 吉田家園東塔二号(戦国時代・一六世紀前半) 園見町大字竹田津
15と同しく大字見目字伽藍にあった。
- 17 天王社園東塔(戦国時代・一六世紀後半) 大字見目字牛頭
- 18 志太波家園東塔(戦国時代・一六世紀後半) 大字夷字中ノ丸
- 19 東智應園東塔(戦国時代・一六世紀後半) 大字見目字堂園
- 20 徳丸園東塔(天正二年八一五七四√銘) 大字見目字徳丸
- 21 中村宝篋印塔(南北朝時代・一四世紀後半) 大字堅来字前田
- 22 影平宝篋印塔(戦国時代・一五世紀後半〜一六世紀)
大字夷字影平
- 23 梅松寺宝篋印塔(戦国時代・一六世紀) 大字小畑字大平
- 24 道園宝篋印塔(慶長一〇年八一六〇五√銘) 大字夷字尾鼻
- 25 竹田津家墓地宝篋印塔(一六世紀後半〜一七世紀) 大字見目字堂園
- 26 坊中岩屋宝塔一号(鎌倉時代・一三世紀) 大字夷字十連
- 27 実相院板碑(南北朝時代・一四世紀前半) 大字夷字中川原
現在は墓碑に立て掛けられている。
- 28 施恩寺板碑一号(南北朝時代・一四世紀前半) 大字上香々地字三角
- 29 川原寺板碑(室町時代・一五世紀前半) 大字上香々地字梶屋
- 30 山神社板碑(室町時代・一五世紀前半) 大字夷字平所



1 塔ノ本圖家塔



(金剛界四仏種子)

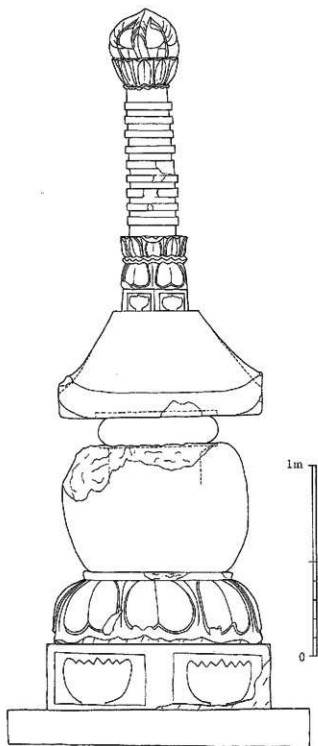
大願主沙弥實造

同 聖壽院

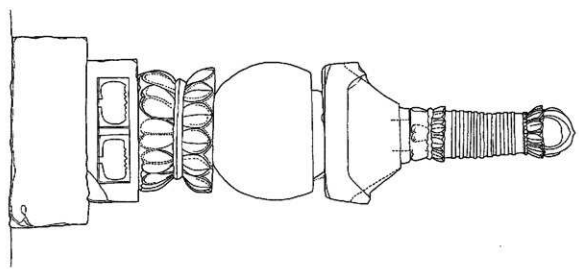
隱慶二

宗孝院別院

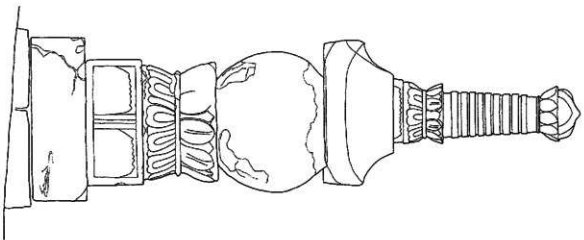
3 早田園東塔



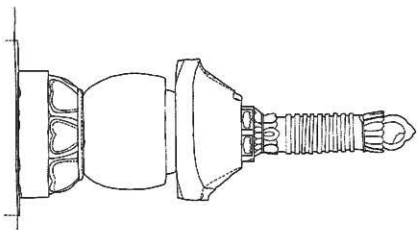
2 実相院国東塔



6 叶洲観音堂圓東塔

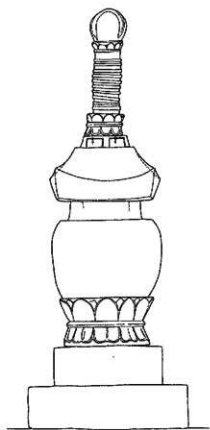


5 中山観音堂圓東塔

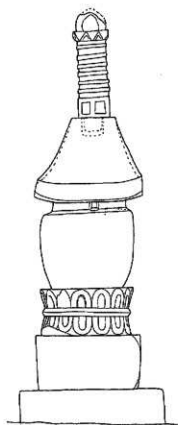


4 長谷寺跡圓東塔

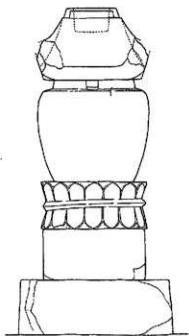




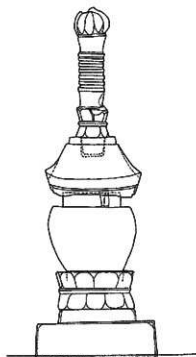
9 樋ノ口観音堂国東塔



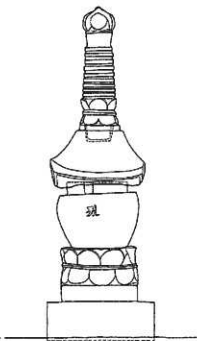
8 垣副家墓地国東塔(2号)



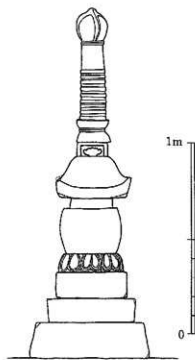
7 垣副家墓地国東塔(1号)



12 中山家墓地国東塔(2号)



11 中山家墓地国東塔(1号)



10 靈仙寺国東塔



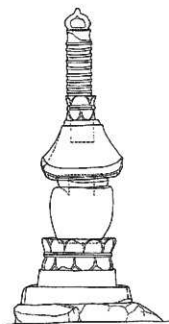
15 吉田家園東塔 (1号)



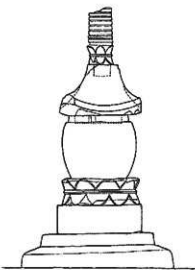
14 五郎丸園東塔 (2号)



13 五郎丸園東塔 (1号)



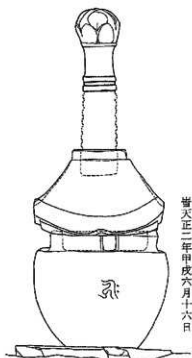
18 志太波家園東塔



17 八坂社園東塔

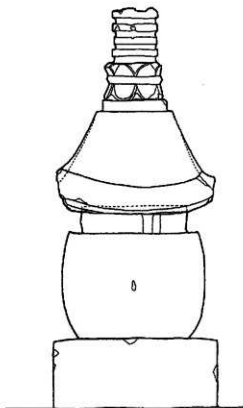


16 吉田家園東塔 (2号)

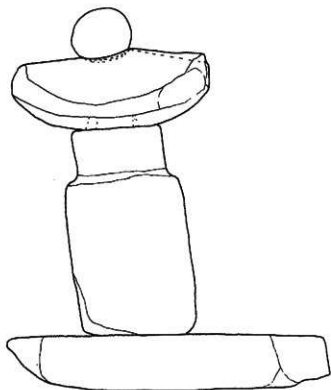


20 德丸国東塔

(塔身陰刻銘)
 當天正二年甲戌六月十六日

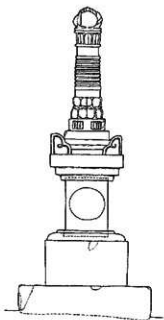


19 東智庵国東塔

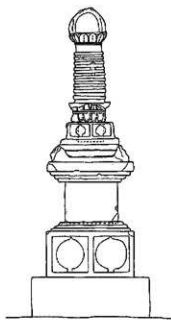


26 坊中岩屋宝塔(1号)

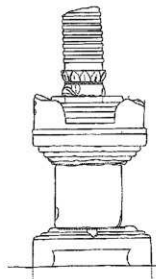




23 梅松寺宝篋印塔



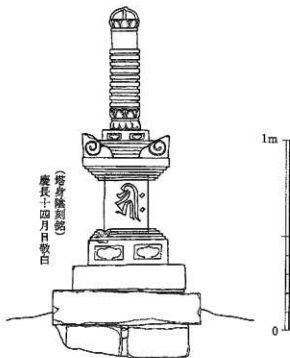
22 影平宝篋印塔



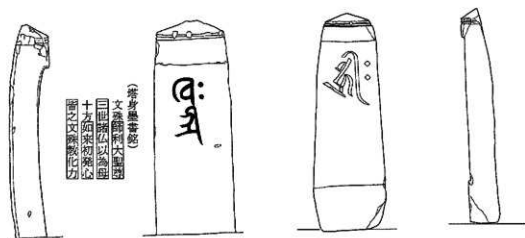
21 中村宝篋印塔



25 竹田津家墓地宝篋印塔

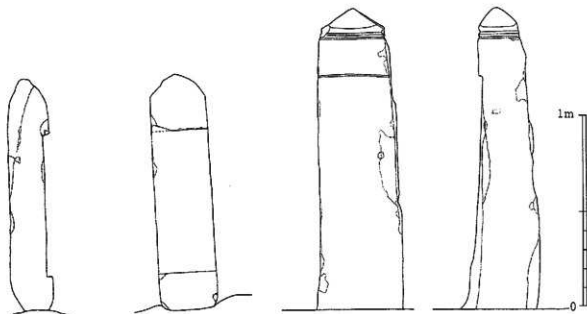


24 道園宝篋印塔



28 施恩寺板碑 (1号)

27 実相院板碑



30 山神社板碑

29 川原寺板碑



18 実相院国東塔



17 塔ノ本国東塔



20 長谷寺跡国東塔



19 早田国東塔



22 叶洲観音堂国東塔



21 中山観音堂国東塔



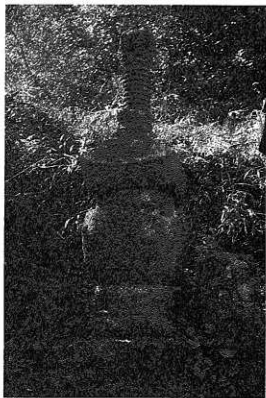
24 壺副家墓地国東塔(2号)



23 壺副家墓地国東塔(1号)



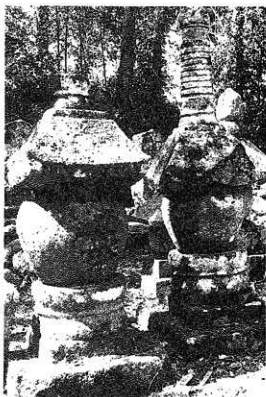
26 靈仙寺國東塔



25 樋ノ口観音堂國東塔



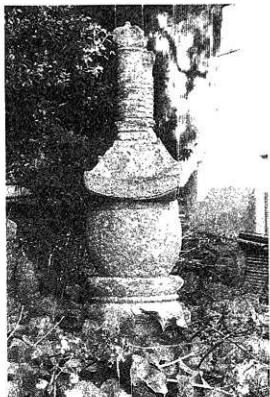
28 五郎丸國東塔(1号)



27 中山家墓地國東塔1号(左)・2号(右)



30 吉田家園東塔（1号）



29 五郎丸園東塔（2号）



32 天王社園東塔



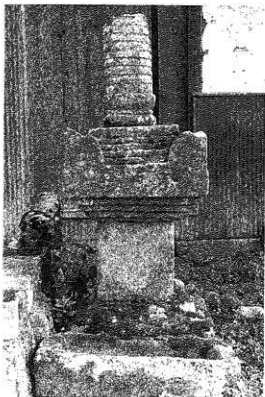
31 吉田家園東塔（2号）



34 東智庵園東塔



33 志太波家園東塔



36 中村宝篋印塔



35 徳丸園東塔



38 梅松寺宝篋印塔



37 影平宝篋印塔



40 竹田津家墓地宝篋印塔



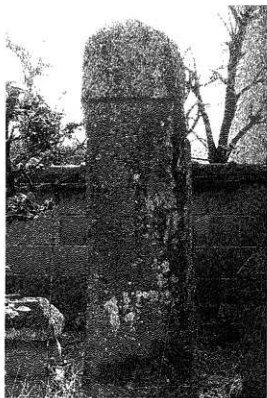
39 道園宝篋印塔



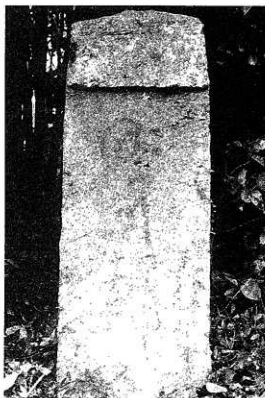
42 実相院板碑



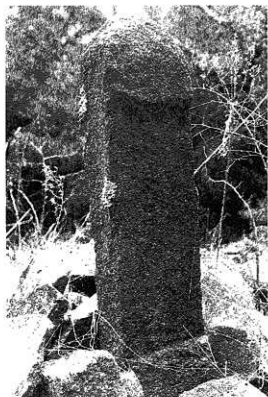
41 坊中岩屋宝塔（1号）



44 川原寺板碑



43 施恩寺板碑（1号）



45 山神社板碑

Ⅷ 小字・シコナ一覽

この一覽表は、大分県西国東部香々地町大字香々地・見目・上香々地・夷・羽根・壱来・小畑の大字と小字およびシコナ(小字内地名)・屋号を収録したものである。

今回の収録にあたっては、これまでの田染荘・都甲荘調査のなかで確立された方法を踏襲することとし、小字ごとに地番を記すとともに、シコナについても地番表示を行った。このうち、シコナの収録については、千分の一あるいは二千分の一の地形図を持参し、聞き取り調査を行い、そこで聞き取ったシコナについては、複数の方から聞くこととし、図面を範圍などを確認したのち、字図などによって地番の確認を行う方法をとった。ただし、今回の収録にあたっては、地圖にある地名の範圍を字図などで確認し、地番を付しているが、地番を表示していないものは、地名の範圍を確認できなかったところである。収録した字は六〇四、シコナ・屋号などは五三三を数える。これらについては、なお時間をかければ収録は可能であり、補足が出た場合は本編に補遺を掲載する予定である。

なお、今回の小字・シコナ一覽の作成については、三点ほど別記しておくべき事柄がある。

まず第一には、大字夷のうち、小字番号一九三以降の旧狩場村についてである。明治初頭には、狩場地区は西国東部黒土村(現在の真玉町)となり、大分地方事務局の地籍図(以下、地籍図と呼ぶ)では、小字番号は八八、地番は六二七一番からはじまっている。しかし、のちに狩場地区は香々地町大字夷に編入され、地番も変更が加えられており、ここ

では現行地番を表示し、小字番号も大字夷のうちでの通し番号で一九三から付けた。

第二点目としては、大字上香々地の一部の小字にみえるサイドラインをひいたシコナについてである。これらは明治初年政隆の小名(こな)と見られるもので、大字上香々地のうち旧長小野村地区にのこされた、明治初年の小名を記した三枚の地圖(以下、小地名図と呼ぶ)に拠るものである。これらの地圖は、残念ながら、現在はコピーでしか見ることができず、そのコピーも端の切れている部分があり、不詳な点もあるが今回はコピーで判明する小名に関して収録した。巻末には、そのうち特に水田部分と関連の深い一枚分のトレース図、ならびに参照として該当地区の地形図とをあわせて掲載した。なお、本来一つのシコナが二つ以上の字にまたがっていると思われるものには、◎印を付けるのが原則であるが、旧長小野村分のシコナについては、判断の難しいものもあり、この地区に限っては◎印を除いた。なお、明治初年の小名のうち、聞き取りで確認できたものは()内に片仮名で記載した。

第三点目として挙げられるのは、大字上香々地の小字の異同についてである。今回の一覽を作成するにあたっては、香々地町役場所蔵の字図(旧字図と呼ばれるもの、以下字図と呼ぶ)と地籍図を参考にして、字図の大字上香々地の所には、字今井のほかは字栗師ノ前の図面が含まれている。字栗師ノ前は地番でいうと、五〇九六番〜五〇九九番の範圍であるが、この図には書き込みがあり、「税務署ノ地圖ハ字今井二トアル、栗師ノ前ト字ナシ」と記されている。一方で、字今井の図は五〇五二番からはじまり、途中栗師ノ前にある地番を除き、五一四八番までとなっている。たしかに、地籍図では字栗師ノ前はなく、「今井二」とあることから、今回は地籍図にしたがって、まずは字今井に統一すること

とした。ただし、小地名図に「薬師前」という名前が見え、これがいわゆる字薬師ノ前にあたることも想定されたが、小地名図にある範囲と字図のそれとは大きく異なる。むしろ、小地名図の「薬師前」は、地図に描かれた形などからも、字今井のうちの地番五一三二(地目官有地、今井薬師の所在地と見られる)および五一三〇・五一三二周辺に比定されることから、字図で字薬師ノ前とされた箇所とは別に、字今井のなかにも「薬師前」というシコナが所在したことが知られる。また、字図では、字今井を「八拾七番」と小字番号を書き込んでいるが、その一方で字水迫も「八拾七番」としており、若干の混乱が見られる。それゆえ、以下の一覧では、地籍図の地番にしたがって、小字を配列し小字番号を付すこととした。あるいは、大字上香々地では、地番が重複している所もあるが、ここではそのままとした。

最後に、シコナの所に付けた記号についてであるが、◎は二つ以上の小字に地名の範囲がまたがるもの、□は判読できなかった文字を示し、※は字が特定できない地名を示している。

△ 香々地 ▽

- 一 清水 (一〇六〇)
- 二 谷上 (六一〇一四四)
- 三 真無 (二四五二三四)
- 四 中尾 (二二五二七八)
- 五 中平 (二七九三二五)
- 六 山水 (三二六四〇二)
- 七 早田 (四〇三六〇一)

1 ショウジアン (二二九二三三)

1 トノヤシキ (殿屋敷) (四一一)

2 ワタヤ (四八二)

- 八 五郎丸 (六〇二七〇八)
- 九 尾ノ鼻 (七〇九七五九)
- 一〇 椎田原 (七六〇八二二)
- 一一 叶坂 (八二三九一六)
- 一二 高辻 (九一七九六〇)
- 一三 東平 (九六一〇五三)
- 一四 周年寺 (二〇五四二一〇七)
- 一五 荒牧 (二〇八二一七八)

1 タンジリ (二二〇一〇一)、2 ◎モウタ (二四五・四六・五二・六一〇六五・七二七五)、3 ツカダ (二二五五)、4 ツカダノシモチ (二二五七)、5 カミノタ (二五八の一部)、6 ◎カンチカ (二七四・七五)

- 一六 塔ノ元 (二二七九二二〇五)

- 一七 田中 (二二〇六二二二八)

- 一八 御盤 (二二二九二二九九)

1 オブクゼン (二一八〇・八一)、2 トウノモト (二一九〇)、3 アンラクジブン (二一九二)、4 ヒロダ (二一九四)
 1 タナカノウラ (二二〇六)、2 タナカノカンテ (二二二七)、3 クボタ (二二二八)
 1 ゴリョウ (二二三四・三五・六三)、2 ヒロダ (二二四七)、3 フルジョウ (二二七六・二二七九)

一九 門田 (二三〇〇) ~ 二三四八

八五), 4 ミソノ (二二九九)

1 マエノタ (二三〇三), 2 セン

ザ (二三〇五), 3 ホセサマ (一

三二七の南端, 用水路の分岐点,

4 シンタ (二三三七), 5 オウカ

ンバタ (二三四四)

二〇 坂口 (二三四九) ~ 二四四六

1 サンセギレ (二三五〇), 2 キュ

ウキブン (二三五九), 3 ガツバ

ノス (二三六九・七〇)

1 タニグチ (二四五八・五九)

二一 上叶測 (二四四七) ~ 二六五四

二二 下叶測 (二六五五) ~ 二七七六

二三 俊野 (二七七七) ~ 二八五三

二四 能丸 (二八五四) ~ 二九三二

二五 尻無 (二九三三) ~ 二九六八

二六 向平 (二九六九) ~ 三〇六一

二七 蛭石 (三〇六二) ~ 三二五三

二八 小谷 (三二五四) ~ 三二八九

二九 神サヤ (三二九〇) ~ 三三二六

三〇 サヤノ下 (三三二七) ~ 三三六二

三一 阿又谷 (三三三三) ~ 三三九六

三二 柳当 (三三九七) ~ 三四三八

三三 蛭ヶ久保 (三四三九) ~ 三五〇八

三四 大平 (三五〇九) ~ 三五四四

三五 藤原 (三五四五) ~ 二六〇八

三六 牛迫 (二六〇九) ~ 二六九八

三七 火焚 (二六九九) ~ 二七九九

三八 ゴクリユウ (二八〇〇) ~ 二八四五

三九 辰ノ平 (二八四六) ~ 二九一一

四〇 犬子 (二九一二) ~ 三〇六九

1 ノテデシモ (二九九二), 2 ノ

テデナカ (二九九二), 3 ノテデ

カミ (三〇〇二), 4 ㊦ムネカネ

(三〇六一・六二)

四一 上ノ平 (三〇七〇) ~ 三一八〇

四二 樋ノ口 (三一八一) ~ 三三五五

1 イナリババウエ (三二七八)

1 オオシロ (三一八一) ~ 三八五),

2 ヒロダ (三三〇九), 3 向屋敷

上 (三三二二), 4 向屋敷 (三三

二二), 5 マエノタ (三三二七),

6 シンド (三三三〇), 7 ㊦ムネ

カネ (三三四二)

四三 下河原 (三三五六) ~ 三三九二

四四 見取 (三三九二) ~ 三四二七

四五 堤 (三四二八) ~ 三五一八

四六 神田 (三五一九) ~ 三五六五

四七 浜殿 (三五六六) ~ 三五九四

四八 塩屋 (三五九五) ~ 三七二二

四九 中塚 (三七一三) ~ 三七六八

五〇 松原 (三七六九) ~ 三八八三

五一 鴨尾 (三八八四) ~ 三九三二

五二 竹田 (三九三三) ~ 三九七八

1 アブラヤ (三八一八)

1 ナカガワ (三四七五)

1 ㊦ゼン (三五一九) ~ 二二)

1 塩田屋 (三五八四), 2 クーヤ

(三五九二)

五三 大田 (三九七九〜四〇一三)
 五四 石田 (四〇一四〜四〇七〇)
 五五 居船 (四〇七一〜四一〇九)
 五六 山崎 (四一一〇〜四一三四)
 五七 今屋敷 (四一三五〜四一六五)

五八 羽追 (四一六六〜四二二二)
 五九 浜 (四二二三〜四三二九)

六〇 谷尻 (四三三〇〜四三五九)
 六一 谷 (四三六〇〜四四二〇)
 六二 赤追 (四四二一〜四四八七)
 六三 向平 (四四八八〜四五二四)
 六四 燃杭 (四五二五〜四六〇五)
 六五 江畑 (四五〇六〜四六八二)
 六六 鎮在 (四六八二〜四八〇二)
 六七 善根津 (四八〇三〜四九〇八)
 六八 彦八 (四九〇九〜四九八五)
 六九 脇 (四九八六〜五一一二)
 七〇 尾崎 (五一一二〜五三二〇)

七一 高砂 (五三一〜五三九五)
 七二 葉切 (五三九六〜五五二三)

1カシヤ (四一四六)、2コメヤ (四一四九)

1センキマチ (四二四九・五〇・八五・四三七四)、2ハマンカンテ (四二八六・九八・四三〇〇、〇五)

1サカヤ (四六四五)

1クニヤ (五二〇四)、2ハシライワ

七三 割石 (五五二四〜五七四二)
 七四 上田ノ浦 (五七四三〜五八〇二)
 七五 田ノ浦 (五八〇三〜五八七三)
 七六 三ツ塚 (五八七四〜五九五二)
 七七 松津 (五九五二〜六〇二二)
 七八 四面野 (六〇二三〜六〇六四)
 七九 梨ヶ谷 (六〇六五〜六一〇〇)
 八〇 姥ヶ谷 (六一一〜六一六五)
 八一 道神ノ下 (六一六六〜六二〇六)
 八二 高辻 (六二〇七〜六三〇三)
 八三 下サヤ (六三〇四〜六三五二)
 八四 白水 (六三五二〜六五〇五)
 八五 松津頭 (六五〇六〜六五八六)

1カシヤ (五九八六)
 1オノハナ (六〇四五・四八)
 1ヒガシダニ (六〇六六)
 1ロッカサコ (六五〇六)、2ヒガシダニ (六五〇八・〇九・一五)

〆 見 目 〰

一 榎木 (二〜一八)
 二 宮尾 (一九〜五五)
 三 月ノ木 (五六〜九〇)
 四 芝原 (九一〜一二〇)

1◎ジゼン (二四・一六〜一七)
 1◎ジゼン (一九〜四〇)
 1ヤマノダ (六七〜七一)、2サイタ (七二と七五の東端)
 1トオリシカワ (九二の腕を流れる川)

- 五 才田 (二二一〜二四二)
- 六 青田 (二四二〜二五七)
- 七 下横田 (二五八〜二七八)
- 八 園田 (二七九〜二九七)
- 九 土上 (二九八〜三四〇)
- 一〇 通ノ本 (二四一〜二六八)
- 一一 柳ノ木 (二六九〜三〇〇)
- 一二 上下田 (三〇一〜三二八)
- 一三 兼峯 (三一九〜四二九)
- 一四 年神 (四三〇〜四五四)
- 一五 片山 (四五五〜四八四)
- 一六 中尾 (四八五〜五三三)
- 一七 官森 (五六四〜五九二)
- 一八 牛頭 (五九三〜六六〇)
- 一九 宮峠 (六六一〜七五四)
- 二〇 七社 (七五五〜七七三)

- 一 カナモト (二四五・四八)、2
ヨセダシ (二五三の西半分)
- 1 ①モウタ (二六九〜七五・七九
〜九〇)、2 ②カンチカ (二七五・
七六・九九・三〇〇)、3 テラン
シタ (二八八)、4 カンチカワタリ
(二九八南側を通る道)
- 1 ①モウタ (三〇一〜〇八)、2
シメシイド (三〇六北端の井戸)、
3 キモンド (三〇六南端の井戸)
- 1 ①シモンヒラ (五三八・四二)
四六)
- 1 ①シモンヒラ (五八二〜八七・
九二)
- 1 ハマジョウヤ (七一八)

- 一一 宮庄 (七七四〜八一九)
- 一二 天越 (八二〇〜八五一)
- 一三 元兼 (八五二〜八九三)
- 一四 中山 (八九四〜九四一)
- 一五 下尾追 (九四二〜九八四)
- 一六 徳丸 (九八五〜一〇三三)
- 一七 中尾追 (一〇三四〜一〇八三)
- 一八 近広 (一〇八四〜一一二五)
- 一九 迎畑 (一一二六〜一一七六)
- 二〇 上尾追 (一一七七〜一二〇四)
- 二一 猶原 (一二〇五〜一二四五)
- 二二 油田 (一二四六〜一二九七)
- 二三 狐石 (一二九八〜一三四九)
- 二四 高辻 (一三五〇〜一三七〇)
- 二五 長相 (一三七一〜一四二五)
- 二六 上長相 (一四二六〜一四五四)
- 二七 打路木 (一四五五〜一四八五)
- 二八 犬嶽 (一四八六〜一五四二)
- 二九 嶺安 (一五四三〜一五九三)
- 四〇 伽藍 (一五九四〜一六三九)
- 四一 保木 (一六四〇〜一七〇五)
- 四二 蛇ノ神 (一七〇六〜一七三五)
- 一 カミヂョウソウ (二四四〇〜
四二)
- 1 ヒロダ (一五八七)、2 ニシノ
タ (一五八〇)、3 コダシ (一五
八八)

- 四三 瓜谷 (一七三六) ~ 一七七六
 四四 若山 (一七七七) ~ 一八三九
 四五 一ノ迫 (一八四〇) ~ 一八八一
 四六 茂重坊 (一八八二) ~ 一九一四
 四七 小麻路 (一九一五) ~ 一九四三
 四八 待所 (一九四四) ~ 一九六四
 四九 亀甲 (一九六五)
 五〇 割石 (一九六六) ~ 二〇〇六
 五一 中尾辻 (二〇〇七) ~ 二〇四二
 五二 板ヶ迫 (二〇四三) ~ 二〇五八
 五三 水ヶ迫 (二〇五九) ~ 二〇七九
 五四 家老 (二〇八一) ~ 二二三三
 五五 池ノ内 (二二二四) ~ 二二四四
 五六 姪畑 (二二四五) ~ 二二九二
 五七 深迫 (二二九三) ~ 二三四〇
 五八 藤原 (二三四一) ~ 二三〇八
 五九 豆木原 (二三一一) ~ 二三四四
 六〇 四方城 (二三四五) ~ 二三七八
 六一 東伽藍 (二三七九) ~ 二四二五
 六二 内無 (二四二六) ~ 二四七七
 六三 稻木原 (二四七八) ~ 二五五二
 六四 東長相 (二五五三) ~ 二六〇七
- 一イケンシリ (二二六三) ~ 七
 二オウカン (二二七九)
 三)
- 一ヨモジロ (二三五一)
 一イナギワラ (二五二〇)・四
 三)
 一ミスマ (二五五三)、2チヨ
 ウソウマエ (二五七八)
- 六五 奎殿 (二六〇八) ~ 二六八五
 六六 扇平 (二六八六) ~ 二七八五
 六七 一ノ瀬 (二七八六) ~ 二八六七
 六八 下深迫 (二八六八) ~ 二九一九
 六九 平原 (二九二〇) ~ 二九六八
 七〇 東近広 (二九六九) ~ 三〇二二
 七一 小路 (三〇一三) ~ 三〇七三
 七二 治郎丸 (三〇七四) ~ 三一三二
 七三 堂園 (三一三三) ~ 三一七二
 七四 又迫 (三一七三) ~ 三二五六
 七五 寺山 (三二五七) ~ 三三〇二
 七六 寺山迫 (三三〇三) ~ 三三四三
 七七 伏原 (三三四四) ~ 三三九四
 七八 北田 (三三九五) ~ 三四五三
 七九 其ノ田 (三四五四) ~ 三五〇六
 八〇 三安 (三五〇七) ~ 三五三七
- 一ニタンギレ (二六〇九)、2
 ムコウノタ (二六二二)
- 一モトミヤ (三三七五)
 一ヤネウチ (三四三八)
 一ナガレ (三四七〇)、2スナ
 ハラ (三四七五) ~ 八〇)
 一シンデン (三五二二)・二四、
 2オダゲ (三五二五)・二六、3
 サンヤス (三五三〇)・三二(一)
- 八一 三安上 (三五三八) ~ 三五八二
 八二 鎮在木 (三五八三) ~ 三六一一
 八三 東村 (三六一二) ~ 三六八〇
 八四 上山口 (三六八二) ~ 三七四七
- 1クーヤ (三六四九)、2ジデ (自
 在) (三六五〇) ~ 五六
 1三浦屋 (三六八四)

- 八五 山口(三七四八〜三七八二)
 八六 榎本(三七八三〜三八四五)
 八七 浜磯(三八四六〜三九一六)
 八八 浜田(三九一七〜三九七五)
 八九 堀切(三九七六〜四〇一九)
- 九〇 岬(四〇二〇〜四〇六四)
 九一 順川(四〇六五〜四一一六)
 九二 上順川(四一一七〜四一六六)
 九三 打石(四一六七〜四一九四)
 九四 藪新田(四一九五〜四二二七)
 九五 小岬(四二二八〜四二七五)
 九六 上小岬(四二七六〜四三〇九)
 九七 波戸(四三一一〜四三六二)
 九八 波戸越(四三六三〜四四一一)
 九九 敷戸迫(四四一二〜四四五七)
 一〇〇 上波戸(四四五八〜四四九九)
 一〇一 笹原(四五〇〇〜四五三七)
 一〇二 上笹原(四五三八〜四五八〇)
 一〇三 打越(四五八一〜四六一〇)
- 一〇四 休場(四六一〜四六八一)
 一〇五 目久保(四六八二〜四七一四)
 一〇六 勘追(四七一五〜四七六六)
 一〇七 東波戸(四七六七〜四八〇五)
 一〇八 鱧(四八〇六〜四八四八)
 一〇九 水谷(四八四九〜四九〇五)
 一一〇 日串(四九〇六〜四九四八)
 一一一 大谷(四九四九〜五〇三一)
 一一二 石坪兎(五〇三二〜五〇六九)
 一一三 伏原谷(五〇七〇〜五一三八)
 一一四 唐追(五一三九〜五二〇一)
 一一五 庄ヶ平(五二〇二〜五二五三)
 一一六 仁田尾下(五二五四〜五二九八)
 一一七 仁田尾(五二九九〜五三四三)
 一一八 榎木原(五三四四〜五四〇〇)
 一一九 尻無(五四〇一〜五四五八)
 一二〇 大平(五四五九〜五五三四)
 一二一 上高嶋(五五三五〜五六一〇)
 一二二 田ノ平(五六一一〜五六七五)
 一二三 江ノ上(五六七六〜五七三三)
 一二四 高嶋(五七三四〜五七八八) 1ナカマ(五七六七)
- 1 山口屋(三七五一)
 1ウマミチワタリ(三七八五北側の道)
 1イゼノクチ(三八八四)、2
 コーリンバコ(三九一三)
 1ヨコハマ(三九二三)、2
 シビラ(三九二四)
 1イナタブ(三九一八)、2キオトシ(四〇一五の海沿い)、3ウシタテバ(四〇六〇の岬の突端近くの入江)

△ 上 香 々 地 △

一 信重 (二〇二四)

- 二 芹原 (二二五〇一、二二五〇二)
- 三 坂口 (二九三〇一、二九三〇二)
- 四 道信 (三〇三〇一、三〇三〇二)
- 五 後野 (三九六〇一、三九六〇二)
- 六 信川 (四六一〇一、四六一〇二)
- 七 弁才天 (五二〇〇一、五二〇〇二)
- 八 金伏 (五六三〇一、五六三〇二)
- 九 徳光 (六五七〇一、六五七〇二)
- 一〇 中追 (七四八〇一、七四八〇二)
- 一一 入道追 (八〇一〇一、八〇一〇二)
- 一二 繁成 (八四二〇一、八四二〇二)
- 一三 友広 (九六一〇一、九六一〇二)
- 一四 落追 (一〇七八〇一、一〇七八〇二)
- 一五 ウド (一一五〇〇一、一一五〇〇二)
- 一六 小追 (一一九〇〇一、一一九〇〇二)
- 一七 三角 (一二四六〇一、一二四六〇二)

- 1 アノダ (四〇一三・一六〇二七)
- 2 カシラ (二五・二六・二七の境の湧水点、3 カマダ (四二)、4 スサキ (四四)、5 イケノソト (六九)

1 〇 ホキノシタ (一八六)

1 〇 ホキノシタ (三〇五)

1 シゲナリヤシキ (九五〇)

- 1 カミノハシ (一三五二)、2 ホシケ (一三五五)、3 ナカノイエ (一三五六)、4 シモノハシ (一三六一)

一八 前田 (二二六八〇一、二二六八〇二)

一九 秋光 (二四六六〇一、二四六六〇二)

- 二〇 篠子 (二五八二〇一、二五八二〇二)
- 二一 門田 (二七三三〇一、二七三三〇二)
- 二二 秋本 (二八一九〇一、二八一九〇二)

- 二三 中平 (二〇〇三〇一、二〇〇三〇二)
- 二四 家永 (二〇一四〇一、二〇一四〇二)
- 二五 地定 (二〇九〇一、二〇九〇二)
- 二六 中地定 (二二九三〇一、二二九三〇二)
- 二七 奥地定 (二二七七〇一、二二七七〇二)
- 二八 蓋 (二四二二〇一、二四二二〇二)
- 二九 梶屋 (二五〇三〇一、二五〇三〇二)
- 三〇 尾追 (二六〇四〇一、二六〇四〇二)
- 三一 真竹 (二六八〇一、二六八〇二)
- 三二 柚ノ木 (二七八〇一、二七八〇二)
- 三三 稲石 (二八五〇一、二八五〇二)
- 三四 大平 (二九二〇一、二九二〇二)

- 1 マエノタ (一三六八〇一、一三六八〇二)
- 2 テラノマエ (一三八七〇一、一三八七〇二)
- 3 トモヒロ (一四一七〇一、一四一七〇二)
- 4 ツカ (一四四二〇一、一四四二〇二)
- 5 デヤ (一四六六〇一、一四六六〇二)
- 1 カシノマツ (二五二六〇一、二五二六〇二)
- 2 五・二八の間を通る水路名、2 アキミツ (二五三四〇一、二五三四〇二)
- 3 シンザカヤ (一五七二〇一、一五七二〇二)
- 1 キヨダ (二七二七〇一、二七二七〇二)
- 1 シンタ (二七五五〇一、二七五五〇二)
- 1 シモンハシ (一八四二〇一、一八四二〇二)
- 2 カジヤ (一八五二〇一、一八五二〇二)
- 3 回春堂 (一八七二〇一、一八七二〇二)
- 1 オシヨウヤ (二二一八〇一、二二一八〇二)
- 1 ゼミノモト (二四二二三付近)

- 三五 立石 (二九六〇〜二九八七)
 三六 猪爪 (二九八八〜三〇三四)
 三七 伊勢堂 (三〇三五〜三〇七四)
 三八 柿ノ本 (三〇七五〜三一七)
 三九 前ノ丸 (三一七八〜三一七六)
 四〇 一九 (三一七七〜三二〇七)
 四一 金丸 (三二〇八〜三二四三)
 四二 田城 (三二四四〜三二八〇)
 四三 洲ノ上 (三二八一〜三三五六)
 四四 鳥居 (三三五七〜三四〇四)
 四五 松成 (三四〇四〜三四七三)
 四六 鶴田 (三四七四〜三五一九)
 四七 谷口 (三五二〇〜三五八六)
 四八 黒道 (三五八七〜三六三三)
 四九 西迫 (三六三三〜三六六五)
 五〇 田ノ上 (三六六六〜三七二六)
 五一 小倉 (三七二七〜三七七五)
 五二 越路 (三七七六〜三八一三)
 五三 黒栢 (三八一四〜三八四一)
 五四 下平 (三八一四〜三九六〇)
 一 尻無、2 下毛ノ平、3 西ノ丸、

- 五六 園田 (四〇五八〜四二一六)
 五七 大坪 (四二一七〜四二九〇)
 五八 上平 (四二九一〜四二九九)
 四小迫、5 一万ヶ谷、6 琵琶園、
 7 稻荷前、8 立山、9 山神、10 灰
 石、11 上ノ平、12 深迫、13 古道、
 14 木ノ下、15 井手ノ上、16 下ノ平、
 17 下迫、18 梨木迫、19 フカサコ
 1 サンカクダン (三九九〇)、2
 ヤシキノタ (四〇〇一)、3 小川
 4 屋敷田、5 井元、6 元屋敷、7
 西屋敷、8 川端、9 西ノ丸
 1 カドノタ (四〇一〇)、2 ゴセ
 (四〇一七)、3 マサキヤ (正木屋)
 (四〇一八)、4 ㊦ナカスカ (四〇
 二七〜三一・五三〜五七)、5 セリ
 (四〇二九)、6 榊木、7 輪田、8
 小石丸、9 園田、10 井ノ尻、11 川
 端

フカサコ

五九 井手ノ上 (四一七〇〜四一八一) 1 井手ノ上、2 墓ノ下、3 園田

川ノ上、4 梨木道

六〇 内ヶ畑 (四一八二〜四三〇四)

1 尻無、2 ヤネケ迫、3 弥十迫、

4 中ノ渡、5 下ノ平、6 一ツ石、

7 内ヶ畑、8 又カリム、9 深迫、

10 上ノ平、11 貴船、12 上リ立、13

陳ヶ平

六一 向田 (四三〇五〜四三二一)

1 向手

六二 出水 (四三二二〜四三五二)

1 ヤシキ (四三四九)、2 小川 (四

三二六〜四五)、3 出水 (四三二

一・二四・二五・二七・四六・四

九、4 道ノ下 (四三四七・四八・

五〇・五一)

六三 竹ノ下 (四三五二〜四三九〇)

1 ㊦フドウダ (四三五七)、2 竹

ノ下 (四三五二〜七二)、3 扇敷

(四三四一・四二・四五・四七)、

4 定二郎 (四三四三・四六〜五二)、

5 初被圖 (四三七二〜七四)、6

宮前 (四三七五)、7 石仏 (四三七

六〜七九)

六四 仲坪 (四三九一〜四四一三)

1 仲坪 (四三九一〜九三三)、2 畠

前 (四三九四〜九六)、3 石原 (四

三九七〜四四〇二)、4 竹ノ下 (四

四〇三〜一三)

六五 垣割 (四四一四〜四四四六)

六六 曾根 (四四四七〜四四七六)

1 園田、2 曾根、3 堀副

1 ムクノキタン (四四五三)、2

ホンケ (四四七二)、3 園田 (四四

四七〜五〇・五五・五六)、4 曾根

(四四五七〜五九)、5 不動田 (フ

ドウダ (四四五二〜五四・六五・

七二)、6 大力 (四四六〇〜六四)、

7 三文午 (四四六五・六七〜七〇)、

8 門崎 (四四七一・七三〜七六)

六七 宮ノ本 (四四七七〜四五二〇)

1 イノシリ (四四七七)、2 井ノ尻

(四四七八〜八〇・八三)、3 宮ノ

本 (四四八一・八五・九三〜九九、

4 小川 (四四八四・八六)、5 園政

(四四八七〜九二)、6 宮ノ前 (四

五〇〇〜〇三・〇六・〇七)、7 三

文午 (四五〇五)、8 柳田 (四五〇

八〜一〇)

六八 園政 (四五二一〜四五五二)

1 柳田 (四五二一)、2 柳畑 (四

五二二〜一四・一八・一九)、3 小

八屋敷 (四五二五〜一七・二六、

二七)、4 園政 (四五二〇〜二四、

三六〜四九・五一)、5 堀ノ上 (四

五二八・二九・三三・三四・三五、

6 園政ノ上 (四五三〇・三一・五

〇)

六九 平原 (四五五二〜四五七〇・八一〜八四)

1 アタゴサマ (四五五五)、2 平原 (四五五二〜六六)、3 内無 (四五六七・六八・八二)、4 谷上 (四五六九・七〇)、5 小松ヶ谷 (四五八二〜八四)

七〇 野内 (四五八五〜四六二四)

1 平原 (四五九〇〜九九)、2 柳畑 (四六〇八〜一〇)、3 入道迫 (四六一〜一三・一九・二〇)

七一 内無 (四六二五〜四六五六)

1 若宮 (四六二四・二六〜三六) 2 野内 (四六二五・三八〜四一・五〇〜五二)、3 内無 (四六四二〜四九)、4 入道迫 (四六五三〜五六)

七二 入道迫 (四六五七〜四六八二)

1 入道迫 (四六五七・六五〜六八)、2 柳畑 (四六五八〜六四・四六六九〜七三)、3 平 (四六七四〜八二)

七三 平 (四六八三〜四七一八)

1 平 (四六八三〜八五・四七一〜一三)、2 筋畑 (四六八六〜八八・四七〇三〜〇六・〇九・一〇・一四・一五)、3 柳畑 (四六八九〜四七〇二)、4 柿木畑 (四七〇七・〇八・一六〜一八)

七四 竹ノ中 (四七一九〜四七四五)

1 コイチロウサマ (四七二二)、2 キリノキダン (四七二三)、3 シンタク (四七三〇)、4 カキノキダ

ン (四七四三)、5 竹ノ中 (四七一九〜二七・二九)、6 中村 (四七二八・三〇〜三三) 7 今井 (四七三三〜三六)、8 地蔵前 (四七三七・三八)、9 額迫 (四七三九〜四五)

七五 藤原 (四七四六〜四七六四)

1 釜ノ前、2 平、3 地蔵ノ前、4 柳畑、5 今井

七六 中村 (四七六五〜四七八三)

1 藤原 (四七六五・六七・六八) 2 竹ノ中 (四七六六・六九)、3 中村 (四七七〇〜七四)、4 鍛冶屋畑 (四七七五〜八三)

七七 竹林坊 (四七八四〜四七九九)

1 尾迫、2 丸山、3 鍛冶屋畑、4 竹林坊

七八 石仏 (四八〇〇〜四八三三)

1 タドヤシキ (四八〇四)、2 ゴジ (四八二九)、3 エラグチ (恵良口) (四八二二)、4 恵良 (四八〇〇〜〇二・一六〜一九・二三)、5 石仏 (四八〇三・〇六〜〇八・一〇〜一五)、6 門畑 (四八〇四・〇五・〇八)、7 内屋敷 (四八二〇・二一・三〇・三二)、8 初飯圖 (四八二二・二四〜二九)、9 屋敷 (四八三二・三三)

七九 下徳間 (四八三四〜四八六一)

1 下徳間、2 屋敷畑、3 小園、4 柳畑、5 仲山、6 弥平治、7 屋敷

八〇 小園 (四八六二〜四八八〇)

8 初級園
1 榎原 (四八六三〜六七七)、2 宮ノ上 (四八七一〜七七・八〇) 3 小園 (四八六八〜七〇・七八・七

八一 弥平治 (四八八一〜四九二二)

1 平原 (四八八六〜八九九)、2 榎畑 (四八九一〜九七七)、3 恵良 (四八九八・九九・四九〇三)、4 什林坊 (四九〇〇〜〇二二)、5 弥平治 (四九〇四〜二二)

八二 恵良 (四九一三〜四九二三)

1 恵良 (四九一六〜二〇〇)、2 平原 (四九二二〜二二三)

八三 田代 (四九二四〜四九四二)

1 末金迫、2 尾迫、3 直萱原、4 恵良、5 田代水入

八四 中須 (四九四三〜四九五五)

1 中須、2 猶原、3 柿木畑、4 田代

八五 峠 (四九五六〜五〇五一)

1 大平、2 水洞、3 峠、4 尾午迫、5 小午迫、6 今井、7 小原郷、8 籠ノ迫、9 香柴山、10 宇口迫、11 子守ノ迫、12 山神、13 中須、14 猶原、15 栗迫

八六 今井 (五〇五二〜五一四八)

1 平、2 恵良、3 猶原、4 藤原、5 今井、6 薬師前 (五一三〇〜三二二)、7 平原、8 上ノ山、9 尾迫、10 什林坊、11 堂ノ鼻、12 入道迫

八七 水迫 (五一四九〜五二六七)

1 水ヶ迫、2 小迫、3 立石、4 白曾畑、5 内無、6 小松谷、7 平原、8 野内

△ 夷 ▽

一 中山 (二〜五二)

1 ゴセダン (二二)、2 クルマヤシキ (二五)、3 メンサガリ (三二)、4 ゴジュウブ (三二八)

二 前田 (五三〜八一)

三 堀田ノ上 (八二〜二二二)

四 徳間 (二二二〜二六四)

五 御経 (二六五〜二九〇)

六 堅木原 (二九一〜二〇九)

七 恵良 (二一〇〜二二五)

八 東山 (二二六〜二二九)

九 多々良 (二二〇〜二二二)

一〇 御経辻 (二二三〜二三三)

一一 伯父ヶ迫 (二三四〜二四三)

一二 岐部 (二四四〜二七三)

一三 彦四郎 (二七四〜三〇三)

一四 東大平 (三〇四〜三一七)

一五 川面 (三一八〜三二二)

一六 迫峠 (三二三〜三二四)

一七 本抜 (三二五〜三二七)

1 テランサコ (二五〇〜五三二)

- 一八 小松迫(三二八〜三三六)
- 一九 新開(三三七〜三四四)
- 二〇 谷端(三四五〜三六三)
- 二一 宮ノ下(三六四〜三六七)
- 二二 和田(三六八〜三七四)
- 二三 大久保(三七五〜三七八)
- 二四 榎山(三七九〜三八四)
- 二五 下ノ平(三八五〜三八六)
- 二六 三子ヶ平(三八七〜三九四)
- 二七 三子ヶ迫(三九五〜三九八)
- 二八 百段尻(三九九〜四一四)
- 二九 見月河内(四一五〜四一九)
- 三〇 中道(四二〇〜四三一)
- 三一 宮ノ上(四三二〜四六〇)
- 三二 大休(四六一〜五〇四)
- 三三 向ノ山(五〇五〜五一)
- 三四 空ノ迫(五一二〜五二〇)
- 三五 栗木原(五二一〜五三〇)
- 三六 上八臺(五三一〜五五二)
- 三七 大羅野(五五三〜五五八)
- 三八 茶臼岩(五五九〜五六二)
- 三九 櫻迫(五六三〜五六六)
- 四〇 堂明(五六七〜五七一)
- 四一 南太平(五七二〜五七八)
- 四二 若宮(五七九〜五八三)

1タカイワ(五六九)

- 四三 楽庭(五八四〜六六四)
- 四四 祝儀林(六六五〜七〇五)
- 四五 祇倉谷(七〇六〜七二九)
- 四六 祇倉(七三〇〜七三六)
- 四七 大石迫(七三七〜七四二)
- 四八 金敷(七四二〜七四六)
- 四九 明迫(七四七〜七五〇)
- 五〇 印須林(七五一〜七六一)
- 五一 三段田(七六二〜七九七)
- 五二 砂子(七九八〜八二二)
- 五三 十連(八二二〜八四七)
- 五四 野添(八四八〜八五〇)
- 五五 松尾(八五一〜八五二)
- 五六 定本(八五三〜八七九)
- 五七 円徳(八八〇〜九二七)
- 五八 猿神(九二八〜九四八)
- 五九 定本迫(九四九〜九五四)
- 六〇 東南拓迫(九五五〜九五九)
- 六一 根本(九六〇〜九七七)

1 シラハゲ(五八四)、2 コーツラ(六〇九〜一一)、3 テランサコ(六一五・一六)、4 ソノダ(六四三〜四六)、5 ワカミヤ(六五〇〜五二・六六〇〜六一)

1 タボタ(七八二)、2 ナナセダ(七八七)、3 サンダ(七九七)、4 コモンゼ(七九五附近)

六二 東南弘 (九七八) 一〇一四

六三 中川原 (一〇一五) 一〇二九 1 トノマエ (一〇二四下の川)

六四 宮ノ本 (一〇三〇) 一〇三一

六五 宮山 (一〇三二) 一〇三七

六六 宮山奥 (一〇三八)

六七 水松 (一〇三九) 一〇四六

六八 東城 (一〇四七) 一〇五四

六九 藤原 (一〇五五) 一〇六四

七〇 薄原 (一〇六五) 一〇八六

七一 藤ヶ谷 (一〇八七) 一〇九二

七二 心吉 (一〇九三) 一一一三

七三 城ノ本 (一一一四) 一一六六

七四 行知弘 (一一六七) 一二二八 1 ヨセダン (一二〇四)、2 フケンタ (一二〇五)、3 センカボウ (センキボウ) (一二〇九)

七五 前花 (一二二九) 一二五五 1 オソノ (一二四六) 四九、2 センカボウ (センキボウ) (一二四六) 五三

七六 三助 (一二五六) 一二七八 1 サンスケ (一二五六) 五七

七七 松ヶ迫 (一二七九) 一三〇七 1 フネガサヨ (一二八三) 2 フナイワ

七八 尾園 (一三〇八) 一三一一

七九 奥松ヶ迫 (一三一四) 一三二六

八〇 羅根 (一三二七) 一三四七

八一 奥山 (一三四八) 一三七三

八二 奥畑 (一三七四) 一三七六

八三 石原 (一三七七) 一三八三

八四 氷ノ瀬 (一三八四) 一三九九

八五 永鶴 (一四〇〇) 一四二四

八六 石ノ内 (一四二五) 一四六八

八七 焼尾 (一四六九) 一五〇二

八八 中ノ丸 (一五〇三) 一五四五 1 チンモト (一四七五の川端)、2 ショウケダ (一四七八) 七九、3 トウハナ (一四九八)、4 ジュウギ (一五〇二)

八九 鳥越 (一五四六) 一五五八 1 ナカノマル (一五〇三) 〇七、2 ミナミ (一五一一) 3 ナカムラ (一五二四)

九〇 上原 (一五五九) 一六〇二

九一 長畑 (一六〇三) 一六一八 1 トリギンハレ (一六〇三) 〇四

九二 佐屋 (一六一九) 一六五五 1 シモチ (一六五四) 2 田の口 (一六四二) 五四、五五

九三 大平 (一六五六) 一六七四

九四 小藤 (一六七五) 一七三五 1 ナカ (一六八二)、2 タバタ (一六九四)、3 オモヤ (一七二九)、4 インキヨ (一七三四)、5 田の口 (一六八二) 八六、九二、九七、一七二九

九五 小藤 (一六七五) 一七三五

九六 小藤 (一六七五) 一七三五

九七 小藤 (一六七五) 一七三五

九八 小藤 (一六七五) 一七三五

九九 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇〇 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇一 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇二 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇三 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇四 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇五 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇六 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇七 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇八 小藤 (一六七五) 一七三五

一〇九 小藤 (一六七五) 一七三五

九五 堀堀 (一七三六) 一七五七

1 ドンシタ (二七四五)、2 コウモリ (一七五二) 五五

一四 坊落 (二四七三) 二五二一

1 ボウラク (二四九一) 二五〇五

九六 上ノ迫 (二七五八) 一八二九

九七 鍛冶迫 (二八三〇) 一九二二

1 タチイシ (一八五四)、2 ゴクゼ (一八五六) 五七、3 カンサコ (一八七三)

一五 尾鼻 (二五二二) 二五四六

1 オバナ (二五二二) 二五モンクイヤ (二五三五)

九八 桐ノ木 (一九二二) 一九五三

九九 貴船 (一九五四) 二〇〇七

一〇〇 常盤 (二〇〇八) 二〇三八

一〇一 窓岩 (二〇三九) 二〇九五

一〇二 流田 (二〇九六) 二一五五

一〇三 大畑 (二一五六) 二二四一

一〇四 庵十弘 (二二四二) 二二八三

一〇五 今夷 (二二八四) 二三一八

1 アンジュバライ (二三四二) 四三・七七 八三
1 ピワダン (二三〇二)、2 サンカクタン (二三〇四)、3 エビスサマ (二三二五)

一〇 阿弥陀越 (二六九一) 二六九三

一一 一戸 (二六九四) 二六九七

一二 平ノ多尾 (二六九八) 二七〇二

一三 荒谷 (二七〇三) 二七一三

一四 荒谷迫 (二七一四) 二七三九

一五 立花 (二七四〇) 二七六八

一六 石原 (二七六九) 二七八四

一七 小野 (二七八五) 二八一七

一八 小豆迫 (二八一八) 二八二〇

一九 芋ノ迫 (二八二二) 二八三九

二〇 差次 (二八四〇) 二八七四

1 シンタク (二八五六)、2 キド (二八六七)、3 ミヤノウエ (二八六九)

一〇六 隠山 (二三一九) 二三三六
一〇七 殿迫 (二三三七) 二三三九
一〇八 影平 (二三四〇) 二三六三
一〇九 城ノ迫 (二三六四) 二三七三
一一〇 石城 (二三七四) 二四〇八
一一一 中岩 (二四〇九) 二四一三
一一二 萱ノ木 (二四一四) 二四四四
一一三 紫竹 (二四四五) 二四七二

1 ホツケ (二三五九) 周辺

一七 田代 (二五六五) 二五九〇

1 イワンシタ (二五七〇)、2 タデ (二五七五)

一〇八 常盤 (二〇〇八) 二〇三八

1 センドバレ (二〇〇一) 二〇三三

一八 田中 (二五九一) 二六二四

1 オハタ (二六〇五)

一〇一 窓岩 (二〇三九) 二〇九五

一一九 妙現 (二六二五) 二六九〇

一九 妙現 (二六二五) 二六九〇

1 カサンクイヤ (二六二九)、2 シンタク (二六三六) 3 シュンタ (二六五八) 六一

一〇三 大畑 (二一五六) 二二四一

一一〇 阿弥陀越 (二六九一) 二六九三

一一一 一戸 (二六九四) 二六九七

一二 平ノ多尾 (二六九八) 二七〇二

一〇四 庵十弘 (二二四二) 二二八三

一三 荒谷 (二七〇三) 二七一三

一四 荒谷迫 (二七一四) 二七三九

一五 立花 (二七四〇) 二七六八

一〇五 今夷 (二二八四) 二三一八

一六 石原 (二七六九) 二七八四

一七 小野 (二七八五) 二八一七

一八 小豆迫 (二八一八) 二八二〇

一〇六 隠山 (二三一九) 二三三六

一九 芋ノ迫 (二八二二) 二八三九

二〇 差次 (二八四〇) 二八七四

二一 シンタク (二八五六)、2 キド (二八六七)、3 ミヤノウエ (二八六九)

- 一三一 一ノ迫 (二八七五) 二九一一) 1 イツショバタケ (二八七七)
- 一三二 宮ノ上 (二九一二) 二九四七) 1 テラヤシキ (二九四五)
- 一三三 梅ノ木 (二九四八) 二九五九) 1 ニシノハタ (二九五六), 2 ウ
チャシキ (二九五九)
- 一三四 西ノ畑 (二九六〇) 二九六六)
- 一三五 横嶽 (二九六七) 三〇〇〇)
- 一三六 迫 (三〇〇一) 三〇四三)
- 一三七 中 (三〇四四) 三〇六五)
- 一三八 木浦松 (三〇六六) 三〇七七)
- 一三九 城地 (三〇七八) 三一一八)
- 一四〇 養弘 (三一一九) 三二三九)
- 一四一 太郎ノ迫 (三一四〇) 三二六四)
- 一四二 尾塔 (三一六五) 三一九八)
- 一四三 峠 (三一八九) 三二一七)
- 一四四 内立 (三二一八) 三二二六)
- 一四五 藤原 (三二二七) 三二六二)
- 一四六 遠畑 (三二六三) 三二六八)
- 一四七 平曾 (三二六九) 三二九五)
- 一四八 薄丸 (三二九六) 三三一)
- 一四九 永四郎 (三三一二) 三三三二)
- 一五〇 半ノ田 (三三三二) 三三四八)
- 一五一 向山 (三三四九) 三三五二)
- 一五二 外ノ迫 (三三五二) 三三六〇)
- 一五三 割石 (三三六一) 三三七二)
- 一五四 日懸 (三三七三) 三三九一)
- 一五五 竹ノ中 (三三九二) 三四〇三)
- 一五六 桑ノ木 (三四〇四) 三四五〇)
- 一五七 尾園 (三四五一) 三四九一)
- 一五八 草木迫 (三四九二) 三五〇七)
- 一五九 西大平 (三五〇八) 三五一一)
- 一六〇 板井跡原 (三五一四) 三五二二)
- 一六一 下治郎 (三五二二) 三五二八)
- 一六二 道園 (三五二九) 三五五五)
- 一六三 中園 (三五五六) 三六一六)
- 一六四 谷ノ迫 (三六一七) 三六五〇)
- 一六五 板井箕ヶ平 (三六五一) 三六五八)
- 一六六 幸録 (三六五九) 三六八九)
- 一六七 力上 (三六九〇) 三七二九)
- 一五五 1 サンカクダン (三六九二), 2
カキノキダン
- 一四〇 1 キウラマツ (三〇九九), 2 ハ
サコ (三一一大), 3 フルヤシキ
(三一三七)
- 一四一 1 イツセントア (三一二四), 2 ハ
ナタ (三一三四), 3 リュウジン
ブチ (三一二四脇の河の瀬)
- 一四二 1 オト (三二九〇)
- 一五五 1 ムセギレ (三三六六)
- 一五六 1 マエンモリ (三三七三・七五
の川拾い), 2 トウモト (三三八
〇・三三八一・八四)
- 一五七 1 シミズ (三三九六), 2 ヒカケ
(三三九九)
- 一五八 1 タナカ (三四二二), 2 ドウモ
ト (三四二六)
- 一六四 1 ホキノシタ (三五六九・七〇),
2 ウェンサコ (三五八二), 3 ナ
カゾノ (三五九三) 九五・三六
〇〇・〇一一)

- 一六八 板井中塚(三七三〇)〜三七六五
- 一六九 平原(三七六六)〜三七八四
- 一七〇 分銅坊尻(三七八五)〜三七八八
- 一七一 板井(三七八九)〜三八〇四
- 一七二 奥分銅坊(三八〇五)〜三八二六
- 一七三 板井河内(三八二七)〜三八三一
- 一七四 尾群(三八三二)〜三八三七
- 一七五 丸岩(三八三八)〜三八四一
- 一七六 黒麦迫(三八四二)〜三八五六
- 一七七 奥五反畑(三八五七)〜三八七九
- 一七八 女夫石(三八八〇)〜三八八五
- 一七九 湯船(三八八六)〜三八九七
- 一八〇 五反畑(三八九八)〜三九一七
- 一八一 中板井(三九一八)〜三九五三
- 一八二 湯船尻(三九五四)〜三九六七
- 一八三 小原(三九六八)〜三九八二
- 一八四 川淵(三九八三)〜四〇一一
- 一八五 中ノ坊(四〇一二)〜四〇五〇
- 一八六 西(四〇五一)〜四〇八六
- 一八七 道ノ下(四〇八七)〜四一一三
- 一八八 西ノ上(四一二四)〜四一三六
- 一八九 塚迫(四一三七)〜四一七九
- 一九〇 寺迫(四一八〇)〜四一八七
- 一九一 藁林(四一八八)〜四一九九
- 一九二 下ノ川(四二〇〇)〜四二二三
- 一九三 山口(四二二四)〜四二八六
- 一九四 前(四二八七)〜四三三八
- 一九五 中平(四三八九)〜四四〇三
- 一九六 城成(四四二四)〜四四八九
- 一九七 鬼ヶ城(四四九一)〜四五二四
- 一九八 北荒谷(四五二五)〜四六二七
- 一九九 奥山(四六二九)〜四六六二
- 二〇〇 隣迫(四六六六)〜四七八九
- 二〇一 谷(四七九〇)〜四八六七
- 二〇二 平所(四八六八)〜四九九五
- 二〇三 堀堀(四九九七)〜五〇七九
- 二〇四 平田尾(五〇八二)〜五一三七
- 二〇五 城地(五一三八)〜五一七二
- 二〇六 五太郎(五一七三)〜五二六五
- 二〇七 中野(五二六六)〜五四〇一
- 二〇八 長迫(五四〇二)〜五四〇九
- 二〇九 内立(五四五七)〜五四九九
- 一ナカンボウ(四〇三六)・2サ
- ガリ(四〇四〇)
- 1イワツボ(四八六七)
- 1ウエノシモチ(四八九一)・2
- ホンケ(四八九四)・3シシタク(四八九七)・4ナカマ(四八九九)・5ウエノカンテ(四九〇八)
- 1コンピラサマ(五二〇三)
- 1ウトノマエ(五三七五)

△ 羽根 △

- 一 丸山 (一〇一三三)
 二 西ノ嶽 (一三四〇、二七七)
 三 江ノ上 (二七八〇、四五二)
 四 新貝 (四五三〇、五九〇)
 五 秋成 (五九一〇、七三七)
 六 廣永 (七三八〇、九三二)
 七 殿ヶ迫 (九三二〇、一〇八九)
 八 楠ヶ迫 (一〇九〇、一一九九)
 九 笹ヶ迫 (一二〇〇、一二七)
 一〇 船ヶ迫 (一二七二、一三五八)
 一一 儀丁場 (一三五九、一四四〇)
 一二 石原 (一四四一、一四八七)
 一三 開 (一四八八、一六〇五)
 一四 赤土 (一六〇六、一六九〇)
 一五 川内 (一六九一、一七七四)
 一六 早尻 (一七七五、一九三四)
 一七 水毛 (一九三五、二〇九四)
 一八 平佐 (二〇九五、二二一六)
 一九 小川内 (二二一七、二二九八)
 二〇 四垣 (二二九九、二三六五)

1 ショウヤ (庄原) (六二四)
 1 マツモトヤ (松木屋) (七七二)

1 エベスヤ (一九三二)、2 カミ
 ノサコ (一七八七付近)、3 コウゴ
 イシ (一八二一付近)
 1 ナカヤ (一九四〇)、2 イズミ
 ヤ (一九五九)

※ マカヤバタケ

- 二一 二田 (二三六六、二四二四)
 二二 法常 (二四二五、二五〇九)
 二三 清田迫 (二五一〇、二五八九)
 二四 草場 (二五九〇、二七〇六)
 二五 神出 (二七〇七、二八八一)
 二六 宮ノ本 (二八八二、二九六四)

二七 佐古 (二九六五、三一四八)

- 二八 中塚 (三一四九、三四一八)
 二九 焼野 (三四一九、三五九二)
 三〇 蛇谷 (三五九三、三七五三)

- 三一 今宮 (三七五三、三八四九)
 三二 松津 (三八五〇、四〇〇六)

1 ココノセ (二八八二)、2 ツカノ
 モト (二八九二)、3 ヨドテ (横
 土手) (羽根川から二九一一に至る
 道)

1 ムロダ (三〇〇九、一〇)、2 吉
 野屋 (三〇四〇)

1 カンナリ (三六二一、二七)、2
 ドンウシロ (三六五二、五四、五
 七)、3 オノハナ (三七三三)

1 オシアガリ (三八九三のうち、
 脚の突端に近い所)、2 フジワラ (三
 八九三、三八九七の一部、三九〇
 三)、3 ハカンツジ (三九三七、四
 〇)

△ 堅 来 ▽

7 川崎屋 (二五七八)、8 大黒屋 (二六〇七)

一 石橋 (二〇二二)

二 日平 (二二二〇、二二二一、二二二二)

三 打越 (三六一〇、三六一一、三六一二)

四 富松 (五七五、五八〇、五八五)

五 中尾 (五九〇、五九一、五九二)

六 高尾 (七二二、七二七、七三二)

七 大丸 (七八五、七八六、七八七)

八 影平 (八二二、八二三、八二四)

九 佐古 (九二六、九二七、九二八)

1 ウチゴシ (三三三)

1 コウチ (七二二)

1 カミノタ (八九五、八九六、八九七)

1 オダ (二〇七七)、2 シンタ (二〇四)

一〇 東浜田 (一〇九一、一〇九二、一〇九三)

一一 尾崎 (二一九四、二一九五、二一九六)

一二 浜田 (二三四五、二三四六、二三四七)

1 ヤネンシタ (二二一六)

1 中村屋 (二二一九)

1 〇デキリ (二三八八)、2 ハマダ (二二九二)、3 シモンタ (二四一)

二、4 大福 (四九九八の一部)

一三 下洪 (二四三〇、二四三一、二四三二)

一四 重光 (二四八九、二四九〇、二四九一)

一五 今禅 (二五三二、二五三三、二五三四)

1 ミヤバタケ (二五四〇、二五四一、二五四二、二五四三、二五四四、二五四五)

2 ハマンシリ (二五五〇)、3 〇デキリ (二五五五)、4 クボタ (二五六八、二五六九、二五七〇)

5 カワノフチ (二五七二)、6 ミチバタ (二五七三、二五七四、二五七五)

一六 上ノ平 (二六三一、二六三二、二六三三)

一七 東金林 (二七三五、二七三六、二七三七)

一八 奥金林 (二八八九、二八九〇、二八九一)

一九 西金林 (二九五四、二九五五、二九五六)

二〇 米吉 (二〇九三、二〇九四、二〇九五)

二一 八ツ面 (二一九二、二一九三、二一九四)

二二 明迫 (二三五〇、二三五一、二三五二)

二三 市成 (二三八八、二三八九、二三九〇)

二四 大平 (二四四七、二四四八、二四四九)

二五 尾迫 (二五一一、二五一二、二五一三)

二六 前田 (二六三八、二六三九、二六四〇)

二七 行常 (二七七八、二七七九、二七八〇)

二八 樋ノ口 (二八五七、二八五八、二八五九)

二九 貴崎 (二九五三、二九五四、二九五五)

三〇 弘川 (三〇八九、三〇九〇、三〇九一)

三一 請 (三二四〇、三二四一、三二四二)

三二 西弘川 (三二九三、三二九四、三二九五)

三三 岡ノ上 (三五一四、三五一五、三五一六)

三四 芽発 (三六九〇、三六九一、三六九二)

1 シンタク (三三七三)

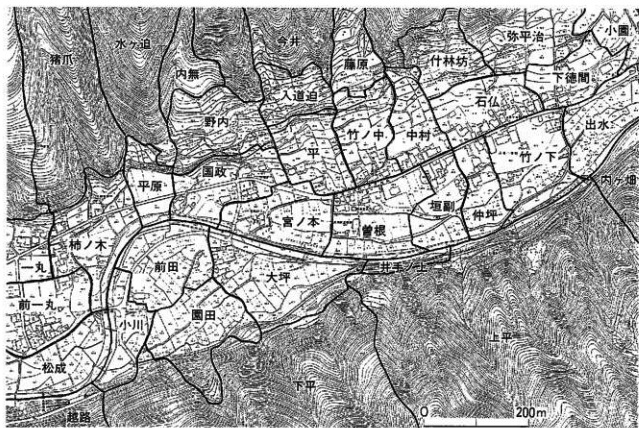
1 ホンケ (三三四九)、2 インキヨ (三三五二)、3 ショウヤ (三三八〇)

1 シンデン (三六三八、四〇〇五)

- 三五 多々羅 (三七四六〜三八五五) 1 ドヤシキ (三七九三〜九五)
- 三六 墓ノ谷 (三八五六〜三九〇二)
- 三七 香ノ木 (三九〇三〜四〇三六)
- 三八 田井 (四〇三七〜四一〇七)
- 三九 炭田 (四一〇八〜四一六〇)
- 四〇 徳光 (四一六一〜四三〇六)
- 四一 松ケ平 (四三〇七〜四四一九)
- 四二 堂ノ本 (四四二〇〜四四六三)
- 四三 口ノ入 (四四六四〜四五一一)
- 四四 五田田 (四五一九〜四五九〇)
- 四五 西浜田 (四五九一〜四六六七)
- 四六 向 (四六六八〜四七六一)
- 四七 小谷 (四七六二〜四八七四)
- 四八 大林 (四八七五〜四九九七)
- 1 トクミツ (四二二三) 2 オオタ (四一五二)、3 クチノイリ (四一五七)
- 1 トシノカミ (四四六七・六八)
- 2 ハシノツメ (四四七一・七三)
- 3 ナギノウチ (四四八二・八八・八九)
- 1 ムコンヤマ (四五四六)、2 ◎ミヤノウラ (四五九一・九三)

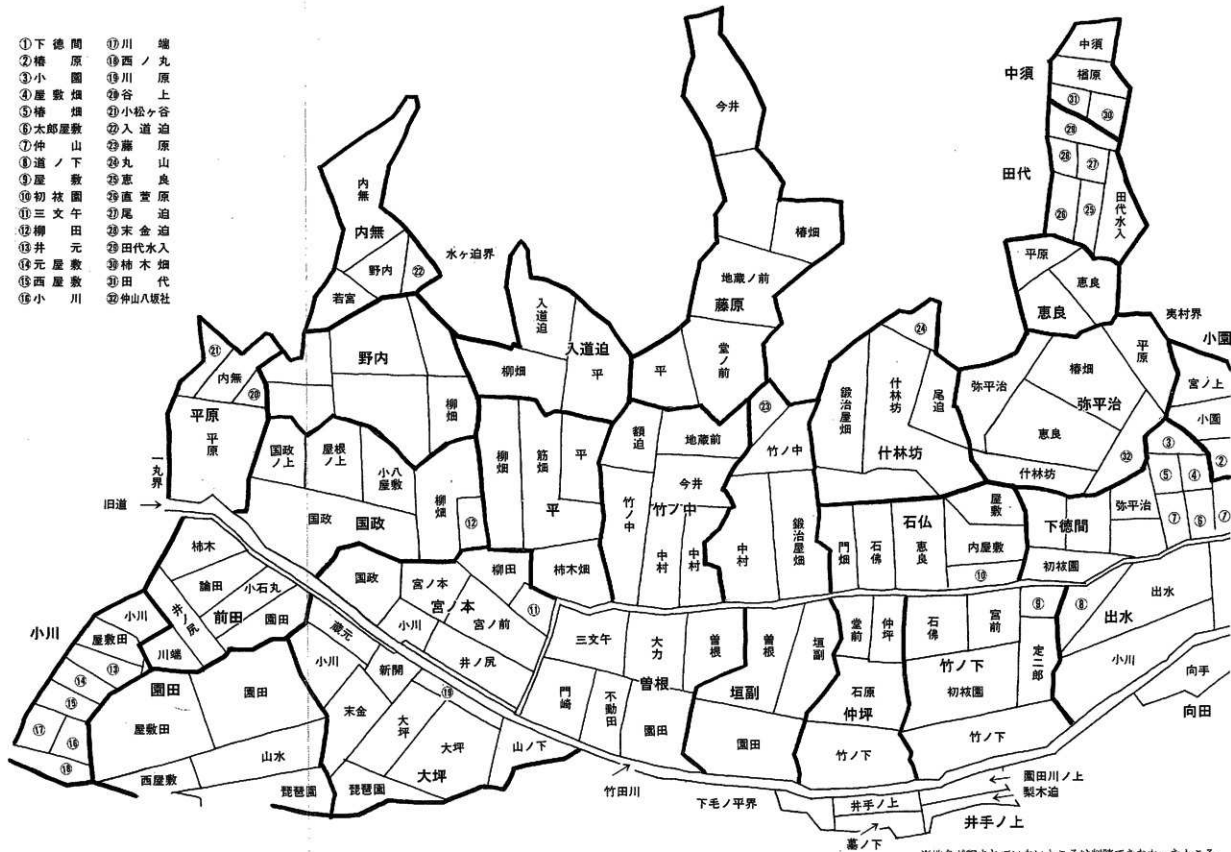
△ 小畑 ▽

- 一 ヒヨドリ (一〜七六)
- 二 妙見尻 (七七〜一四六)
- 三 平迫 (一四七〜二四一)
- 四 大島 (二四二〜三〇二)
- 五 板迫 (三〇二〜四〇六)
- 六 向イ (四〇七〜四七八)
- 七 結ケ追 (四七九〜五二二)
- 八 カケ林 (五二二〜六三三)
- 九 門出 (六三三〜七七六)
- 一〇 内ケ追 (七七七〜八一二)
- 一一 陣ケ平 (八一三〜八四九)
- 一二 胸反り (八五〇〜九八三)
- 一三 川久保 (九八四〜一三三八)
- 一四 ヤシキ (一三九〜二二二)
- 一五 大平 (二二二〜二五四)
- 一六 船迫 (二五五〜三三〇)
- 一七 古寺 (三三一〜三七八)
- 一八 廣瀬町 (三七九〜一四七〇)
- 1 テラノシタ (二八五)、2 オイマブン (三〇一)、3 ムセギレ (三三四)、4 ソノダ (三八八)
- 1 ニタンギレ (一三三八)
- 1 ショウヤシキ (一三八七)



31 長小野地区小字境界図

- ① 下 德 間
- ② 權 原 原
- ③ 小 園 園
- ④ 屋 堂 畑
- ⑤ 權 畑 畑
- ⑥ 太 郎 屋 敷
- ⑦ 仲 山 下
- ⑧ 道 ノ 下
- ⑨ 屋 枝 敷
- ⑩ 初 三 文
- ⑪ 柳 田 元
- ⑫ 井 屋 敷
- ⑬ 元 屋 敷
- ⑭ 西 屋 敷
- ⑮ 小
- ⑯ 川 ノ 原
- ⑰ 等 谷
- ⑱ 小 谷 ヶ
- ⑲ 入 道 泊
- ⑳ 藤 原 山
- ㉑ 丸 原 山
- ㉒ 志 直 原
- ㉓ 尾 金 迫
- ㉔ 田 代 木
- ㉕ 田 代 水
- ㉖ 仲 山 八
- ㉗ 八 幡 社



※地名が記されていないところは利録できなかったところ。また、太字は大字名。

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

報告書第 21 集

豊後國香々地荘の調査 資料編

発行日 平成 10 年 3 月 31 日

発行 大分県立宇佐風土記の丘

歴史民俗資料館

宇佐市大字高森字京塚 〒 872 - 0101

Tel 0978 (37) 2100

印刷 明治印刷株式会社 607

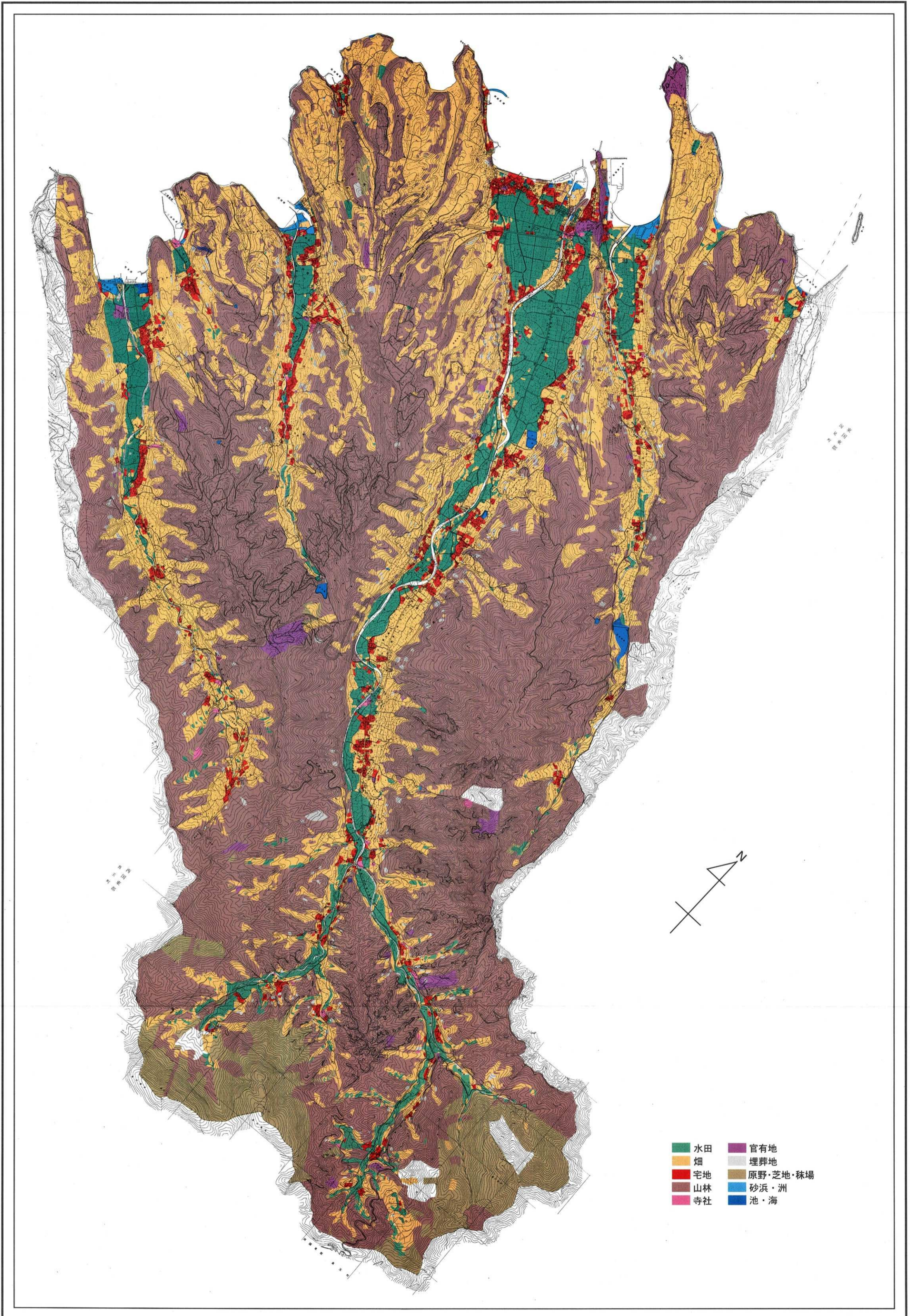
Tel 0978 (38) 0135

豊後國香々地莊の調査

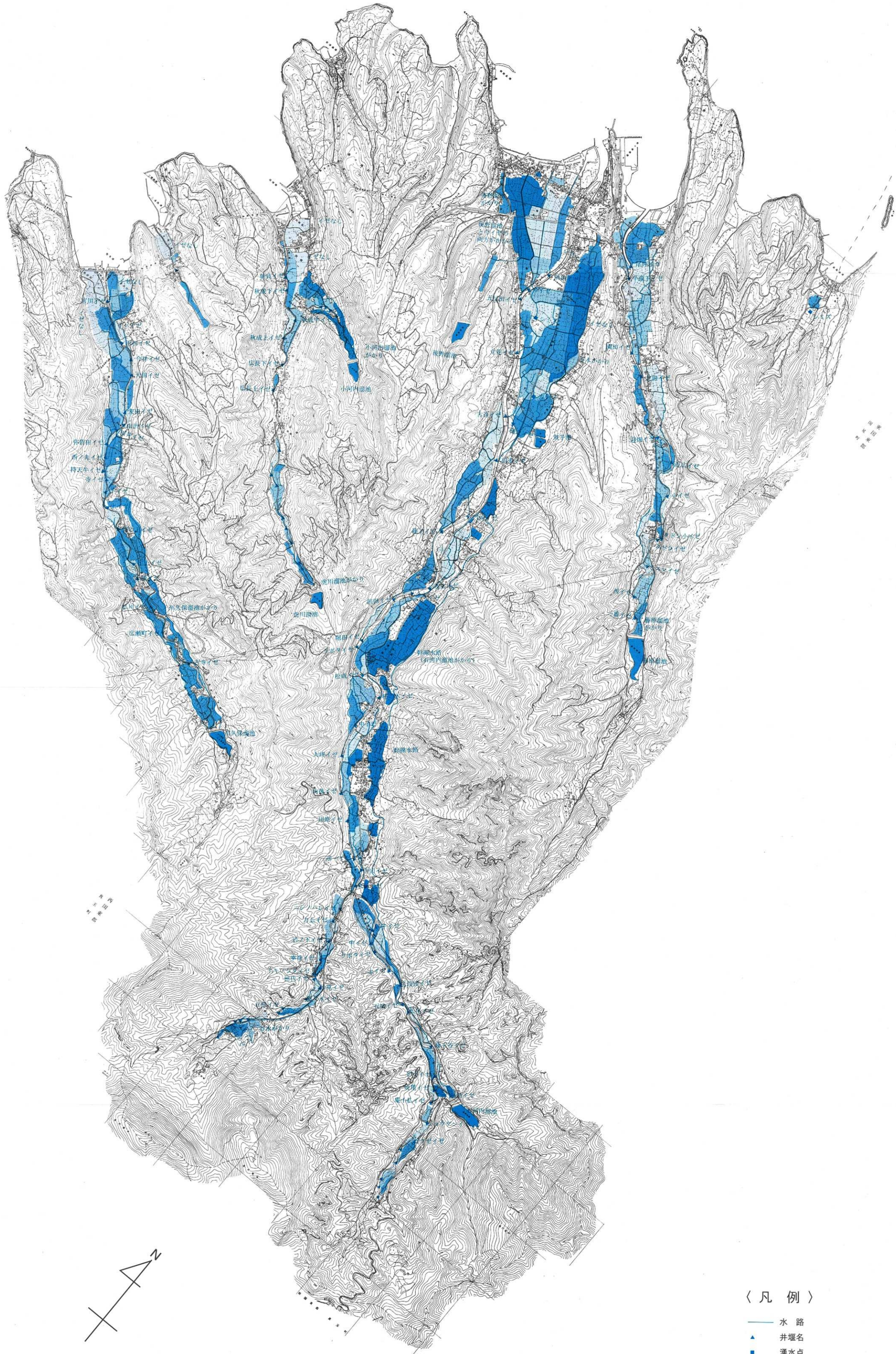
資料編

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

報告書第21集



- | | |
|----|----------|
| 水田 | 官有地 |
| 畑 | 埋葬地 |
| 宅地 | 原野・芝地・秣場 |
| 山林 | 砂浜・洲 |
| 寺社 | 池・海 |



〈 凡 例 〉

- 水 路
- ▲ 井堰名
- 湧水点
- 水がかりの範囲



[凡例]
 文 字 小字名 水路
 ——— 小字界

1:1,000

記号
 〇 尾塔
 □ 城地
 〇 日懸イセ
 〇 日懸
 〇 割石
 〇 半ノ田
 〇 永四郎
 〇 竹ノ中
 〇 尾園
 〇 梅ノ木
 〇 西ノ畑
 〇 横森
 〇 追
 〇 中
 〇 城地
 〇 太郎ノ迫
 〇 尾塔

大分県立宇佐風土記の館